



令和元年度  
南海トラフ地震  
についての県民意識調査



# 目 次

I	調査の概要	1
II	標本構成	2
III	調査結果	
	この冊子の読みかた	3
第1章	南海トラフ地震について	
1	南海トラフ地震への関心度	4
2	南海トラフ地震が発生する仕組み（メカニズム）の認知度	9
3	地震時の心配事	11
4	津波避難のタイミング	15
5	津波の速さの認知	18
6	防災情報を確実に提供する方法	21
第2章	南海トラフ地震が発生したときの行動について	
1	突然地震が発生した時の行動	25
2	地震が突然発生したときの自分自身の安全状況	27
3	地震が発生したときの避難行動	30
4	家族との安否確認手段	33
5	地震発生後の防災活動への参加	35
第3章	南海トラフ地震臨時情報が発せられたときの行動について	
1	「南海トラフ地震臨時情報」の認知	40
2	地震への備えの再確認	43
3	事前避難への対応	44
第4章	日ごろの防災対策について	
1	ローリングストック法の認知	47
2	災害時に利用できる食料の備蓄	51
3	一週間分の食糧の備蓄の有無	59
4	災害時に利用できる飲料水の備蓄	63
5	携帯トイレ・簡易トイレの備蓄	70
6	地震に備えた家具類の固定	74
7	ブロック塀・門柱などの安全点検	77
8	南海トラフ地震に備えての防災対策	81
9	建物や家財に関わる保険加入状況	89
10	災害対策の相談先	92
11	避難地の認知	95

第5章	住宅の耐震補強について	
1	住宅の構造と耐震診断	99
2	『プロジェクト「TOUKAI（倒壊）—0（ゼロ）』の認知	102
第6章	自主防災組織・防災訓練について	
1	自主防災組織への加入と活動状況	105
2	過去1年間の地震防災訓練への参加状況	113
第7章	避難所について	
1	避難生活に関する認識	121
2	避難生活における心配事	123
第8章	その他	
1	地震防災に必要な情報の入手状況	124
2	今後の行政への要望	126
(付)	調査票（単純集計結果）	128

I 調査の概要

II 標本構成



# I 調査の概要

## 1 調査の目的

静岡県民の南海トラフ地震に対する防災対策の実施状況や対応・行動等を調査し、その意識の実態や経年的意識の変化等を把握することにより、地震防災に係る施策を検討する上での基礎的な資料を得るため。

## 2 調査の内容

- (1) 南海トラフ地震について
- (2) 南海トラフ地震が発生したときの行動について
- (3) 南海トラフ地震臨時情報が発せられたときの行動について
- (4) 日ごろの防災対策について
- (5) 住宅の耐震補強について
- (6) 自主防災組織・防災訓練について
- (7) 避難所について
- (8) その他

## 3 調査の設計

- (1) 調査地域 静岡県内全域
- (2) 調査対象 県内に在住する満 20～74 歳（抽出時点）の個人
- (3) 標本数 2,000
- (4) 抽出方法 選挙人名簿から抽出
- (5) 調査方法 郵送法（配布及び回収）
- (6) 調査時期 令和元年 11 月 13 日～12 月 13 日
- (7) 調査機関 株式会社東京商工リサーチ

## 4 回収結果

- (1) 調査数（率） 2,000（100.0%）
- (2) 有効回答数（率） 1,073（53.7%）

## II 標本構成

### 1 性別

	全 体	性別			
		男性	女性	無回答	
全 体	1073 100.0	511 47.6	544 50.7	18 1.7	
地 域	賀茂地域	24 100.0	8 33.3	16 66.7	- -
	東部地域	316 100.0	135 42.7	181 57.3	- -
	中部地域	324 100.0	180 55.6	144 44.4	- -
	西部地域	391 100.0	188 48.1	203 51.9	- -

### 2 年齢

	全 体	年齢						無回答	
		20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上		
全 体	1073 100.0	62 5.8	114 10.6	227 21.2	229 21.3	277 25.8	145 13.5	19 1.8	
地 域	賀茂地域	24 100.0	- -	2 8.3	7 29.2	6 25.0	7 29.2	2 8.3	- -
	東部地域	316 100.0	20 6.3	32 10.1	61 19.3	59 18.7	91 28.8	53 16.8	- -
	中部地域	324 100.0	26 8.0	35 10.8	67 20.7	78 24.1	81 25.0	37 11.4	- -
	西部地域	391 100.0	16 4.1	45 11.5	92 23.5	86 22.0	98 25.1	53 13.6	1 0.3

### 3 職業

	全 体	職業							無回答	
		正社員として勤務	正社員以外として勤務	自営業	農林漁業経営者	学生	無職	その他		
全 体	1073 100.0	406 37.8	246 22.9	84 7.8	12 1.1	13 1.2	248 23.1	42 3.9	22 2.1	
地 域	賀茂地域	24 100.0	7 29.2	5 20.8	5 20.8	1 4.2	- -	4 16.7	2 8.3	- -
	東部地域	316 100.0	96 30.4	88 27.8	21 6.6	2 0.6	3 0.9	86 27.2	18 5.7	2 0.6
	中部地域	324 100.0	145 44.8	64 19.8	24 7.4	5 1.5	3 0.9	69 21.3	13 4.0	1 0.3
	西部地域	391 100.0	158 40.4	89 22.8	34 8.7	4 1.0	7 1.8	89 22.8	9 2.3	1 0.3

### 4 居住期間

	全 体	居住期間			
		10年未満	10年以上	無回答	
全 体	1073 100.0	31 2.9	1024 95.4	18 1.7	
地 域	賀茂地域	24 100.0	2 8.3	22 91.7	- -
	東部地域	316 100.0	16 5.1	300 94.9	- -
	中部地域	324 100.0	7 2.2	317 97.8	- -
	西部地域	391 100.0	6 1.5	385 98.5	- -

### Ⅲ 調 査 結 果



## この冊子の読みかた

- 1 結果は百分率で表示し、小数第2位を四捨五入した。四捨五入の結果、個々の比率の合計と全体を示す数値とが一致しないことがある。
- 2 数値やグラフの中の「件数」、「N」（number of cases の略）は回答者総数（あるいは分類別の該当者数）を示し、回答比率はこれを 100% で表した。
- 3 クロス集計のコメントについて、N 数が 10 以下のものはコメントしない。
- 4 標本誤差（サンプル誤差）はおおよそ下表のとおりである。

$$e = 2 \sqrt{\frac{P(1-P)}{n}}$$

ε : 標本誤差

n : 標本の大きさ

P : 回答比率

回答の比率	基数	標本誤差 (%)	信頼範囲 (%)
10% (90%)	1,073	±1.8	8.2~11.8 (88.2~91.8)
20% (80%)	1,073	±2.4	17.6~22.4 (77.6~82.4)
30% (70%)	1,073	±2.8	27.2~32.8 (67.2~72.8)
40% (60%)	1,073	±3.0	37.0~43.0 (57.0~63.0)
50%	1,073	±3.1	46.9~53.1

- 5 質問の末尾に（○は3つまで）および（○はいくつでも）とあるのは、1人の対象者に2つ以上の回答を認めたもので、その百分率の合計は100%を超える場合がある。
- 6 調査対象者の属性に無回答があるため、各図表の内訳の合計が全体の回答者数と異なる場合がある。無回答は全体の比率計算に含めている。
- 7 「調査地域」は、県内の市町を次の4地域に分類した。

調査地域	市町
賀茂地域 6市町	下田市、東伊豆町、河津町、南伊豆町、松崎町、西伊豆町
東部地域 14市町	沼津市、熱海市、三島市、富士宮市、伊東市、富士市、御殿場市、裾野市、伊豆市、伊豆の国市、函南町、清水町、長泉町、小山町
中部地域 7市町	静岡市、島田市、焼津市、藤枝市、牧之原市、吉田町、川根本町
西部地域 8市町	浜松市、磐田市、掛川市、袋井市、湖西市、御前崎市、菊川市、森町

- 8 本調査は内閣府の下記調査と比較を行っている。

調査名	防災に関する世論調査
調査対象	全国の日本国籍を有する18歳以上の者 3,000人 有効回収数 1,839人（回収率61.3%）
調査期間	平成29年11月16日～11月26日（調査員による個別面接聴取）
調査目的	防災に関する国民の意識を把握し、今後の施策の参考とする。
公開機関	内閣府政府広報室
公開日	平成30年1月

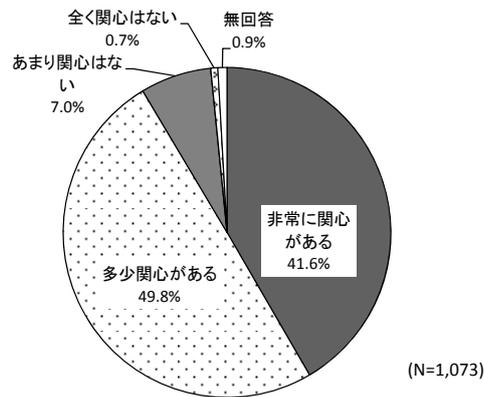
内閣府調査との比較は問3、問23-1、問29、問29-2の設問で引用している。

# 第1章 南海トラフ地震について

## 1 南海トラフ地震への関心度

問1 あなたは現在、南海トラフ地震にどの程度の関心を持っていますか。(○は1つ)

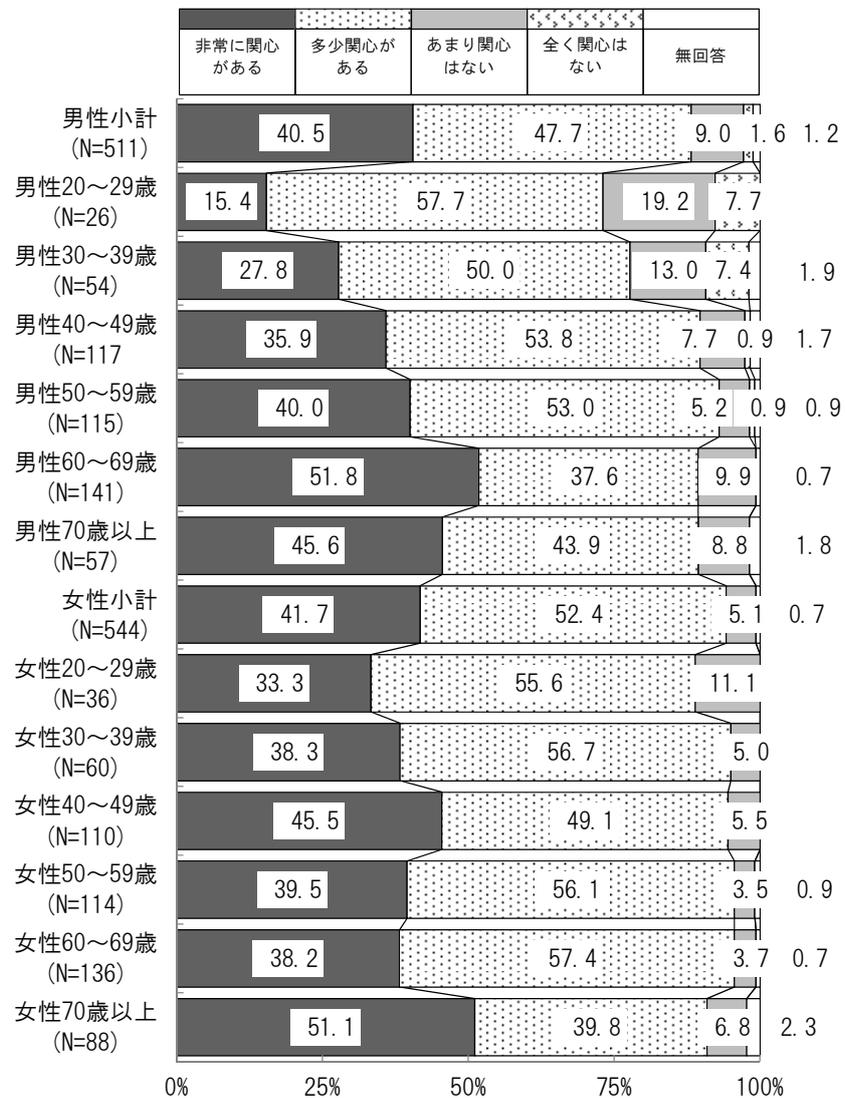
【(図表 1-1) 南海トラフ地震への関心度 単純集計】



南海トラフ地震への関心度についてたずねたところ、「非常に興味がある」(41.6%)と「多少興味がある」(49.8%)を合わせた91.4%が関心をもっている。

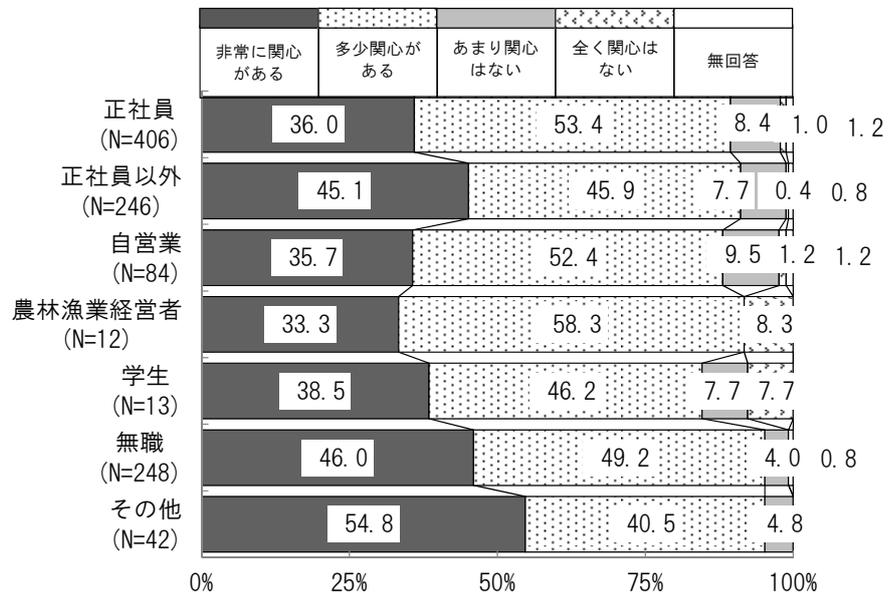
性・年齢別でみると、「非常に関心がある」については、男性・女性ともに高齢層が高く、『男性60～69歳』は51.8%、『女性70歳以上』は51.1%となっている。一方「あまり関心はない」と「全く関心はない」の合計は、『男性20～29歳』（26.9%）が他の年齢層に比べ高くなっている。

【（図1-2）南海トラフ地震への関心度 性・年齢別】



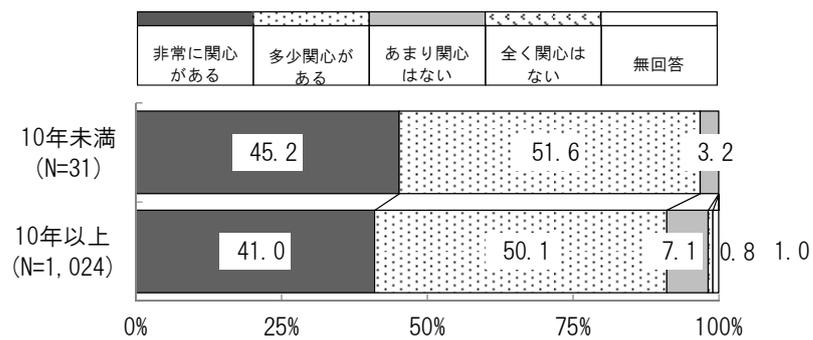
職業別でみると、「非常に関心がある」と「多少関心がある」の合計は『無職』（95.2%）が他の職業に比べ高くなっている。

【（図 1-3）南海トラフ地震への関心度 職業別】



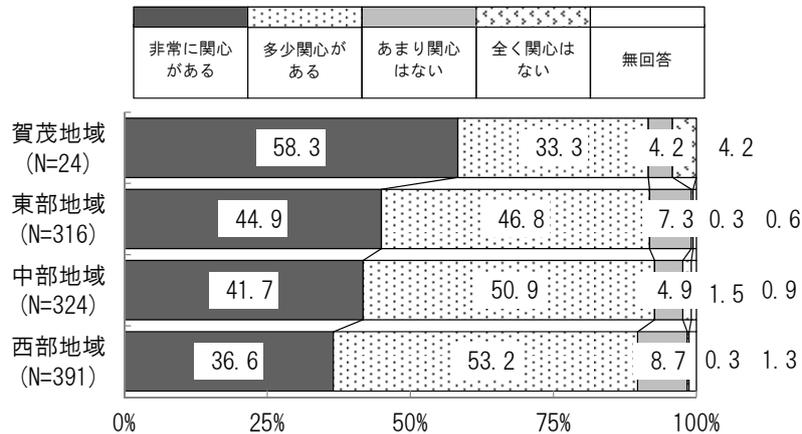
居住期間別でみると、「非常に関心がある」は『10年未満』（45.2%）が『10年以上』（41.0%）より4.2ポイント高くなっている。

【（図 1-4）南海トラフ地震への関心度 居住期間別】



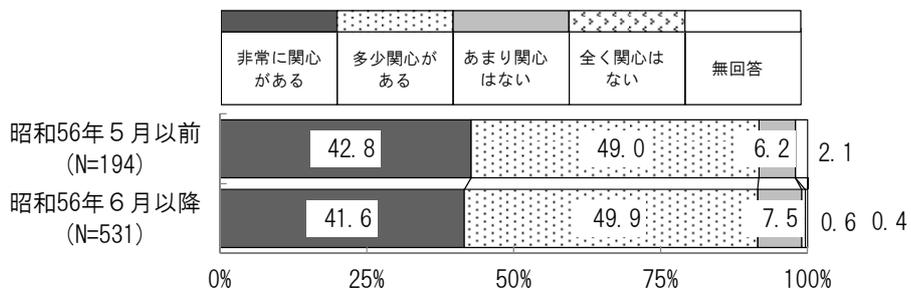
地域別でみると、「非常に関心がある」については、『賀茂地域』(58.3%)が高く、その他の地域では「多少関心がある」が『中部地域』(50.9%)、『西部地域』(53.2%)と半数を超えて高くなっている。

【(図1-5) 南海トラフ地震への関心度 地域別】



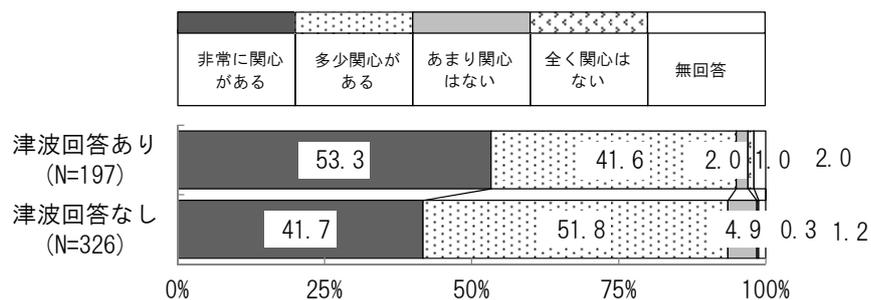
昭和56年5月以前建築と昭和56年6月以降との比較でみると、大きな差はみられない。

【(図1-6) 南海トラフ地震への関心度  
昭和56年5月以前建築と昭和56年6月以降との比較】



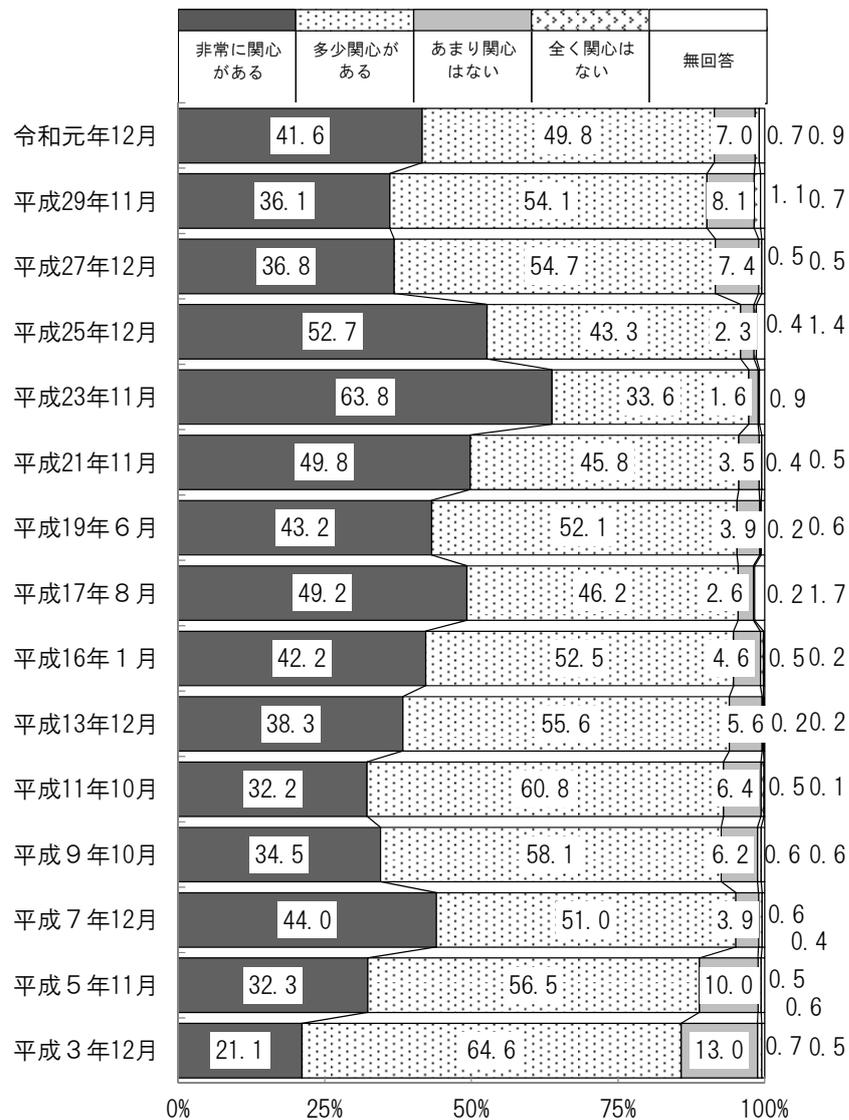
予想される被害「津波」とそれ以外の回答者別でみると、「非常に関心がある」については『津波回答あり』が53.3%、『津波回答なし』が41.7%と『津波回答あり』が11.6ポイント高くなっている。

【(図1-7) 南海トラフ地震への関心度  
予想される被害「津波」とそれ以外の回答者別】



経年比較でみると、「非常に関心がある」は、東日本大震災が起きた平成23年11月調査(63.8%)以降、下降傾向であったが、今回の調査結果(41.6%)は上昇に転じている。

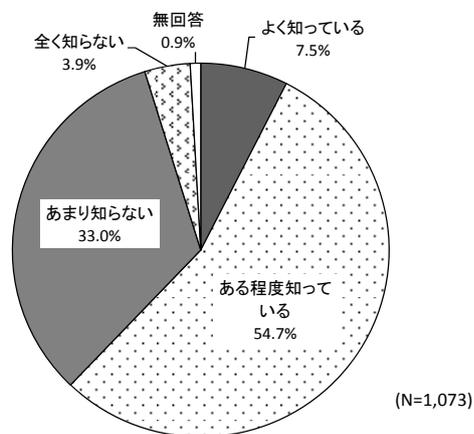
【(図1-8) 南海トラフ地震への関心度 経年比較】



## 2 南海トラフ地震が発生する仕組み（メカニズム）の認知度

問2 あなたは、南海トラフ地震が発生する仕組み（メカニズム）を知っていますか。（○は1つ）

【（図表 2-1）南海トラフ地震が発生する仕組み（メカニズム）の認知度 単純集計】



南海トラフ地震が発生する仕組み（メカニズム）の認知についてたずねたところ、「ある程度知っている」（54.7%）が最も高く、次いで「あまり知らない」（33.0%）、「よく知っている」（7.5%）、「全く知らない」（3.9%）の順になっている。

経年比較でみると、「合計認知」（「よく知っている」＋「ある程度知っている」）は平成 29 年 11 月の前回調査（56.8％）に比べると 5.3 ポイント高くなっている。

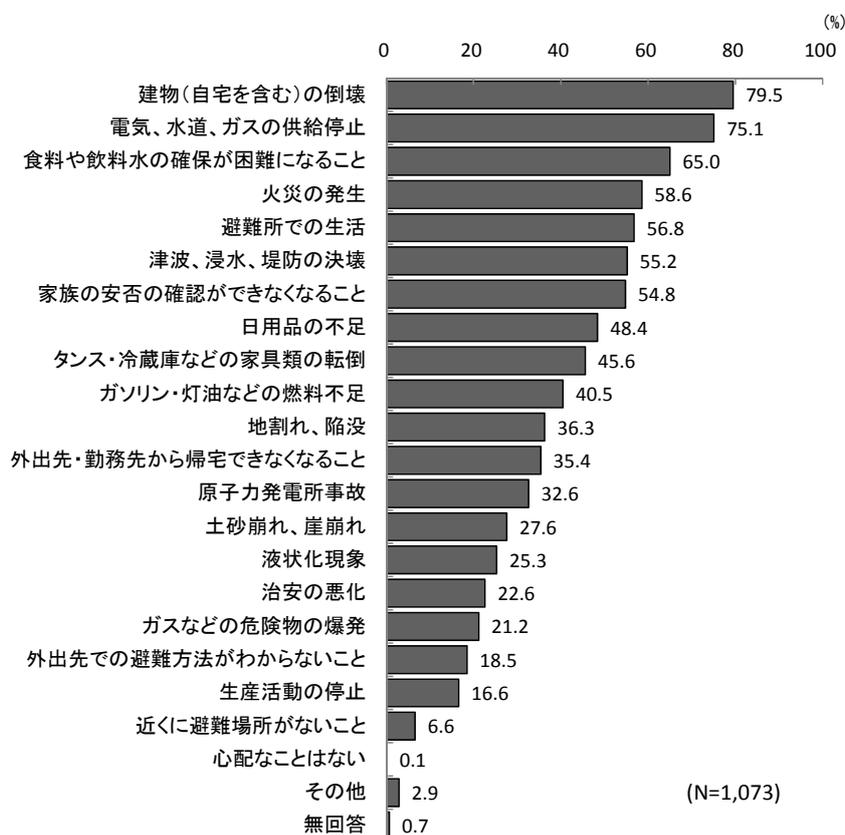
【（図 2-2）南海トラフ地震が発生する仕組み（メカニズム）の認知度 経年比較】



### 3 地震時の心配事

問3 あなたは、南海トラフ地震が起こった場合、どのようなことが心配ですか。(〇はいくつでも)

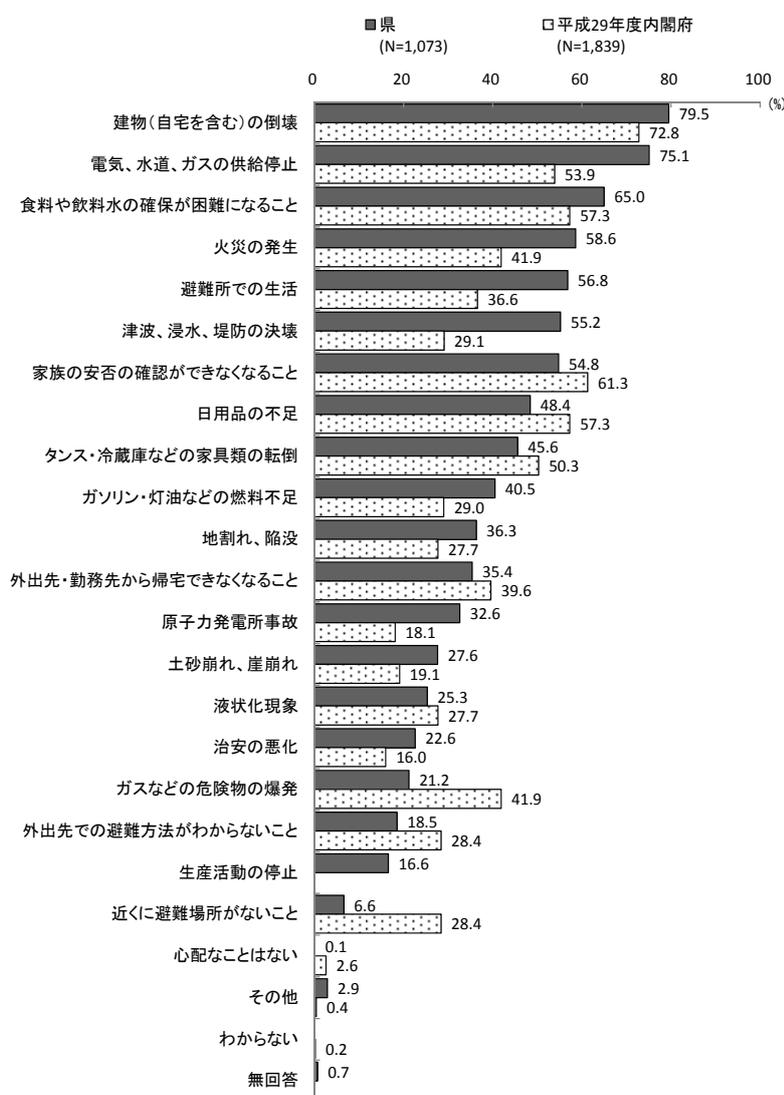
【(図表 3-1) 地震時の心配事 単純集計】



南海トラフ地震発生時の心配事についてたずねたところ、「建物(自宅を含む)の倒壊」(79.5%)が最も高く、次いで「電気、水道、ガスの供給停止」(75.1%)、「食料や飲料水の確保が困難になること」(65.0%)、「火災の発生」(58.6%)、「避難所での生活」(56.8%)の順になっている。

内閣府との比較でみると、「建物の倒壊」は『県』(79.5%)が『内閣府』(72.8%)より6.7ポイント高くなっている。「電気、水道、ガスの供給停止」は『県』(75.1%)が『内閣府』(53.9%)より21.2ポイント高くなっている。「食料や飲料水の確保が困難になること」は『県』(65.0%)が『内閣府』(57.3%)より7.7ポイント高くなっている。

【(図3-2)地震時の心配事 内閣府調査比較】

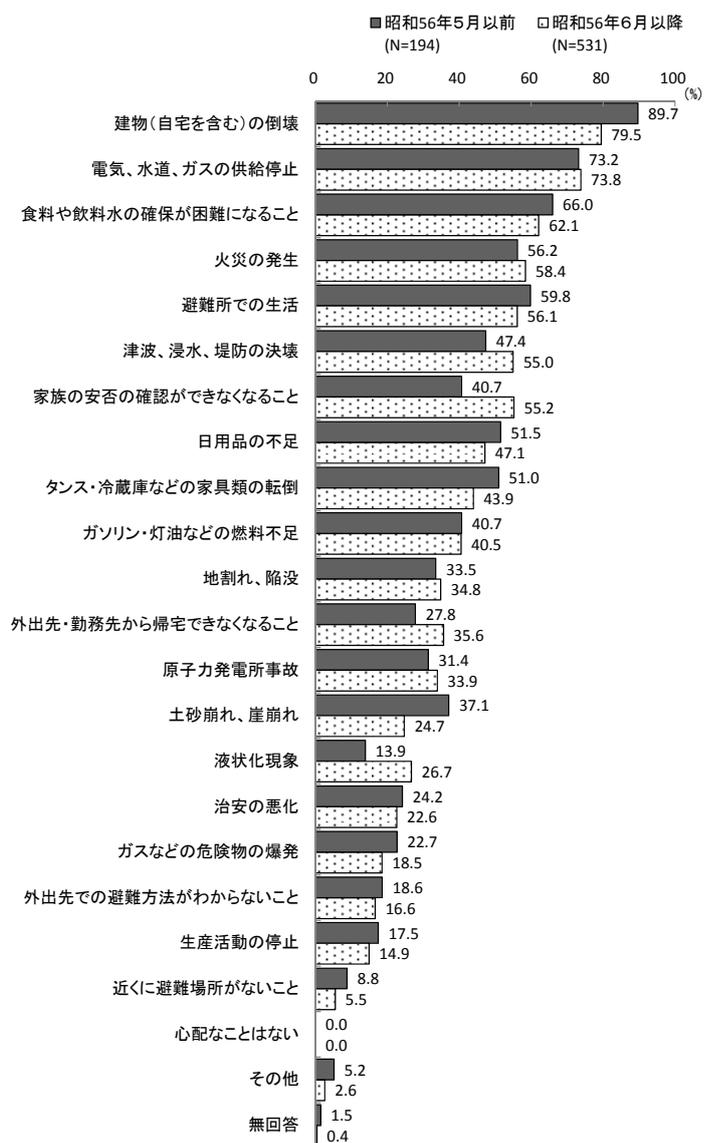


※内閣府の調査と比較する際に、以下の調査項目が県調査では細分化されているため、内閣府調査の結果について細分化された項目で同じ値としている。

- ・「食料、飲料水、日用品の確保が困難になること」⇒「食料や飲料水の確保が困難になること」、「日用品の不足」
- ・「火災の発生やガスなどの危険物の爆発」⇒「火災の発生」、「ガスなどの危険物の爆発」
- ・「避難場所にたどり着けないこと」⇒「外出先での避難方法がわからないこと」、「近くに避難場所がないこと」
- ・「地割れ、陥没、液状化現象」⇒「地割れ、陥没」、「液状化現象」

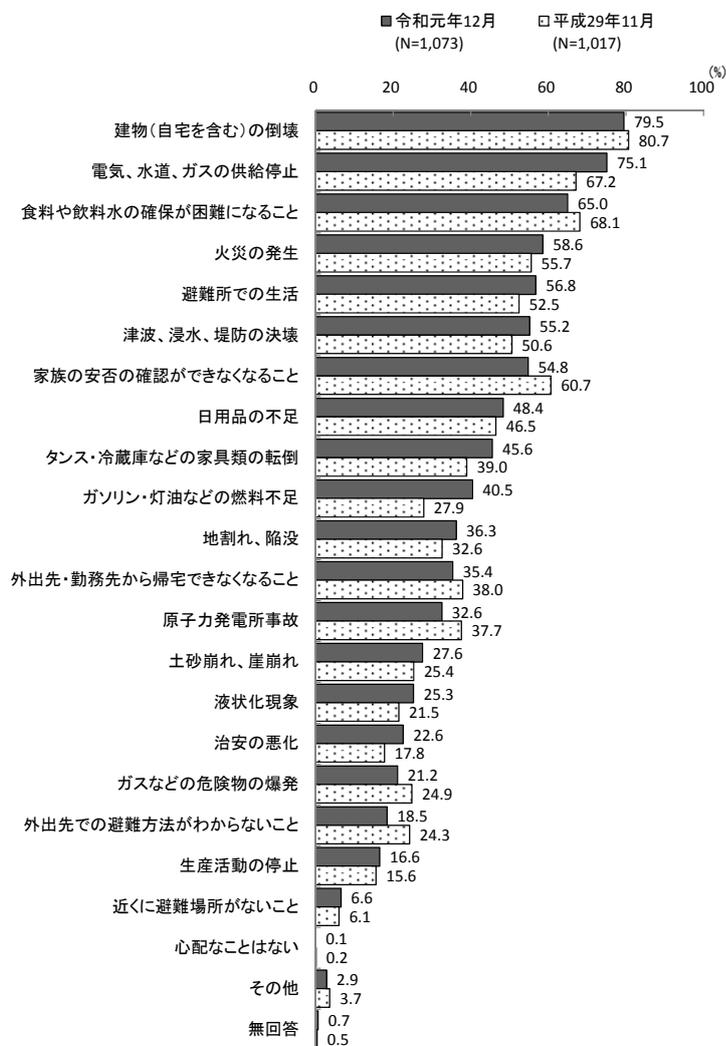
昭和56年5月以前建築と昭和56年6月以降との比較でみると、「建物の倒壊」は『昭和56年5月以前建築』(89.7%)が『昭和56年6月以降』(79.5%)より10.2ポイント高くなっている。「食料や飲料水の確保が困難になること」は『昭和56年5月以前建築』(66.0%)が『昭和56年6月以降』(62.1%)より3.9ポイント高くなっている。

【(図3-3) 地震時の心配事 昭和56年5月以前建築と昭和56年6月以降との比較】



経年比較でみると、「電気、水道、ガスの供給停止」は『令和元年12月』（75.1%）が『平成29年11月』（67.2%）より7.9ポイント高くなっている。「ガソリン・灯油などの燃料不足」は『令和元年12月』（40.5%）が『平成29年11月』（27.9%）より12.6ポイント高くなっている。

【（図3-4）地震時の心配事 経年比較】

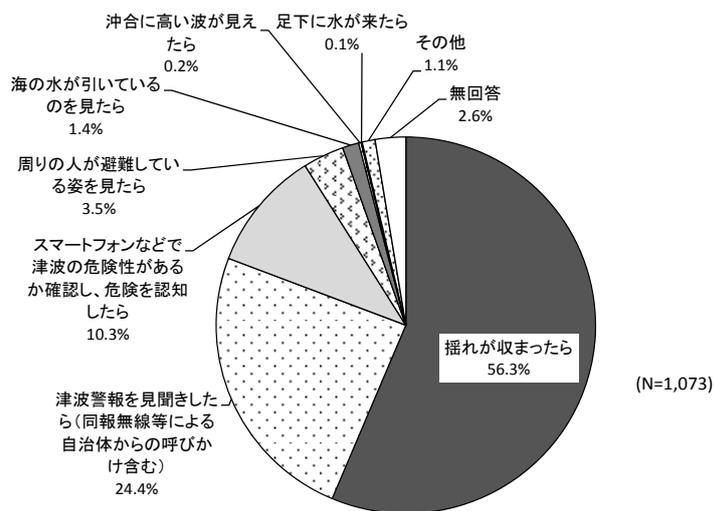


※平成29年11月調査から「避難所生活」は「避難所での生活」、「治安の混乱」は「治安の悪化」に調査項目名が変更している。

#### 4 津波避難のタイミング

問4 あなたが海岸付近にいる際に、突発的に南海トラフ地震があり津波が発生した場合、どのタイミングで避難行動を開始すると思いますか。(〇は1つ)

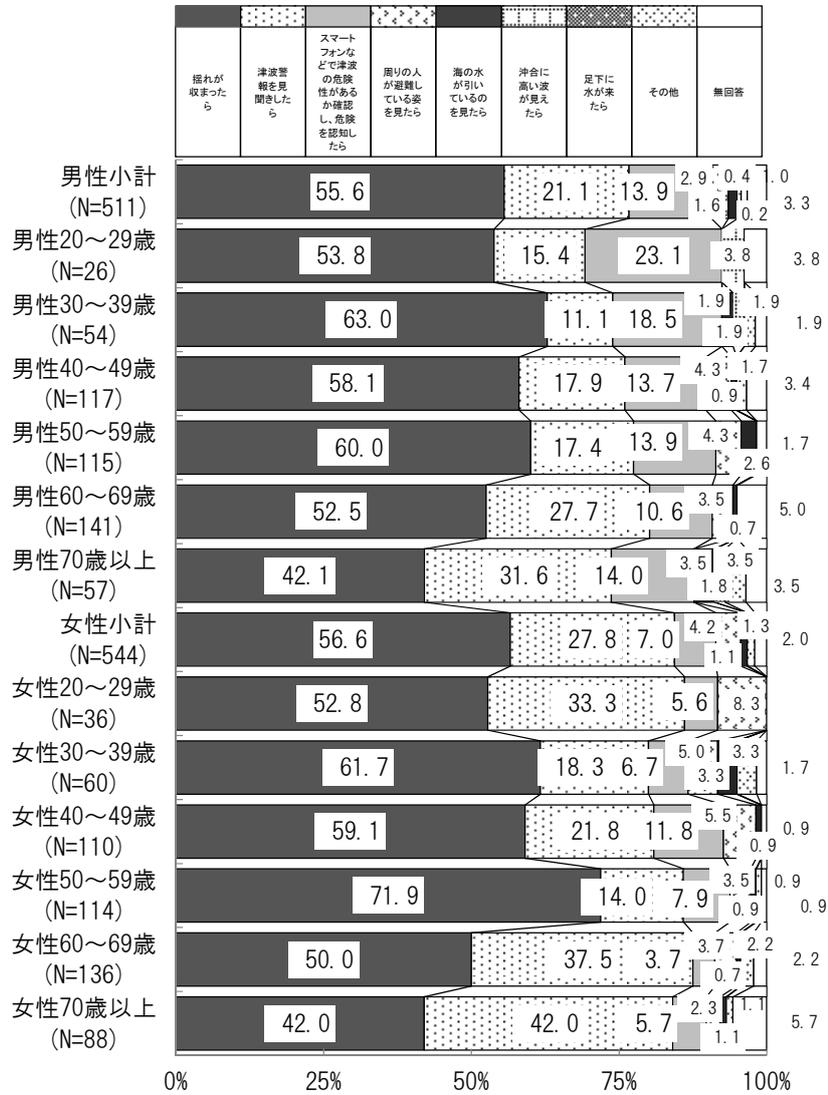
【(図表4-1) 津波避難のタイミング 単純集計】



津波避難のタイミングについてたずねたところ、「揺れが収まったら」(56.3%)が最も高く、次いで「津波警報を見聞きしたら(同報無線等による自治体からの呼びかけ含む)」(24.4%)、「スマートフォンなどで津波の危険性があるか確認し、危険を認知したら」(10.3%)、「周りの人が避難している姿を見たら」(3.5%)の順になっている。

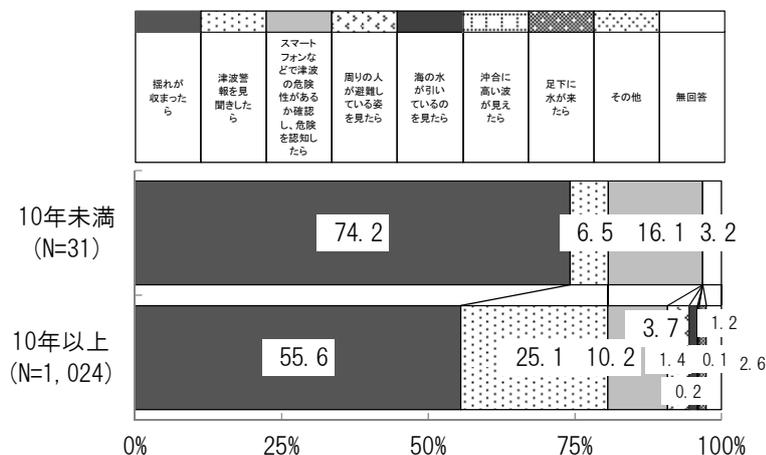
性・年齢別でみると、いずれも「揺れが収まったら」が高くなっているが、『男性70歳以上』(42.1%)と『女性70歳以上』(42.0%)は他の性・年齢より低くなっている。

【(図4-2) 津波避難のタイミング 性・年齢別】



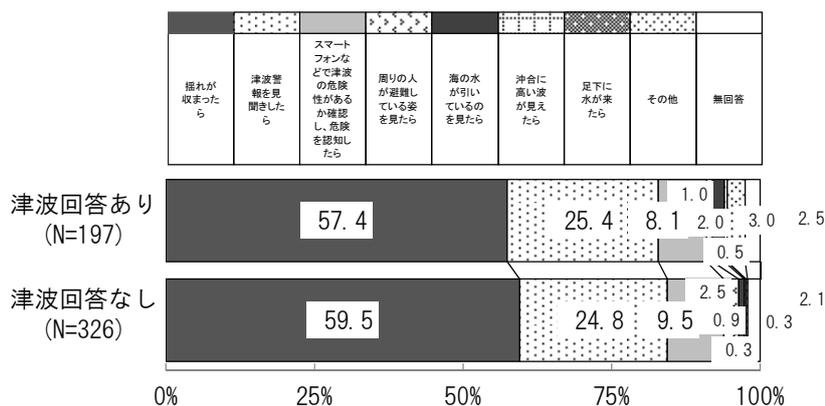
居住期間別でみると、「揺れが収まったら」は『10年未満』(74.2%)が『10年以上』(55.6%)と比べると18.6ポイント高くなっている。

【(図4-3) 津波避難のタイミング 居住期間別】



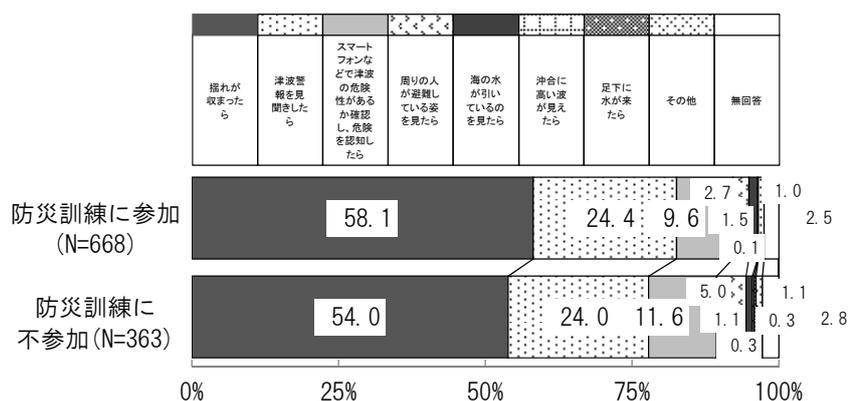
予想される被害「津波」とそれ以外の回答者別でみると、「揺れが収まったら」は『津波回答あり』(57.4%)が『津波回答なし』(59.5%)と比べると2.1ポイント低くなっている。

【(図4-4) 津波避難のタイミング 予想される被害「津波」とそれ以外の回答者別】



地震防災訓練参加の有無別でみると、いずれも「揺れが収まったら」は『防災訓練に参加』(58.1%)が『防災訓練に不参加』(54.0%)と比べると4.1ポイント高くなっている。

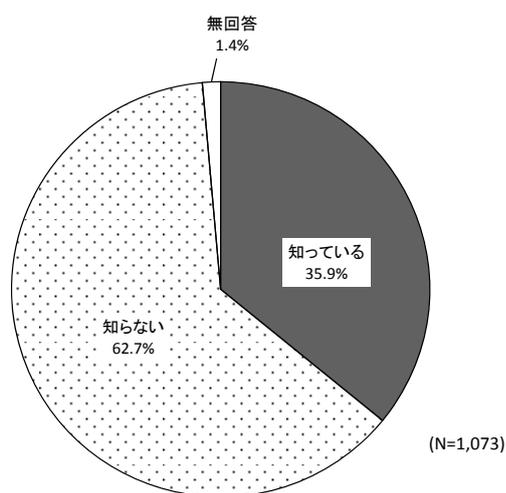
【(図4-5) 津波避難のタイミング 地震防災訓練参加の有無別】



## 5 津波の速さの認知

問5 南海トラフ地震が発生した場合、津波は、一番速いところでは地震発生後どのくらいの時間で沿岸に来るか知っていますか。(〇は1つ)

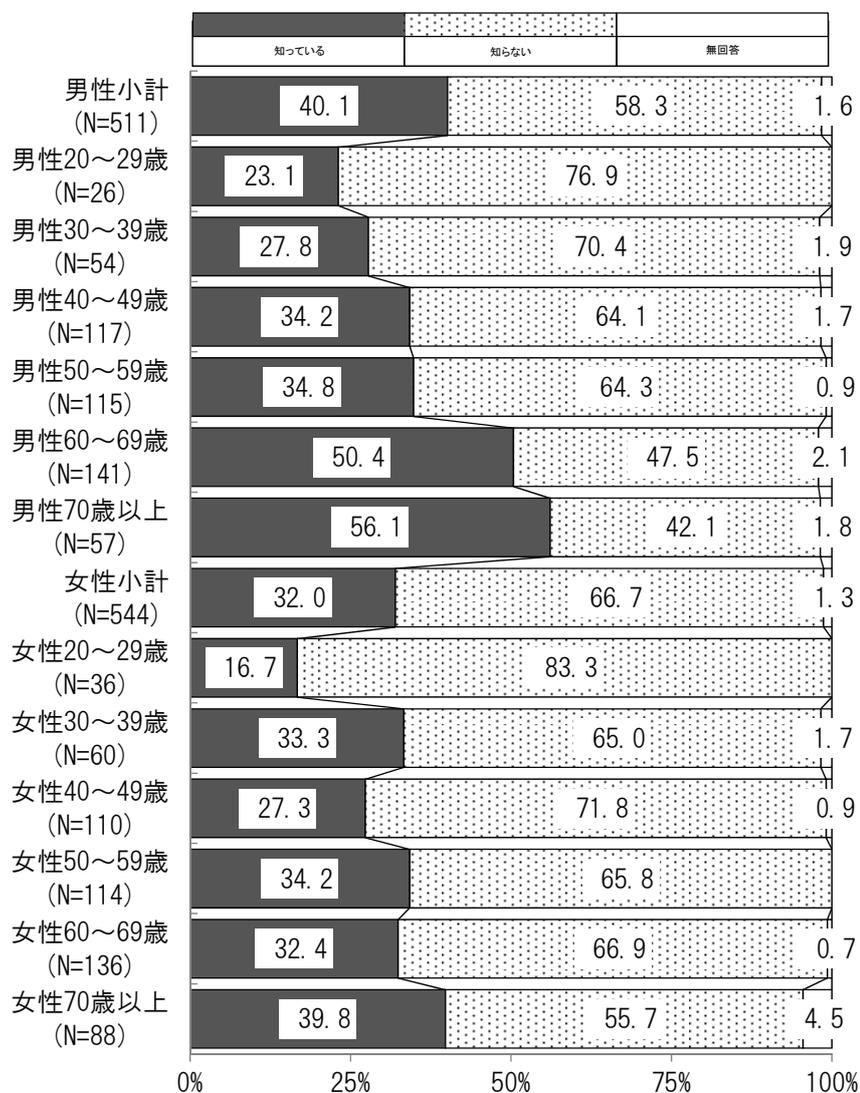
【(図表 5-1) 津波の速さの認知 単純集計】



予想される到着時間は、駿河湾や遠州灘の沿岸では地震発生直後～5分程度であるが、南海トラフと(東海地震)発生時の津波の速さの認知についてたずねたところ、「知っている」(35.9%)、「知らない」(62.7%)となっている。

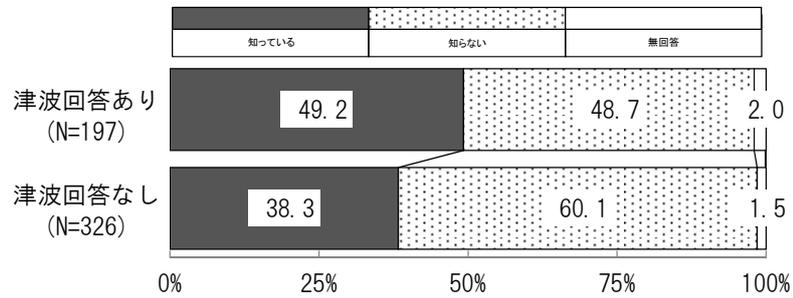
性・年齢別でみると、「知っている」については『男性 60～69 歳』（50.4%）、『男性 70 歳以上』（56.1%）は 5 割を超えて高く、『女性 20～29 歳』（16.7%）が最も低くなっている。

【（図 5-2）津波の速さの認知 性・年齢別】



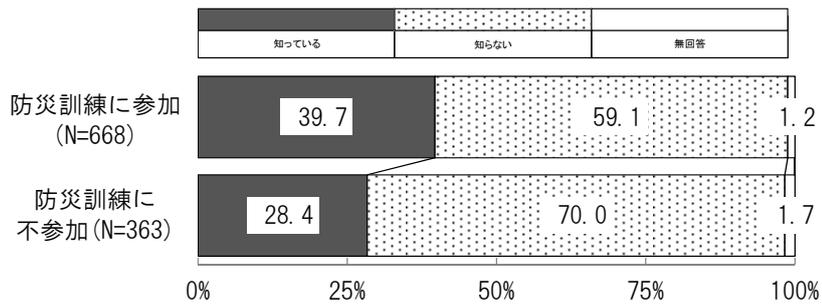
予想される被害「津波」とそれ以外の回答者別でみると、「知っている」については『津波回答あり』（49.2%）は『津波回答なし』（38.3%）より10.9ポイント高くなっている。

【（図 5-3）津波の速さの認知 予想される被害「津波」とそれ以外の回答者別】



地震防災訓練参加の有無別でみると、「知っている」については『防災訓練に参加』（39.7%）は、『防災訓練に不参加』（28.4%）より11.3ポイント高くなっている。

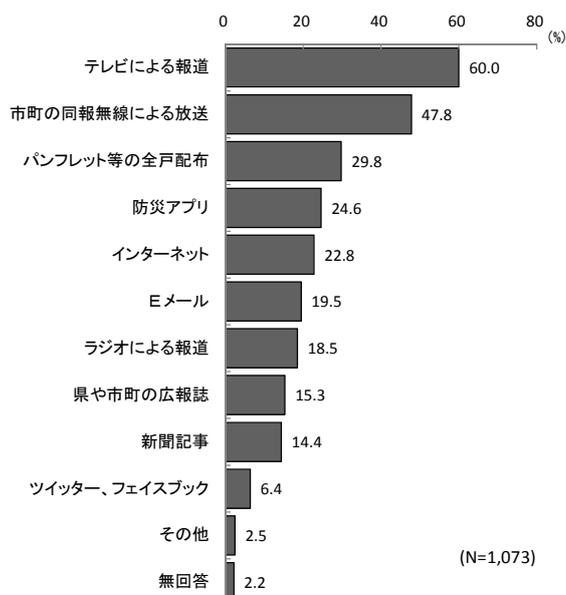
【（図 5-4）津波の速さの認知 地震防災訓練参加の有無別】



## 6 防災情報を情報を確実に提供する方法

問6 日頃、県や市町が防災情報を提供する場合、確実に伝わると思う方法は次のどれですか。(〇は3つまで)

【(図表 6-1) 防災情報を情報を確実に提供する方法 単純集計】



防災情報を確実に提供する方法についてたずねたところ、「テレビによる報道」(60.0%)、「市町の同報無線による放送」(47.8%)、「パンフレット等の全戸配布」(29.8%)、「防災アプリ」(24.6%)、「インターネット」(22.8%)の順になっている。

性・年齢別でみると「テレビによる報道」は『女性70歳以上』(77.3%)と『男性70歳以上』(77.2%)が他の年齢層より高くなっている。

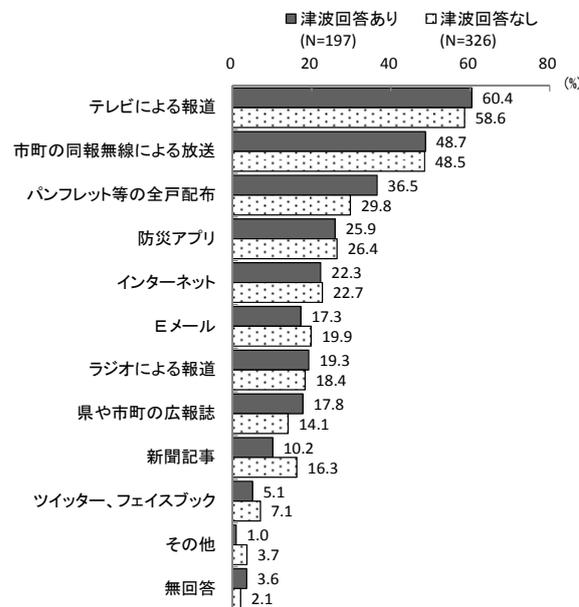
地域別でみると「市町の同報無線による放送」は『賀茂』(66.7%)が最も高く、『西部』(42.2%)が最も低くなっている。

【(図6-2) 防災情報を情報を確実に提供する方法 性・年齢別、地域別】

		回答者数	テレビによる報道	市町の同報無線による放送	パンフレット等の全戸配布	防災アプリ	インターネット	Eメール	ラジオによる報道	県や市町の広報誌	新聞記事	ツイッター、フェイスブック	その他	無回答
全体		1,073	60.0	47.8	29.8	24.6	22.8	19.5	18.5	15.3	14.4	6.4	2.5	2.2
性・年齢別	男性	511	54.8	41.7	29.0	24.9	27.0	21.9	20.2	13.1	17.0	5.9	2.9	2.3
	男性20～29歳	26	50.0	42.3	23.1	34.6	30.8	11.5	11.5	15.4	15.4	23.1	0.0	0.0
	男性30～39歳	54	42.6	37.0	38.9	20.4	20.4	25.9	11.1	7.4	5.6	7.4	3.7	5.6
	男性40～49歳	117	45.3	40.2	27.4	27.4	35.9	24.8	15.4	15.4	12.8	7.7	3.4	2.6
	男性50～59歳	115	52.2	40.9	28.7	26.1	32.2	15.7	20.0	11.3	14.8	6.1	1.7	3.5
	男性60～69歳	141	61.7	48.2	27.0	24.8	22.7	27.7	26.2	12.8	21.3	2.8	2.1	1.4
	男性70歳以上	57	77.2	35.1	31.6	17.5	12.3	14.0	26.3	17.5	31.6	0.0	7.0	0.0
	女性	544	64.3	53.7	31.3	24.4	18.8	17.3	17.1	17.1	11.6	7.2	2.2	2.0
	女性20～29歳	36	58.3	30.6	33.3	22.2	36.1	11.1	8.3	16.7	2.8	27.8	8.3	0.0
	女性30～39歳	60	56.7	53.3	33.3	25.0	25.0	23.3	15.0	18.3	3.3	13.3	1.7	1.7
女性40～49歳	110	63.6	50.0	32.7	23.6	27.3	16.4	10.9	17.3	12.7	9.1	2.7	1.8	
女性50～59歳	114	59.6	50.9	36.8	32.5	21.1	24.6	17.5	16.7	13.2	4.4	0.0	0.0	
女性60～69歳	136	65.4	59.6	28.7	22.8	11.0	14.7	19.9	18.4	11.8	3.7	2.2	2.2	
女性70歳以上	88	77.3	62.5	23.9	18.2	5.7	11.4	25.0	14.8	17.0	1.1	2.3	5.7	
地域別	賀茂	24	58.3	66.7	37.5	4.2	12.5	16.7	20.8	29.2	8.3	4.2	4.2	0.0
	東部	316	57.6	56.6	25.6	25.9	21.2	18.0	19.9	16.1	11.1	7.6	1.9	1.9
	中部	324	60.2	44.8	32.4	22.5	25.3	21.3	17.9	14.8	15.4	6.5	2.5	2.2
	西部	391	61.1	42.2	31.5	26.6	22.5	19.4	17.9	13.8	16.1	5.9	3.1	2.6

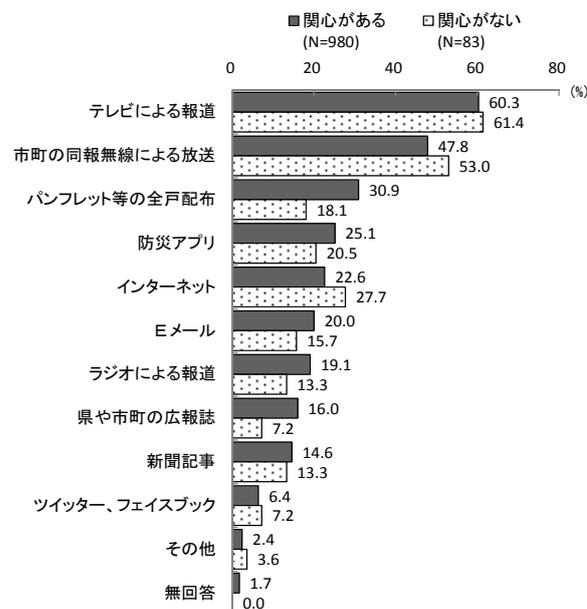
予想される被害「津波」とそれ以外の回答者別でみると、「テレビによる報道」では『津波回答あり』(60.4%)が『津波回答なし』(58.6%)より1.8ポイント高く、「新聞記事」では『津波回答あり』(10.2%)が『津波回答なし』(16.3%)より6.1ポイント高くなっている。

【(図6-3) 防災情報を情報を確実に提供する方法  
予想される被害「津波」とそれ以外の回答者別】



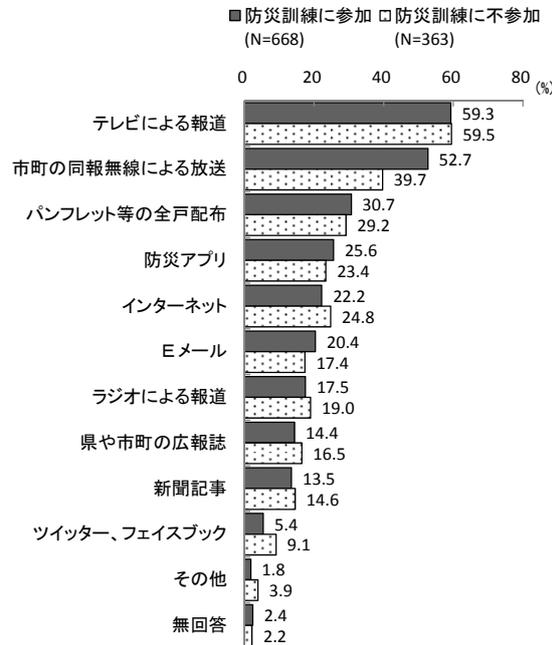
南海トラフ地震（東海地震）への関心度別でみると、「市町の同報無線による放送」では『関心がある』(47.8%)が『関心がない』(53.0%)より5.2ポイント低く、「パンフレット等の全戸配布」では『関心がある』(30.9%)が『関心がない』(18.1%)より12.8ポイント高くなっている。

【(図6-4) 防災情報を情報を確実に提供する方法  
南海トラフ地震（東海地震）への関心度別】



地震防災訓練参加の有無別でみると、「市町の同報無線による放送」では『防災訓練に参加』(52.7%)が『防災訓練に不参加』(39.7%)より13.0ポイント高くなっている。

【(図 6-5) 防災情報を情報を確実に提供する方法 地震防災訓練参加の有無別】



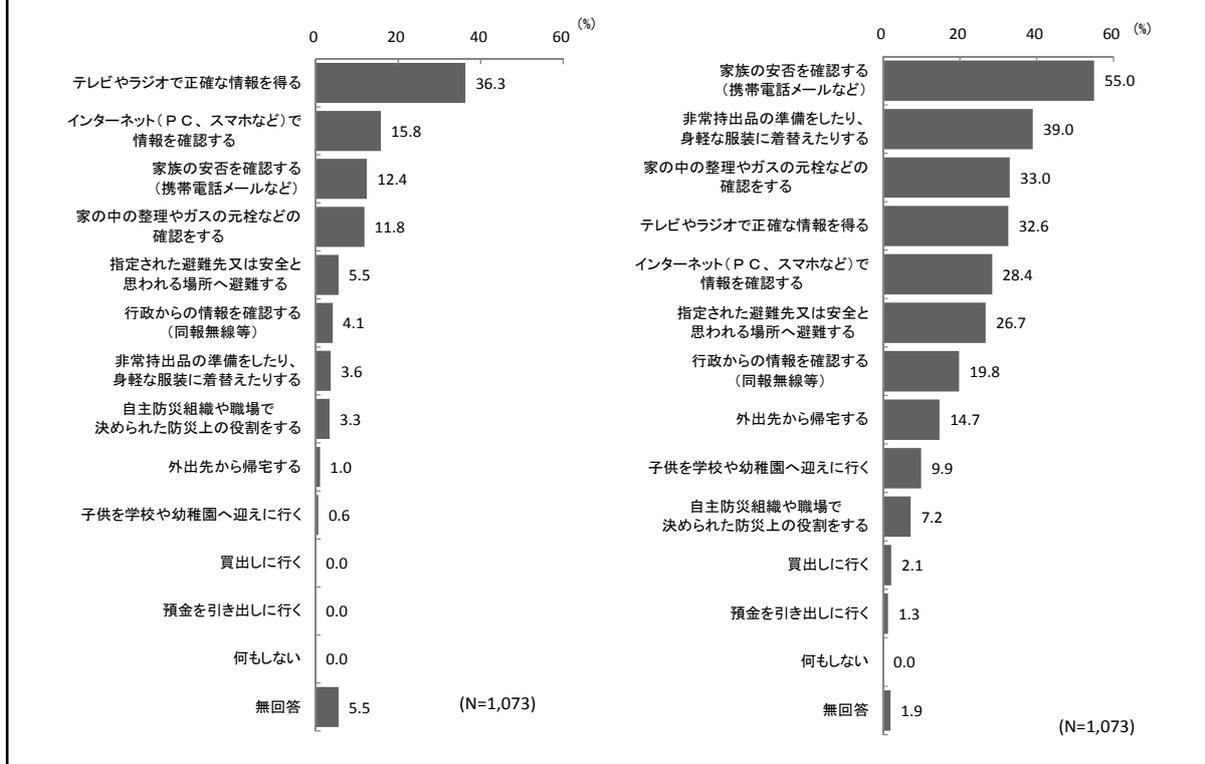
## 第2章 南海トラフ地震が発生したときの行動について

### 1 突然地震が発生した時の行動

問7 平日の午前11時頃に突然地震が起こった場合、揺れが収まったら、あなたがまず最初にすることを下記の項目の中から1つ選び、A欄に○をつけてください。また、その次にすることを3つ選んでB欄に○をつけてください。

【(図表7-1) 突然地震が発生した時の行動<最初にすること・左> 単純集計】

【(図表7-2) 突然地震が発生した時の行動<次にすること・右> 単純集計】



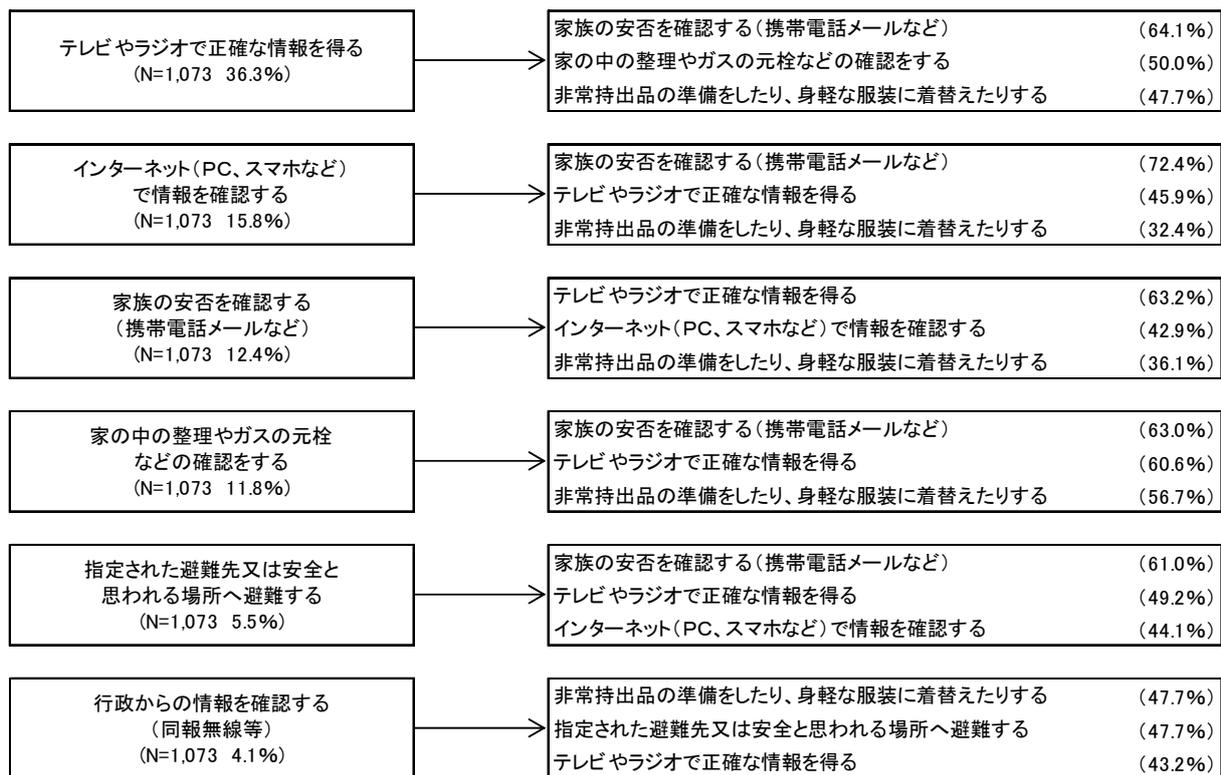
地震が突然発生したときの行動についてたずねたところ、最初にすることは「テレビやラジオで正確な情報を得る」(36.3%)が最も高く、次いで「インターネット(PC、スマホなど)で情報を確認する」(15.8%)、「家族の安否を確認する(携帯電話メールなど)」(12.4%)の順になっている。

次にすることは「家族の安否を確認する(携帯電話メールなど)」(55.0%)が最も高く、次いで「非常持出品の準備をしたり、身軽な服装に着替えたりする」(39.0%)、「家の中の整理やガスの元栓などの確認をする」(33.0%)の順になっている。

地震が突然発生したときの行動の流れをみると、最初にすることに「テレビやラジオで正確な情報を得る」を選んだ人は次にすることでは「家族の安否を確認する（携帯電話メールなど）」、「家の中の整理やガスの元栓などの確認をする」、「非常持出品の準備をしたり、身軽な服装に着替えたりする」を上位に挙げている。

また、最初にやることに「家族の安否を確認する（携帯電話メールなど）」を選んだ人は、「テレビやラジオで正確な情報を得る」、「インターネット（PC、スマホなど）で情報を確認する」、「非常持出品の準備をしたり、身軽な服装に着替えたりする」を上位に挙げている。

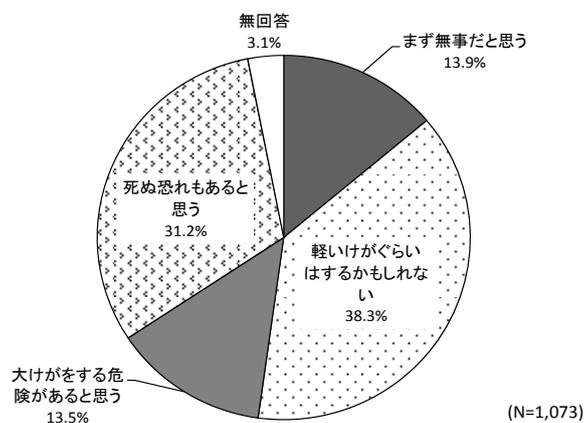
【（図 7-3）突然地震が発生した時の行動の流れ 上位 6 位】



## 2 地震が突然発生したときの自分自身の安全状況

問8 地震が起こった場合、あなた自身の安全についてどう考えていますか。(○は1つ)

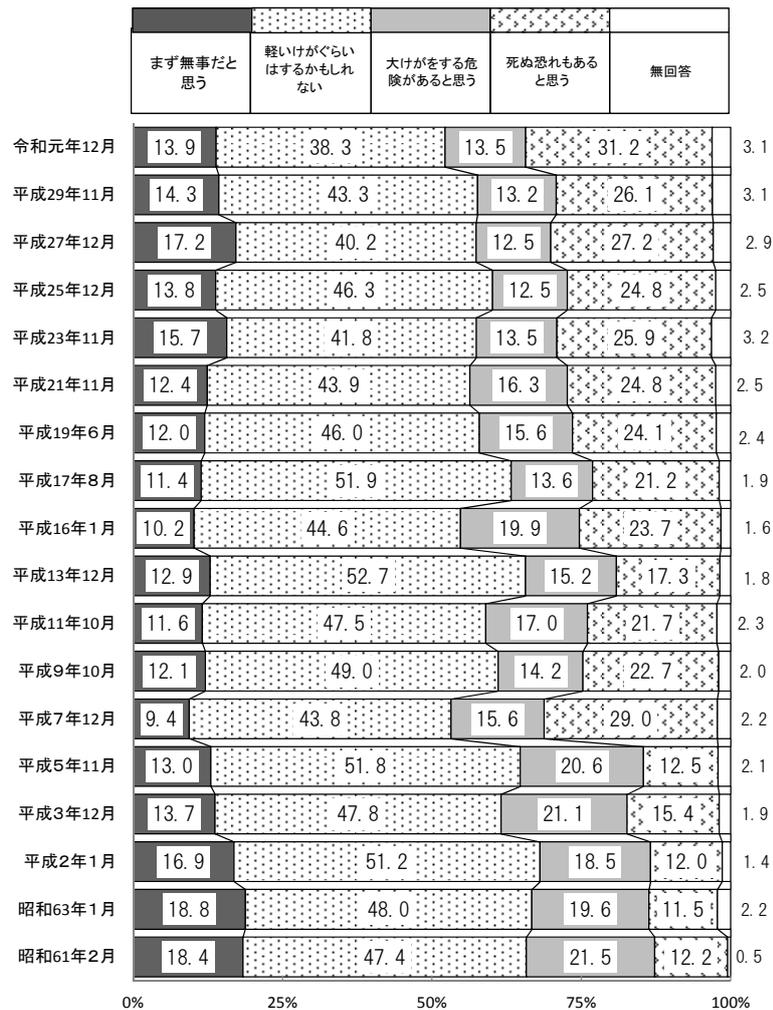
【(図表 8-1) 地震が突然発生したときの自分自身の安全状況 単純集計】



地震が突然発生したときの自分自身の安全状況についてたずねると、「軽いけがぐらいはするかもしれない」(38.3%)が最も高く、次いで「死ぬ恐れもあると思う」(31.2%)、「まず無事だと思う」(13.9%)、「大けがをする危険があると思う」(13.5%)の順になっている。

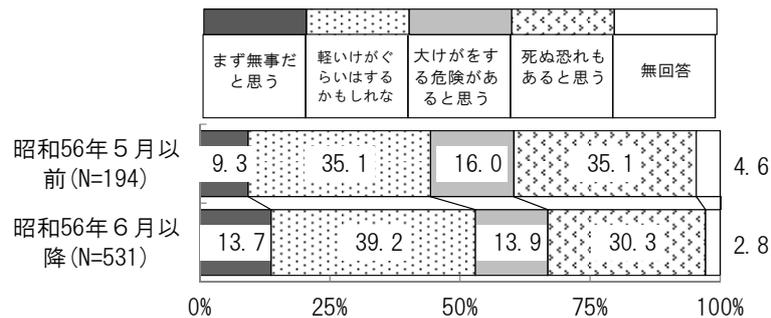
経年比較でみると、「死ぬ恐れもあると思う」が阪神・淡路大震災（平成7年1月）の起きた『平成7年12月』の調査（29.0%）以降は平成13年度を除き、2割超えで推移しており、今回調査（31.2%）で過去最高となった。また、「軽いけがぐらいはするかもしれない」（38.3%）は過去最低となった。

【（図8-2）地震が突然発生したときの自分自身の安全状況 経年比較】



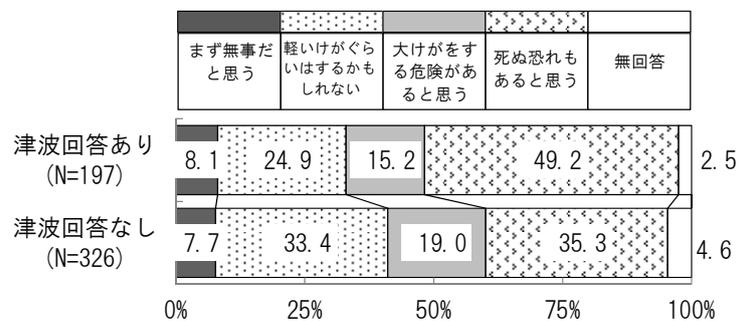
昭和56年5月以前建築と昭和56年6月以降との比較でみると、地震が突然発生したときの自分自身の安全性は、「大けがをすする危険があると思う」では『昭和56年5月以前』(16.0%)が『昭和56年6月以降』(13.9%)より2.1ポイント高く、「死ぬ恐れもあると思う」では『昭和56年5月以前』(35.1%)が『昭和56年6月以降』(30.3%)より4.8ポイント高くなっている。

【(図8-3) 地震が突然発生したときの自分自身の安全状況  
昭和56年5月以前建築と昭和56年6月以降との比較】



予想される被害「津波」とそれ以外の回答者別でみると、地震が突然発生したときの自分自身の安全性は、「死ぬ恐れもあると思う」では『津波回答あり』(49.2%)が『津波回答なし』(35.3%)より13.9ポイント高くなっている。

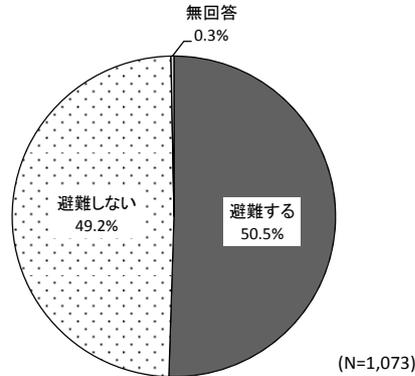
【(図8-4) 地震が突然発生したときの自分自身の安全状況  
予想される被害「津波」とそれ以外の回答者別】



### 3 地震が発生したときの避難行動

問9 あなたはご自宅にいる時に、地震が起こった場合、一時的に避難をされますか。(〇は1つ)

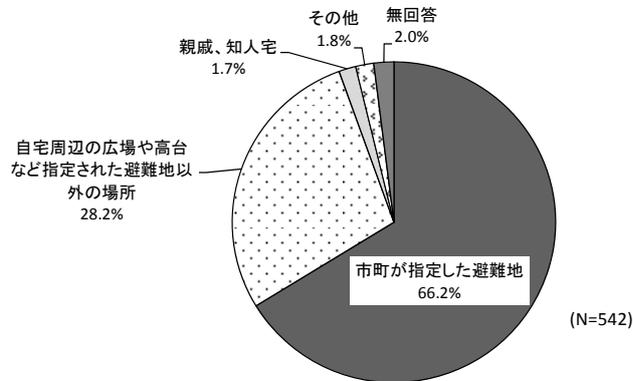
【(図表 9-1) 地震が発生したときの避難の有無 単純集計】



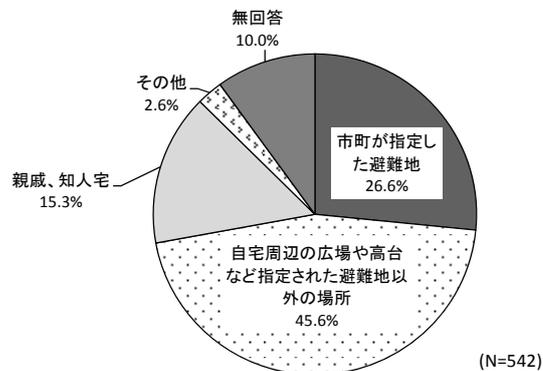
<問9で「避難する」とお答えした方にお伺いします。>

問9-1 あなたがご自宅にいる時に、地震が起こった場合、あなたやご家族が一時的に避難する場所として、可能性が高いと考える場所の1位、2位について、下記の項目の中から1つ選びそれぞれ〇をつけてください。

【(図表 9-2) 地震が発生したときの避難場所<1位> 単純集計】

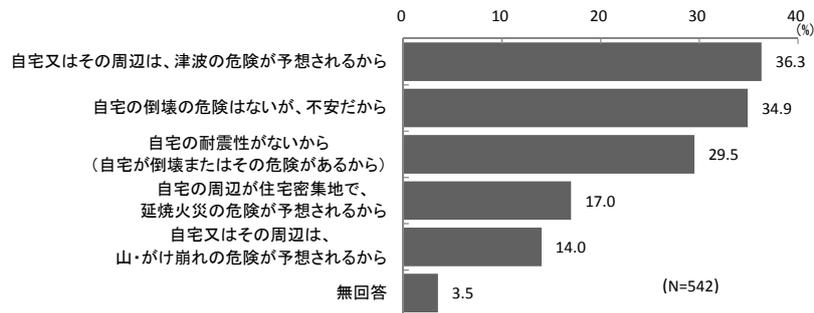


【(図表 9-3) 地震が発生したときの避難場所<2位> 単純集計】



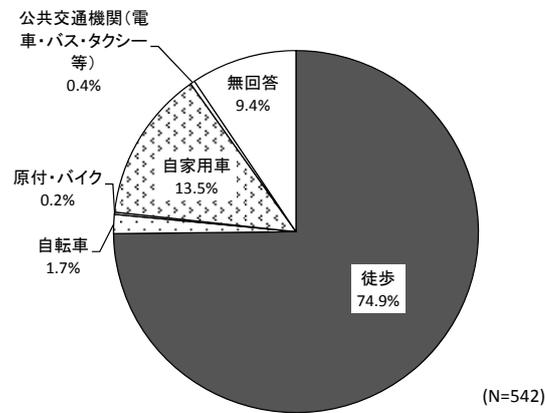
問9-2 避難する場合の理由は何ですか。(〇はいくつでも)

【(図表9-4) 避難する理由 単純集計】



問9-3 避難するときの交通手段は何ですか。(〇は1つ)

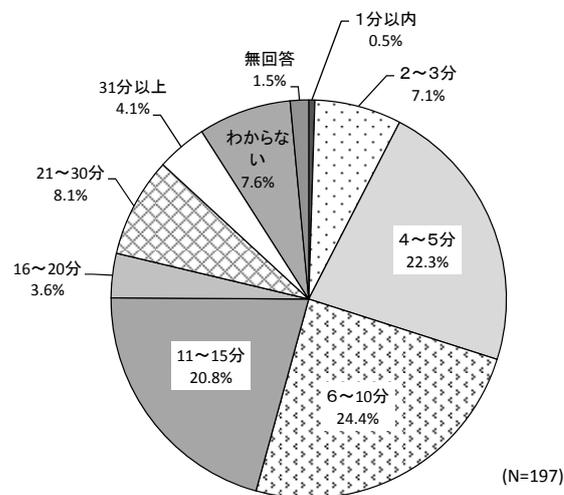
【(図表9-5) 避難するときの交通手段 単純集計】



<問9-2で「自宅又はその周辺は、津波の危険が予想されるから」を選んだ方にお伺いします。>

問9-4 深夜、あなたのご自宅で寝ている時に突然地震が発生した場合、あなたが避難を始めるまでに、揺れを感じてからどれくらいの時間がかかるとお考えですか。(〇は1つ)

【(図表9-6) 避難開始までの時間 単純集計】



地震が当然発生したときの避難行動についてたずねたところ、「避難する」(50.5%)、「避難しない」(49.2%)となっている。

地震が発生したときの避難場所1位は「市町が指定した避難地」(66.2%)が最も高く、次いで「自宅周辺の広場や高台など指定された避難地以外の場所」(28.2%)、「親戚、知人宅」(1.7%)の順になっている。屋外である「市町が指定した避難地」と「自宅周辺の広場や高台など指定された避難地以外の場所」への避難をあわせて94.4%となっている。2位は「自宅周辺の広場や高台など指定された避難地以外の場所」(45.6%)が最も高く、「市町が指定した避難地」(26.6%)、「親戚、知人宅」(15.3%)の順になっている。

避難する理由についてたずねたところ、「自宅又はその周辺は、津波の危険が予想されるから」(36.3%)が最も高く、次いで「自宅の倒壊の危険はないが、不安だから」(34.9%)、「自宅の耐震性がないから(自宅が倒壊またはその危険があるから)」(29.5%)、「自宅の周辺が住宅密集地で、延焼火災の危険が予想されるから」(17.0%)、「自宅又はその周辺は、山・がけ崩れの危険が予想されるから」(14.0%)の順になっている。

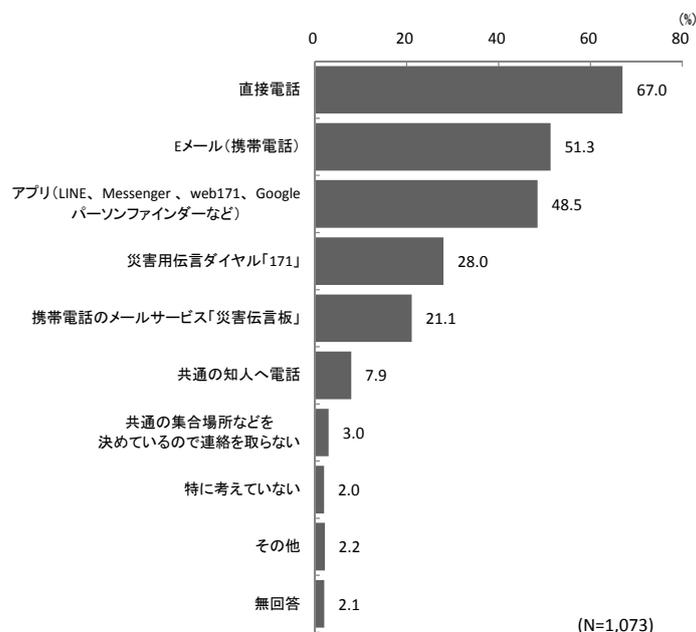
避難するときの交通手段についてたずねたところ、「徒歩」(74.9%)が最も高く、次いで「自家用車」(13.5%)となっている。

避難開始までの時間についてたずねたところ、「6～10分」が24.4%と最も高く、次いで「4～5分」(22.3%)、「11～15分」(20.8%)、「21～30分」(8.1%)の順になっている。

#### 4 家族との安否確認手段

問 10 地震が起こった際に、家族が離ればなれとなっている場合、家族の安否を確認する手段として何を使うことを考えていますか。(〇はいくつでも)

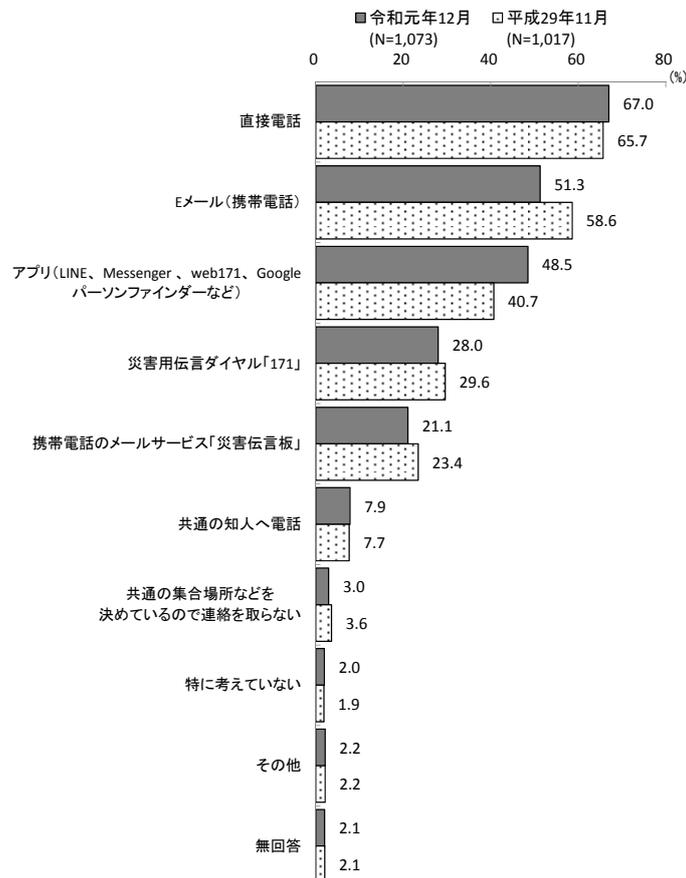
【(図表 10-1) 家族との安否確認手段 単純集計】



地震が起こった際に、家族が離ればなれとなっている場合、家族の安否を確認する手段として何を使うことを考えているかをたずねたところ、「直接電話」(67.0%)が最も高く、次いで「Eメール(携帯電話)」(51.3%)、「アプリ(LINE、Messenger、web171、Google パーソnfインダーなど)」(48.5%)、「災害用伝言ダイヤル「171」」(28.0%)、「携帯電話のメールサービス「災害伝言板」」(21.1%)の順になっている。

経年比較でみると、「Eメール（携帯電話）」は、今回調査（51.3%）より平成29年11月の前回調査（58.6%）より7.3ポイント低く、「アプリ（LINE、Messenger、web171、Google パーソンファインダーなど）」は今回調査（48.5%）が前回調査（40.7%）より7.8ポイント高くなっている。

【（図 10-2）家族との安否確認手段 経年比較】

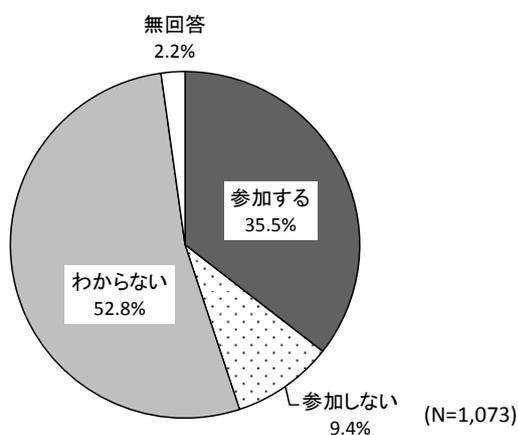


※前回調査にあった「ライン (LINE)」は今回調査では「アプリ (LINE、Messenger、web171、Google パーソンファインダーなど)」となっている。

## 5 地震発生後の防災活動への参加

問 11 地震が発生した場合、あなたは自主的に地域の防災活動に参加しますか。(○は1つ)

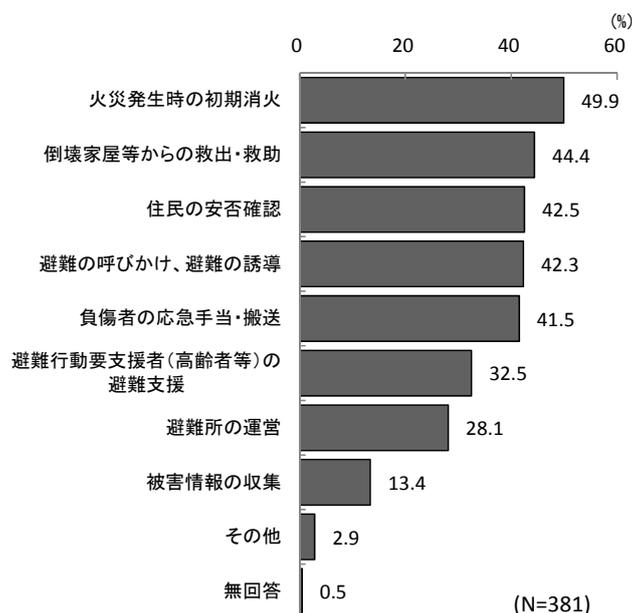
【(図表 11-1) 地震発生後の防災活動への参加意向 単純集計】



<問 11 で「参加する」を選んだ方にお伺いします。>

問 11-1 どのような活動に参加することを考えていますか。(○はいくつでも)

【(図表 11-2) 参加意向のある地震発生後の防災活動 単純集計】

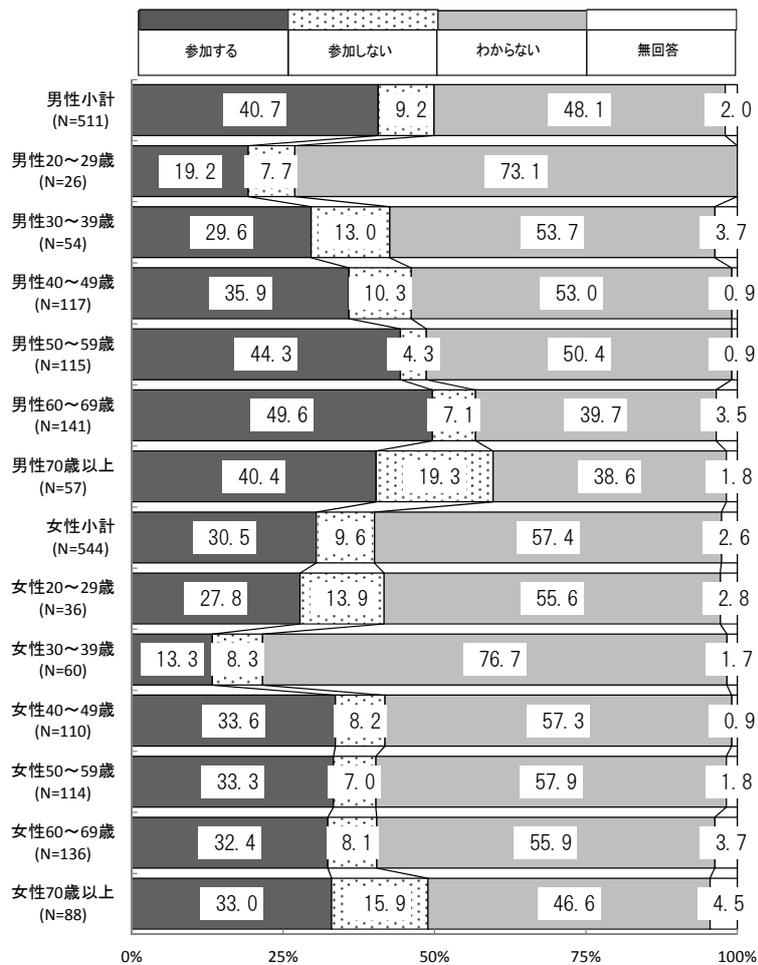


地震発生後の防災活動への参加意向についてたずねたところ、「わからない」(52.8%)が最も高く、次いで「参加する」(35.5%)、「参加しない」(9.4%)の順になっている。

また問 11 で「参加する」と回答した人の参加意向については「火災発生時の初期消火」(49.9%)が最も高く、次いで「倒壊家屋等からの救出・救助」(44.4%)、「住民の安否確認」(42.5%)の順になっている。

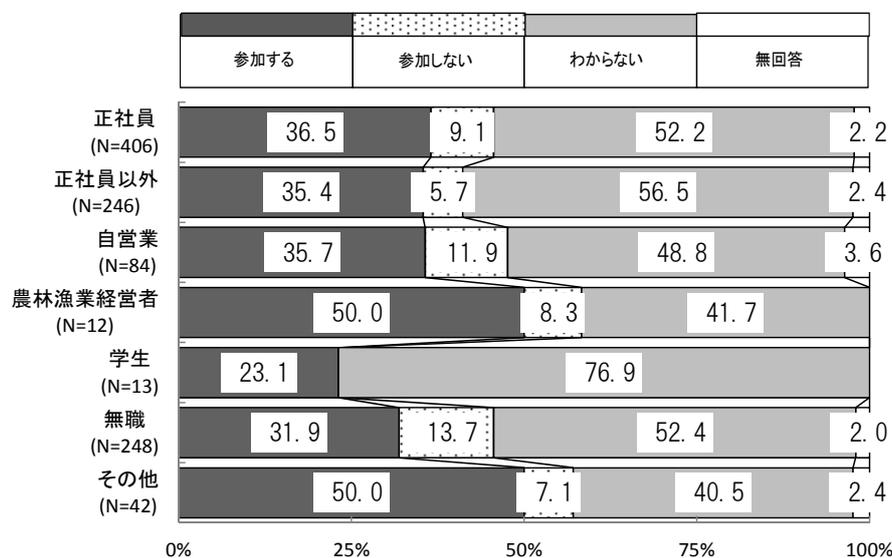
地震発生後の防災活動への参加率を性・年齢別で見ると、「参加する」は『男性』が40.7%、『女性』が30.5%となっており、年齢別においても『男性』が『女性』よりも高くなっている。また、「参加する」で最も高い『男性60～69歳』(49.6%)と最も低い『女性30～39歳』(13.3%)では36.3ポイントの差がみられる。

【(図 11-3) 地震発生後の防災活動への参加意向 性・年齢別】



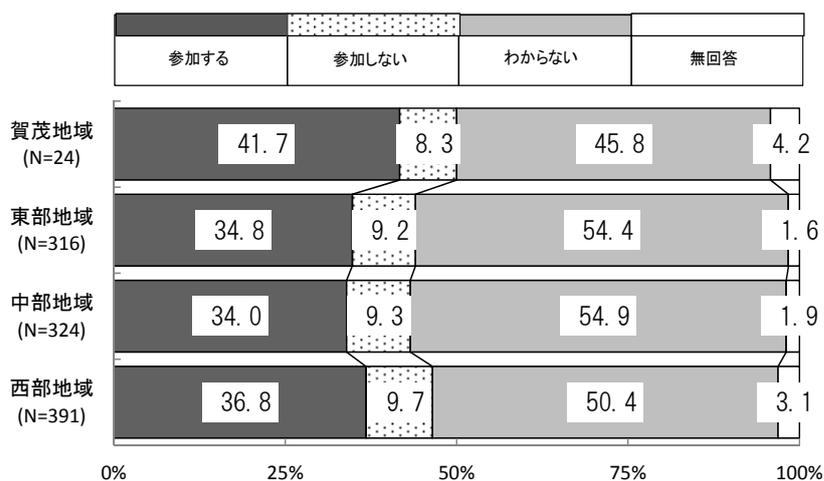
職業別でみると、「参加する」は『農林漁業経営者』（50.0%）が最も高く、次いで『正社員』（36.5%）、『自営業』（35.7%）の順になっている。

【（図 11-4）地震発生後の防災活動への参加意向 職業別】



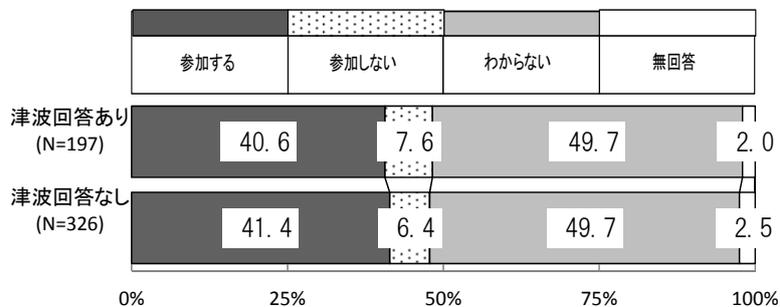
地域別でみると、「参加する」で最も高い『賀茂地域』（41.7%）と最も低い『中部地域』（34.0%）では7.7ポイントの差がみられる。

【（図 11-5）地震発生後の防災活動への参加意向 地域別】



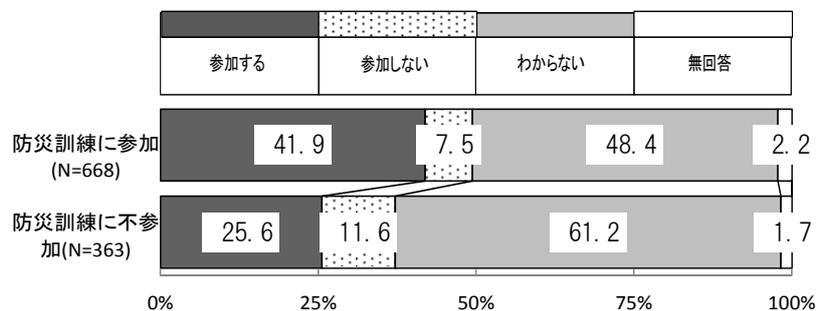
予想される被害「津波」とそれ以外の回答者別でみると、大きな差はみられない。

【（図 11-6）地震発生後の防災活動への参加意向  
予想される被害「津波」とそれ以外の回答者別】



地震防災訓練参加の有無別でみると、「参加する」では『防災訓練に参加』（41.9%）が『防災訓練に不参加』（25.6%）より 16.3 ポイント高くなっている。

【（図 11-7）地震発生後の防災活動への参加意向 地震防災訓練参加の有無別】



性・年齢別でみると、「火災発生時の初期消火」や「倒壊家屋等からの救出・救助」では『男性』が『女性』よりも高く、「住民の安否確認」や「負傷者の応急手当・搬送」では『男性』が『女性』よりも低くなっている。

【(図 11-8) 参加意向のある地震発生後の防災活動 性・年齢別】

(%)												
	回答者数	火災発生時の初期消火	倒壊家屋等からの救出・救助	住民の安否確認	避難の呼びかけ、避難の誘導	負傷者の応急手当・搬送	避難行動要支援者の避難支援	避難所の運営	被害情報の収集	その他	無回答	
全体	381	49.9	44.4	42.5	42.3	41.5	32.5	28.1	13.4	2.9	0.5	
性・年齢別	男性	208	63.5	65.9	38.5	43.8	40.4	29.3	26.4	16.3	2.4	0.5
	男性20～29歳	5	40.0	60.0	60.0	40.0	20.0	20.0	20.0	20.0	0.0	0.0
	男性30～39歳	16	43.8	75.0	31.3	37.5	12.5	12.5	31.3	12.5	0.0	0.0
	男性40～49歳	42	57.1	64.3	23.8	35.7	33.3	23.8	23.8	4.8	4.8	0.0
	男性50～59歳	51	72.5	74.5	29.4	33.3	58.8	21.6	23.5	13.7	3.9	0.0
	男性60～69歳	70	68.6	65.7	54.3	55.7	38.6	44.3	28.6	21.4	1.4	1.4
	男性70歳以上	23	60.9	43.5	34.8	47.8	39.1	21.7	26.1	26.1	0.0	0.0
	女性	166	33.7	18.1	48.2	39.2	44.6	36.7	28.9	9.6	3.6	0.6
	女性20～29歳	10	10.0	30.0	40.0	40.0	40.0	60.0	40.0	20.0	0.0	0.0
	女性30～39歳	8	37.5	37.5	50.0	37.5	62.5	37.5	37.5	12.5	0.0	0.0
	女性40～49歳	37	21.6	10.8	48.6	37.8	43.2	27.0	27.0	16.2	8.1	0.0
	女性50～59歳	38	36.8	15.8	55.3	36.8	50.0	36.8	28.9	5.3	2.6	0.0
	女性60～69歳	44	38.6	22.7	50.0	36.4	43.2	38.6	31.8	2.3	4.5	2.3
女性70歳以上	29	44.8	13.8	37.9	48.3	37.9	37.9	20.7	13.8	0.0	0.0	

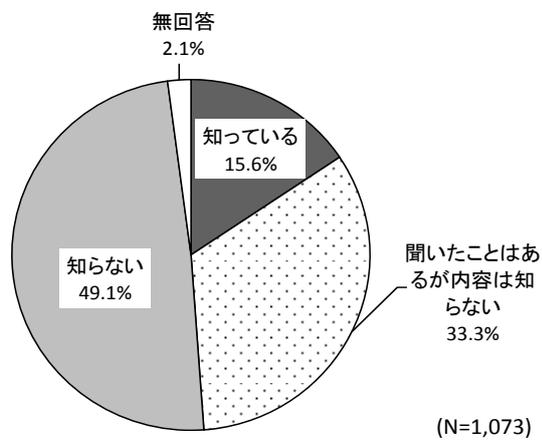
## 第3章 南海トラフ地震臨時情報が

# 発せられたときの行動について

### 1 「南海トラフ地震臨時情報」の認知【新規設問】

問 12 「南海トラフ地震臨時情報」が発表されることとなったことをご存知ですか。(○は1つ)

【(図表 12-1) 「南海トラフ地震臨時情報」の認知 単純集計】

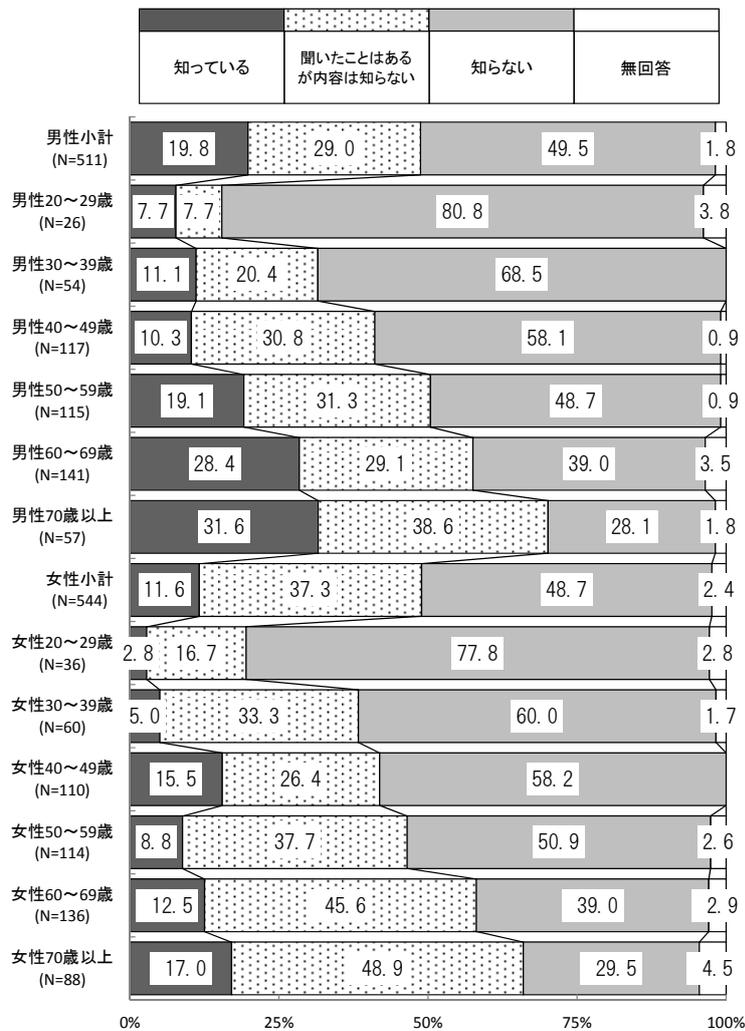


「南海トラフ地震臨時情報」の認知についてたずねたところ、「知らない」(49.1%)が最も高く、次いで「聞いたことはあるが内容は知らない」(33.3%)、「知っている」(15.6%)の順になっている。

地震発生後の防災活動への参加率を性・年齢別でみると、「知っている」は『男性』が19.8%、『女性』が11.6%となっており、『男性』が『女性』よりも高くなっている。

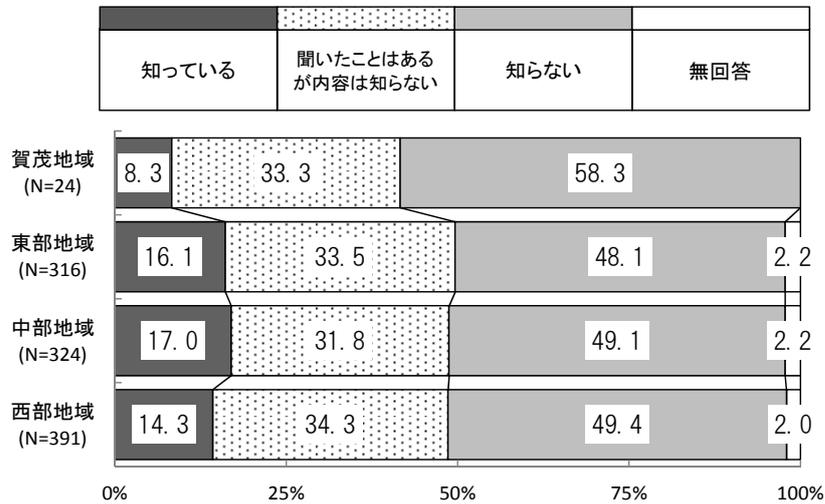
また、年齢別では「知っている」と「聞いたことはあるが内容を知らない」を合わせた認知している層は、男女ともに年齢が高くなるにつれて割合も高くなっている。

【(図 12-2) 「南海トラフ地震臨時情報」の認知 性・年齢別】



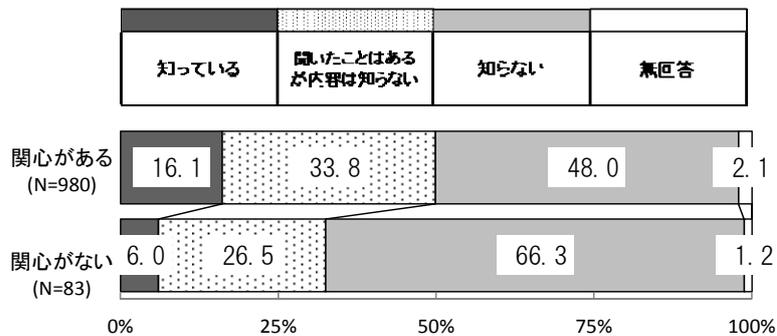
地域別でみると、「知っている」で最も高い『中部地域』(17.0%)と最も低い『賀茂地域』(8.3%)では8.7ポイントの差がみられる。

【(図 12-3) 「南海トラフ地震臨時情報」の認知 地域別】



南海トラフ地震への関心度別でみると、「知っている」については、『関心がある』(16.1%)は『関心がない』(6.0%)より10.1ポイント高くなっている。

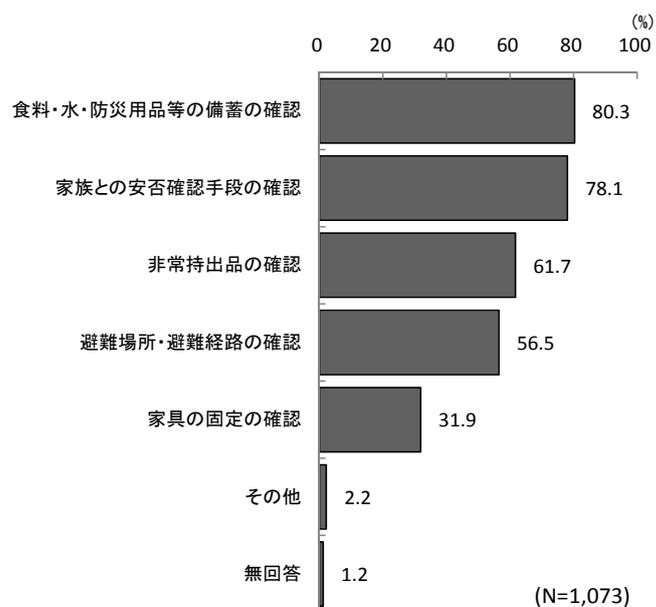
【(図表 12-4) 「南海トラフ地震臨時情報」の認知 南海トラフ地震への関心度別】



## 2 地震への備えの再確認【新規設問】

問 13 南海トラフ地震臨時情報（巨大地震警戒または巨大地震注意）が国から発せられた場合、地震への備えの再確認として、あなたが実施することを下記の項目の中から選び、○をつけてください。（○はいくつでも）

【（図表 13-1）地震への備えの再確認 単純集計】

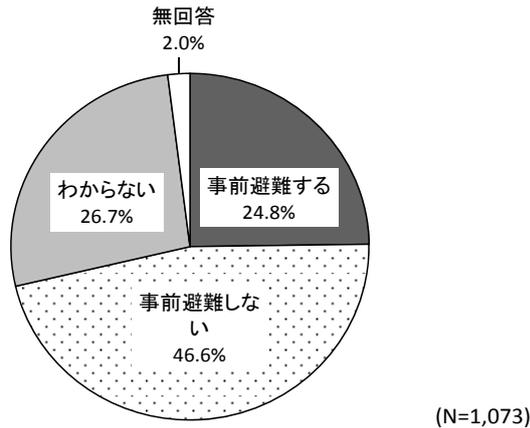


地震への備えの再確認についてたずねたところ、「食料・水・防災用品等の備蓄の確認」(80.3%)が最も高く、次いで「家族との安否確認手段の確認」(78.1%)、「非常持出品の確認」(61.7%)の順になっている。

### 3 事前避難への対応【新規設問】

問 14 南海トラフ地震臨時情報（巨大地震警戒）が発せられた場合、国は、地震発生後では緊急避難することが困難と想定される住民に対して1週間の事前避難が呼びかけられます。南海トラフ地震臨時情報（巨大地震警戒）が発せられた場合、あなたは事前避難しますか。（○は1つ）

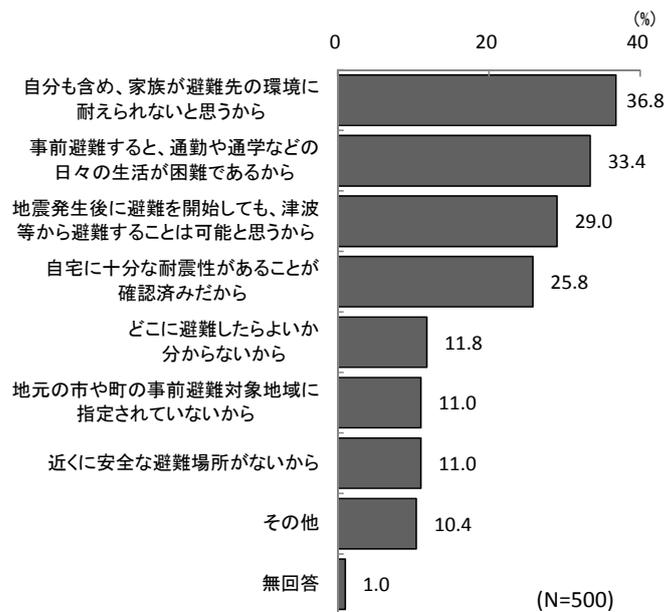
【（図表 14-1）事前避難に関する意向 単純集計】



<問 14 で「事前避難しない」を選んだ方にお伺いします。>

問 14-1 事前避難しない理由は何ですか。（○はいくつでも）

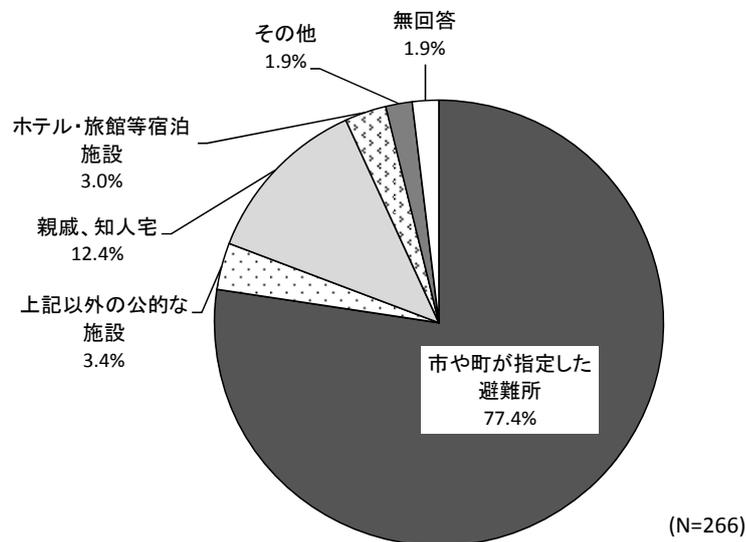
【（図表 14-2）事前避難をしない理由 単純集計】



<問 14 で「事前避難する」を選んだ方にお伺いします。>

問 14-2 あなたやご家族は、どこへ避難しますか（〇は1つ）

【（図表 14-3）事前避難する場所 単純集計】



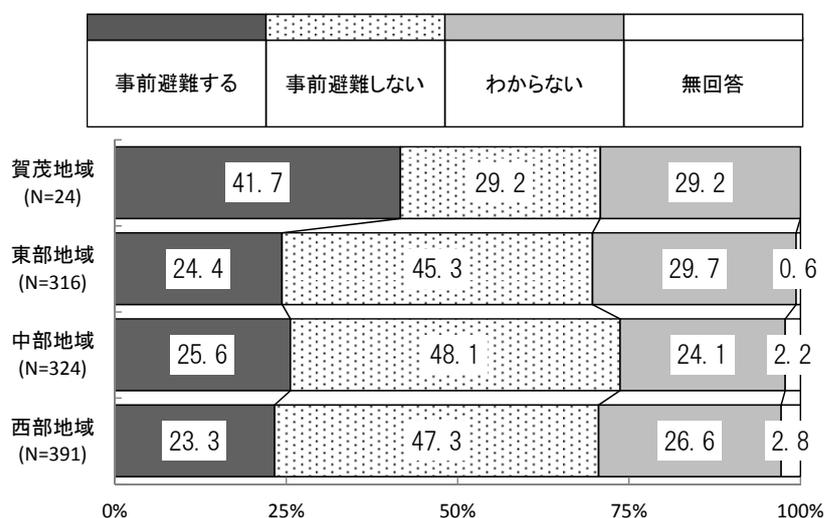
事前避難に関する意向についてたずねたところ、「事前避難しない」（46.6%）が最も高く、次いで「わからない」（26.7%）、「事前避難する」（24.8%）の順になっている。

また、問 14 で「事前避難しない」と回答した方に事前避難しない理由についてたずねたところ、「自分も含め、家族が避難先の環境に耐えられないと思うから」（36.8%）が最も高く、次いで「事前避難すると、通勤や通学などの日々の生活が困難であるから」（33.4%）、「地震発生後に避難を開始しても、津波等から避難することは可能と思うから」（29.0%）の順になっている。

また、問 14 で「事前避難する」と回答した方に事前避難する場所についてたずねたところ、「市や町が指定した避難所」（77.4%）が最も高く、次いで「親戚、知人宅」（12.4%）、「上記以外の公的な施設」（3.4%）の順になっている。**地域別**でみると、「参加する」で最も高い『賀茂地域』（41.7%）と最も低い『中部地域』（34.0%）、では7.7ポイントの差がみられる。

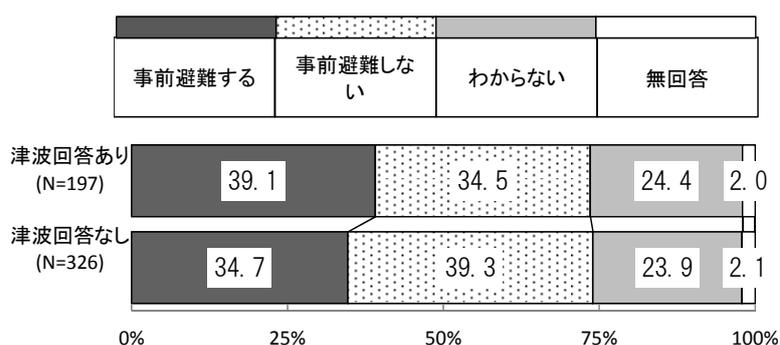
地域別でみると、「事前避難する」で最も高い『賀茂地域』（41.7%）と最も低い『西部地域』（23.3%）では18.4ポイントの差がみられる。

【（図 14-4）事前避難に関する意向 地域別】



予想される被害「津波」とそれ以外の回答者別でみると、「事前避難する」については、『津波回答あり』（39.1%）は『津波回答なし』（34.7%）より4.4ポイント高くなっている。

【（図 14-5）事前避難に関する意向 予想される被害「津波」とそれ以外の回答者別】

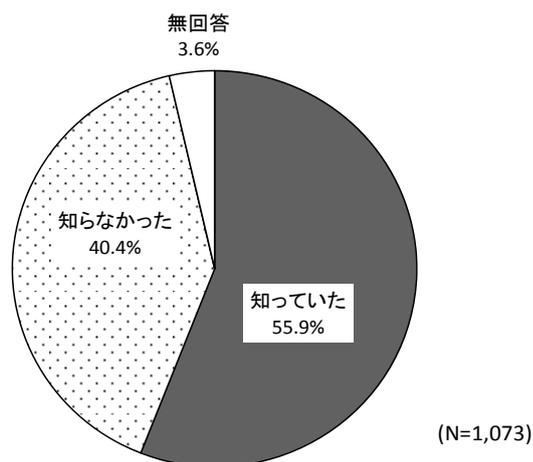


## 第4章 日ごろの防災対策について

### 1 ローリングストック法の認知

問15 前ページで解説した ローリングストック という備蓄方法を知っていましたか。

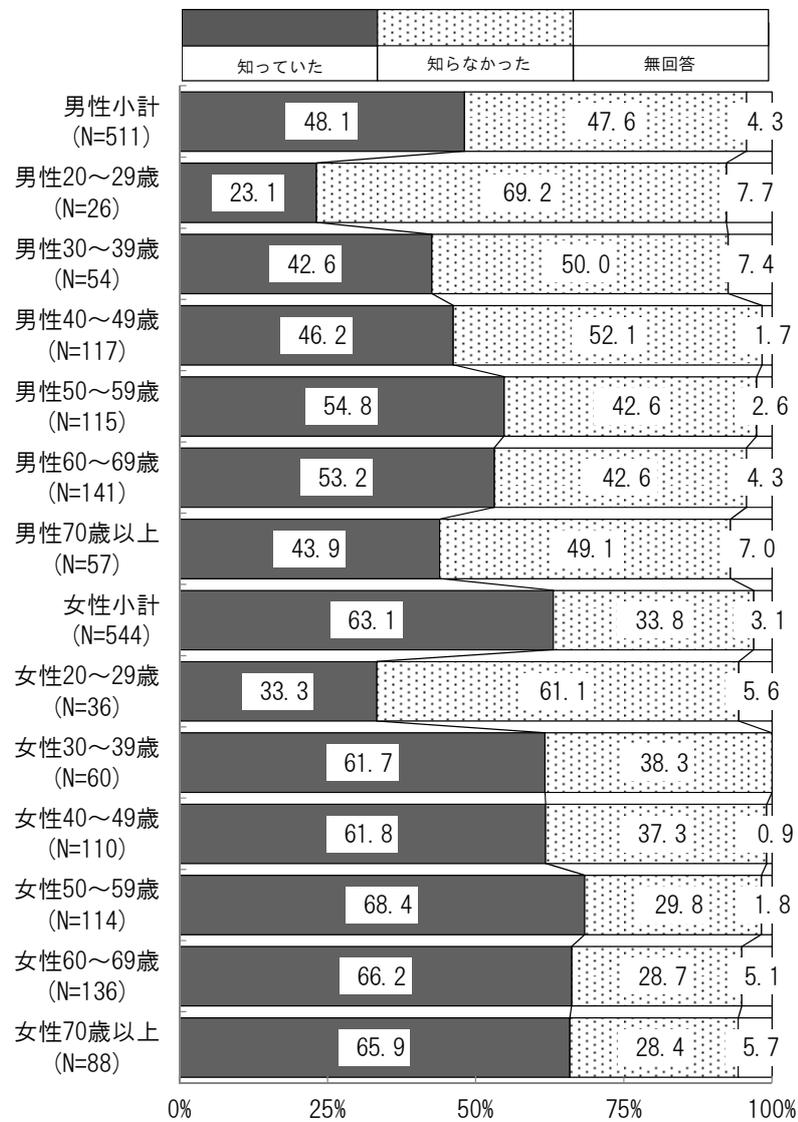
【(図表 15-1) ローリングストック法の認知 単純集計】



ローリングストック法の認知度についてたずねたところ、「知っていた」(55.9%)が「知らなかった」(40.4%)より15.5ポイント高くなっている。

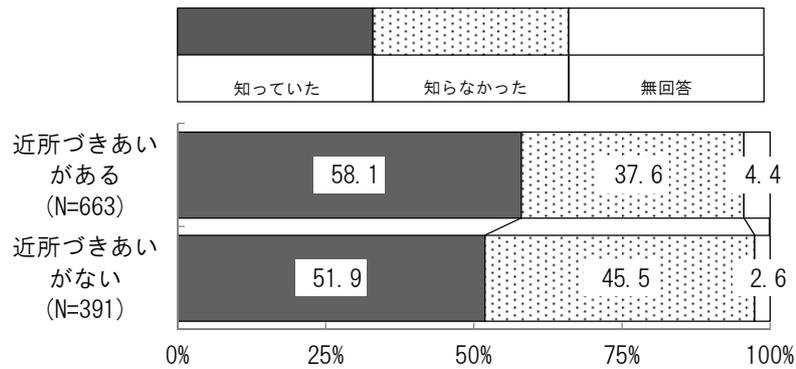
性・年齢別でみると、「知っていた」については、『女性 50～59 歳』（68.4%）が最も高く、『男性 20～29 歳』（23.1%）が最も低くなっている。

【（図表 15-2）ローリングストック法の認知 性・年齢別】



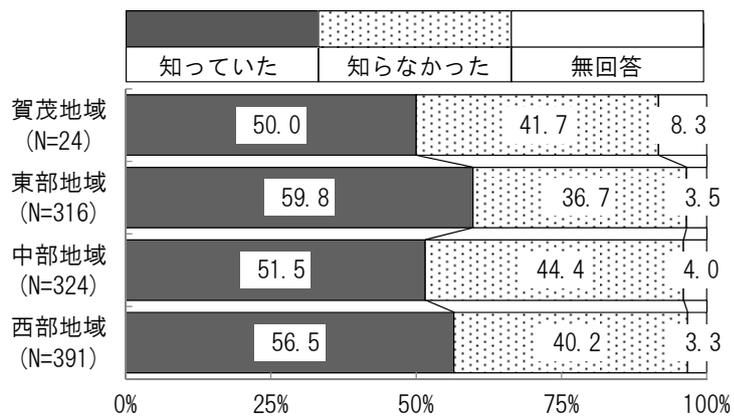
近所づきあいの有無別でみると、「知っていた」については、『近所づきあいがある』(58.1%)は『近所づきあいがない』(51.9%)より6.2ポイント高くなっている。

【(図表 15-3) ローリングストック法の認知 近所づきあいの有無別】



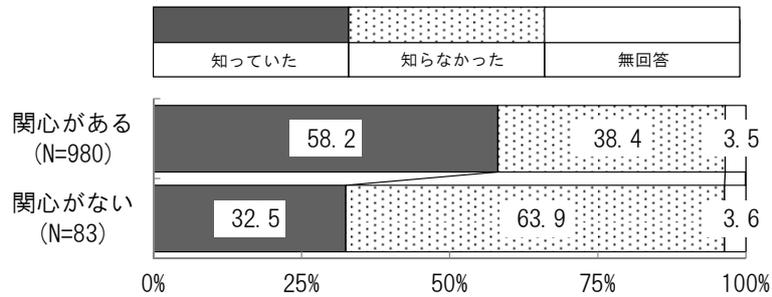
地域別でみると、「知っていた」については、『東部』(59.8%)が最も高く、『賀茂』(50.0%)が最も低くなっている。

【(図表 15-4) ローリングストック法の認知 地域別】



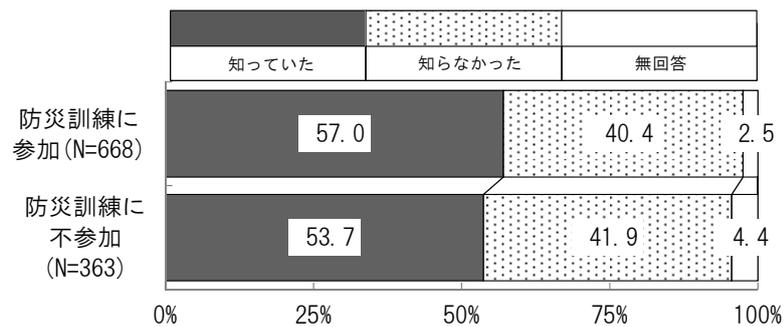
南海トラフ地震への関心度別でみると、「知っていた」については、『関心がある』(58.2%)は『関心がない』(32.5%)より25.7ポイント高くなっている。

【(図表 15-5) ローリングストック法の認知 南海トラフ地震への関心度別】



地震防災訓練参加の有無別でみると、「知っていた」については、『防災訓練に参加』(57.0%)は『防災訓練に不参加』(53.7%)より3.3ポイント高くなっている。

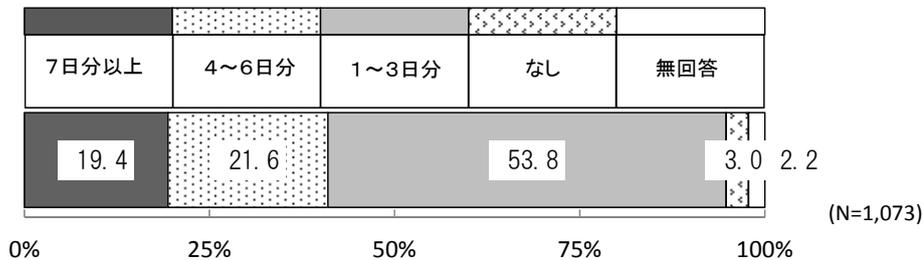
【(図表 15-6) ローリングストック法の認知 地域防災訓練参加の有無別】



## 2 災害時に利用できる食料の備蓄

問 16 今、災害が発生したと仮定して、あなたのお宅では、利用できる食料は家族の何日分ありますか。(該当箇所○を1つ)

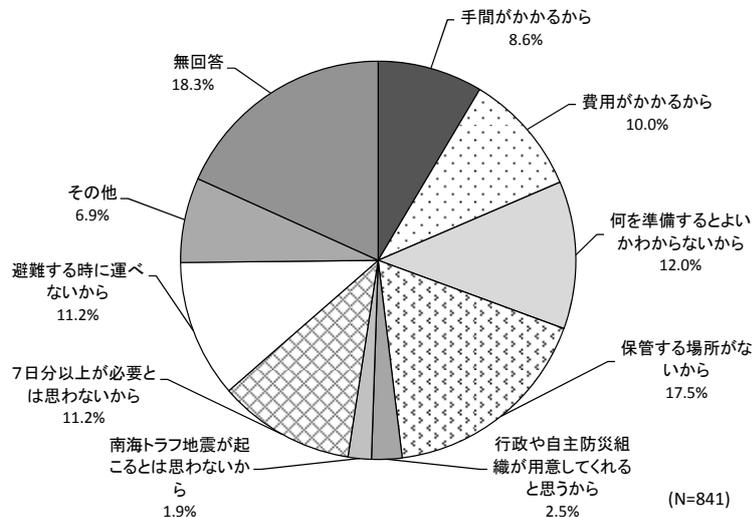
【(図表 16-1) 災害時に利用できる食料の備蓄日数 単純集計】



<問 16 で 7 日未満を選んだ方にお伺いします。>

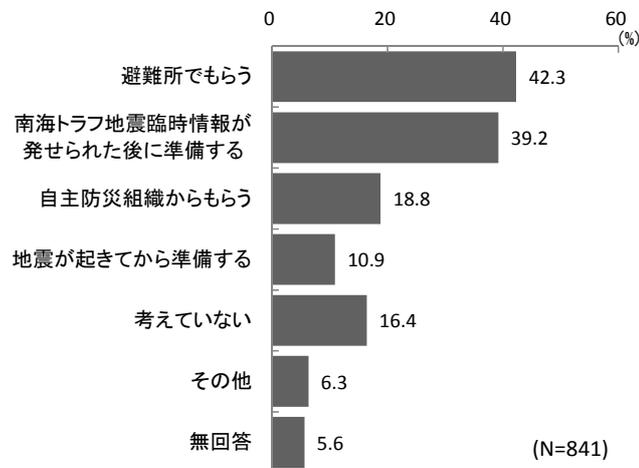
問 16-1 県では現在、各家庭で災害時に利用できる食料について、ローリングストック法も活用して、家族の 7 日分以上の用意を推奨しています。あなたのお宅で現在のところ 7 日分以上の食料を用意してしないのはどのような理由からですか。(○は 1 つ)

【(図表 16-2) 7 日分以上の食料を用意していない理由 単純集計】



問 16-2 地震が発生した場合、必要な食料をどのようにして確保しますか。(〇はいくつでも)

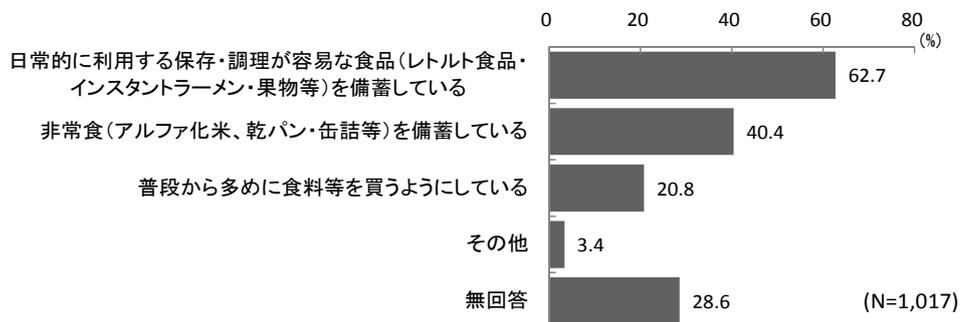
【(図表 16-3) 必要な食料の確保手段 単純集計】



<問 16 で「なし」以外を選んだ方にお伺いします。>

問 16-3 災害時に利用できる食料として、何を用意していますか。(〇はいくつでも)

【(図表 16-4) 災害時に利用できる食料として準備しているもの 単純集計】



災害時に利用できる食料の備蓄日数についてたずねたところ、「1～3日分」(53.8%)が最も高く、次いで「4～6日分」(21.6%)、「7日分以上」(19.4%)、「なし」(3.0%)の順になっている。

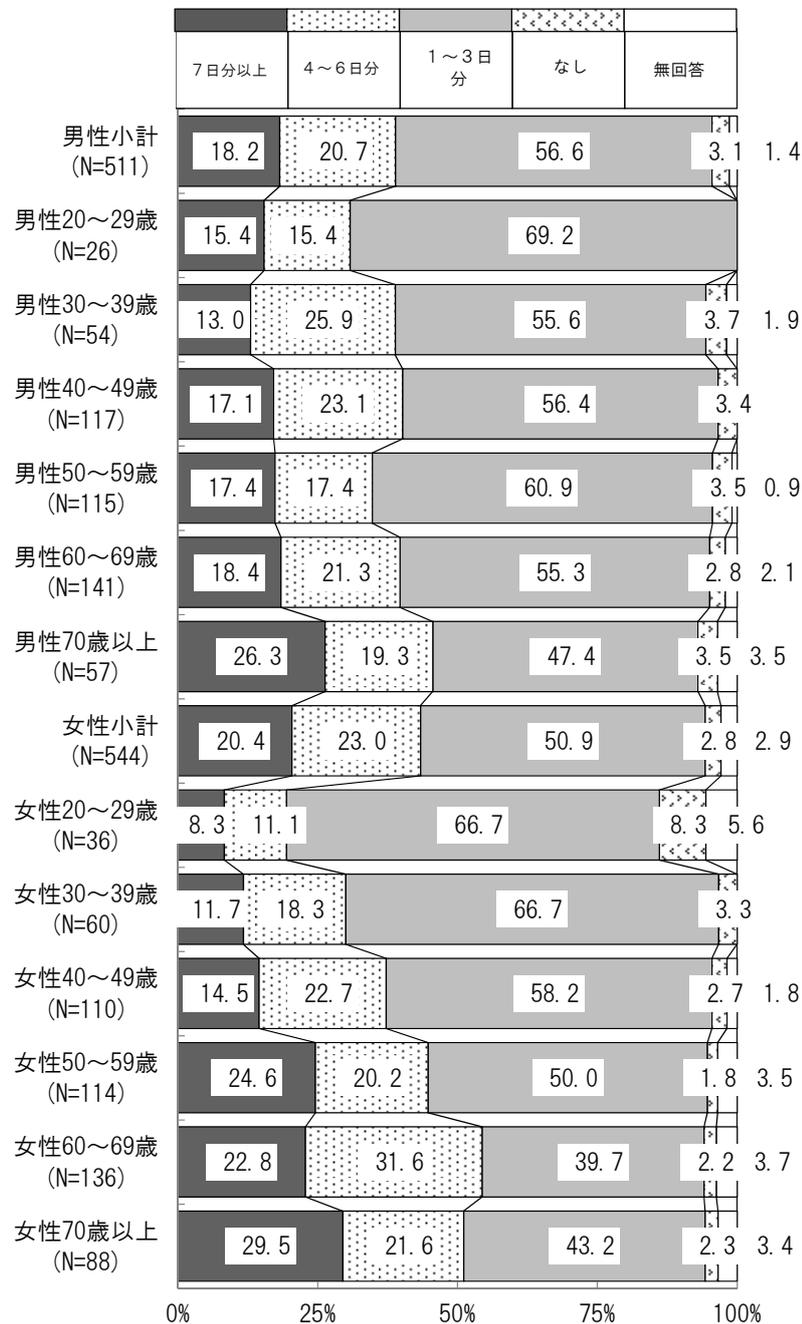
また、問16で7日未満と回答した方に、7日分以上の食料を用意していない理由をたずねたところ、「保管する場所がないから」(17.5%)が最も高く、次いで「何を準備するとよいかわからないから」(12.0%)、「7日分以上が必要とは思わないから」、「避難する時に運べないから」(ともに11.2%)の順になっている。

食料確保の手段についてもたずねたところ、「避難所でもらう」(42.3%)、「南海トラフ地震臨時情報が発せられた後に準備する」(39.2%)、「自主防災組織からもらう」(18.8%)の順になっている。

また、問16で用意していると回答した人に災害時に利用できる食料の用意のために何をしているかたずねたところ、「日常的に利用する保存・調理が容易な食品(レトルト食品・インスタントラーメン・果物等)を備蓄している」(62.7%)が最も高く、次いで「非常食(アルファ化米、乾パン・缶詰等)を備蓄している」(40.4%)、「普段から多めに食料等を買うようにしている」(20.8%)となっている。

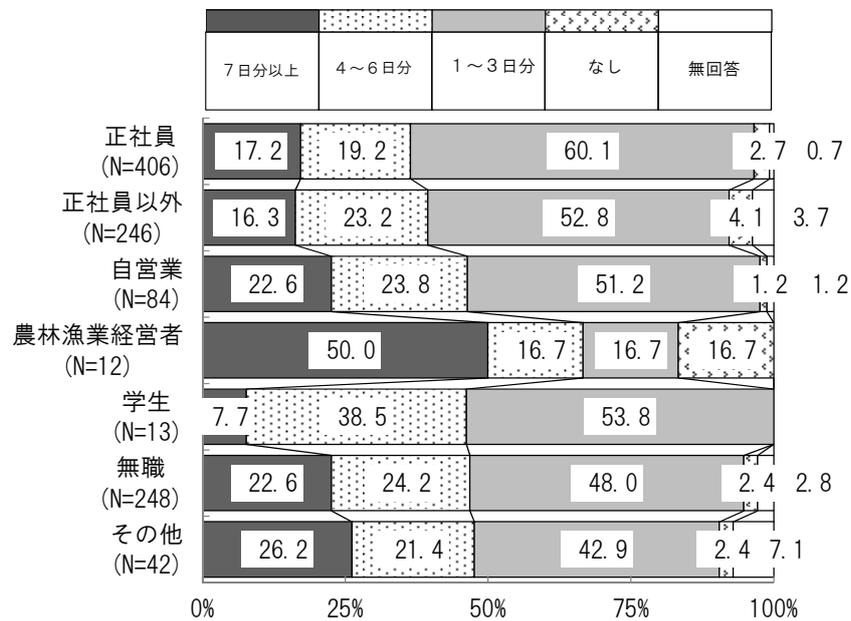
性・年齢別でみると、「7日分以上」は『女性70歳以上』（29.5%）、『男性70歳以上』（26.3%）が他の性・年齢層より高くなっている。一方、「なし」は『女性20～29歳』（8.3%）が他の性・年齢層より高くなっている。

【（図表 16-5）災害時に利用できる食料の備蓄日数 性・年齢別】



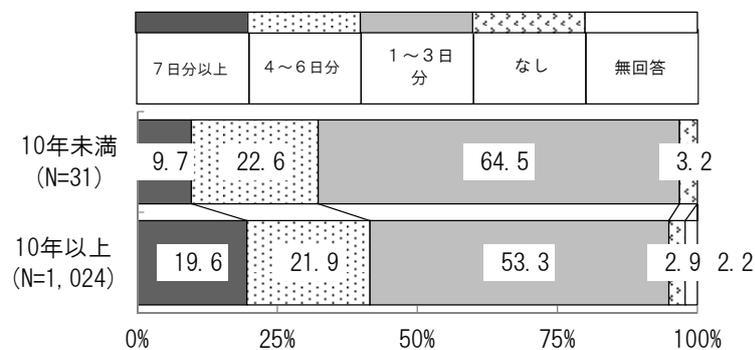
職業別でみると、「7日分以上」は『農林漁業経営者』（50.0%）が他の職業より高くなっている。

【（図表 16-6）災害時に利用できる食料の備蓄日数 職業別】



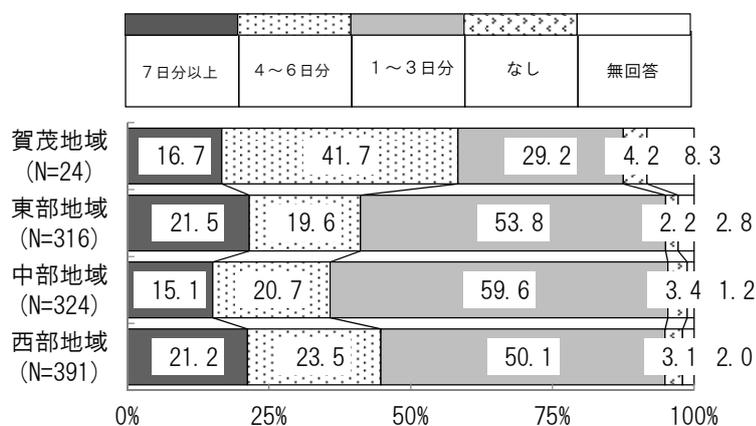
居住期間別でみると、「7日分以上」については、『10年以上』（19.6%）が『10年未満』（9.7%）より9.9ポイント高くなっている。

【（図表 16-7）災害時に利用できる食料の備蓄日数 居住期間別】



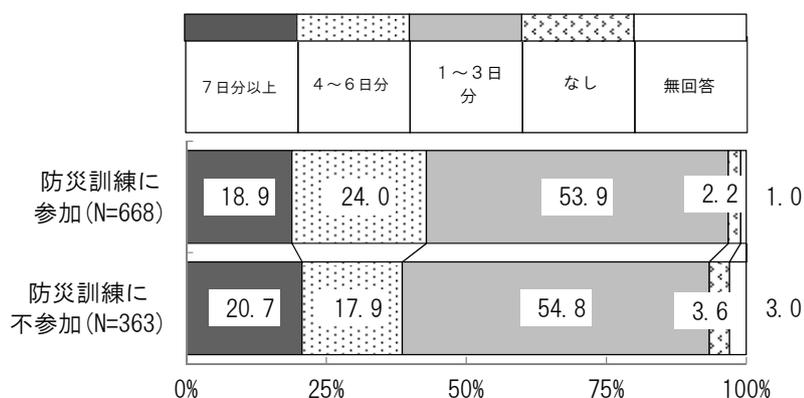
地域別でみると、「7日分以上」は『東部』(21.5%)が最も高く、『中部』(15.1%)が最も低くなっている。

【(図表 16-8) 災害時に利用できる食料の備蓄日数 地域別】



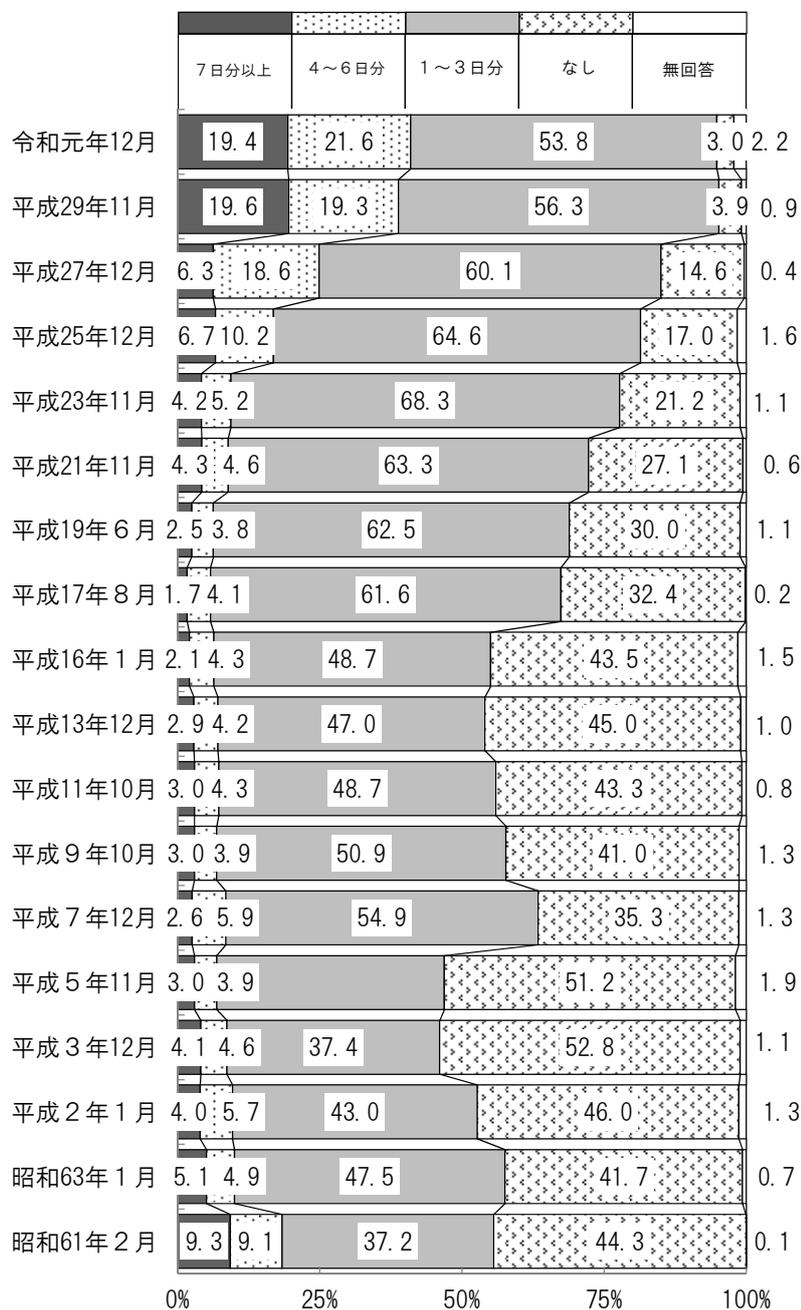
地震防災訓練参加の有無別でみると、「7日分以上」は、『防災訓練に参加』(18.9%)、『防災訓練に不参加』(20.7%)と大きな差異はみられない。

【(図表 16-9) 災害時に利用できる食料の備蓄日数 地震防災訓練参加の有無別】



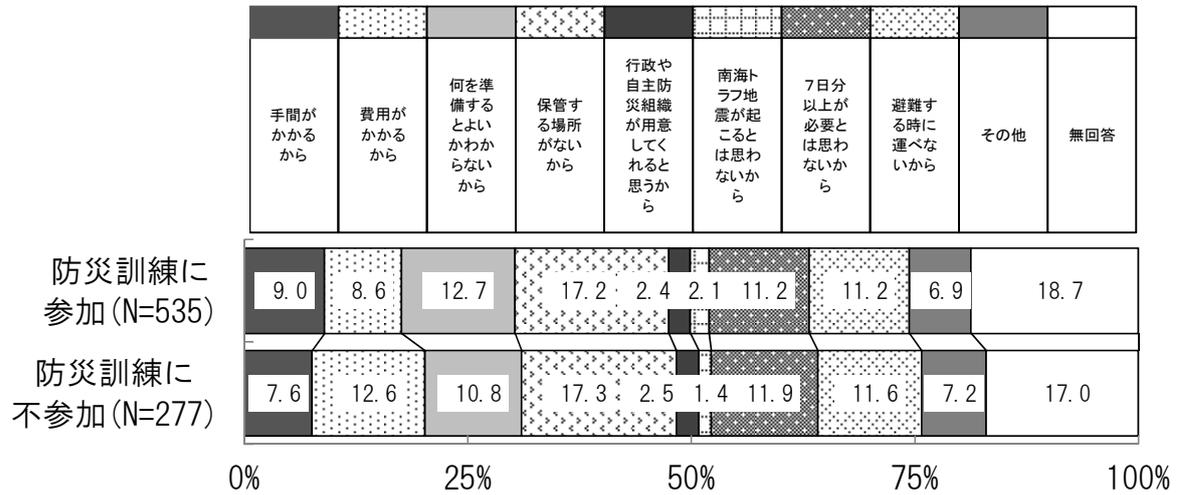
経年比較でみると、「7日分以上」は、今回調査（19.4%）、平成29年11月の前回調査（19.6%）と大きな差はみられない。

【（図表 16-10）災害時に利用できる食料の備蓄日数 経年比較】



7日分以上の食料を用意していない理由について、地震防災訓練参加の有無別で見ると、「費用がかかるから」では『防災訓練に不参加』(12.6%)は『防災訓練に参加』(8.6%)より4.0ポイント高くなっている。

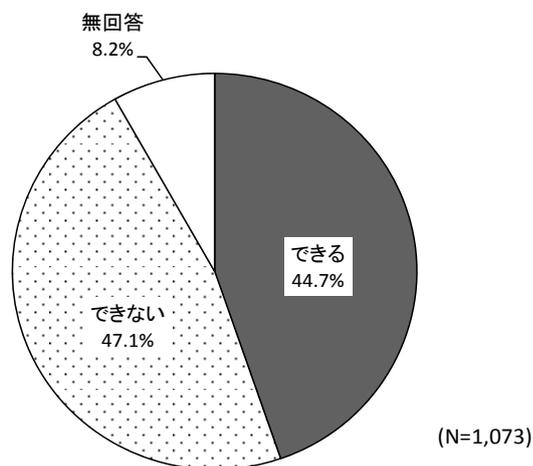
【(図表 16-11) 7日分以上の食料を用意していない理由 地震防災訓練参加の有無別】



### 3 一週間分の食糧の備蓄の有無

問 17 改めてお伺いします。あなたのお宅にある食料を全て利用すれば（家庭菜園等の収穫物も含む）家族 1 週間分の食料を確保できますか（○は 1 つ）

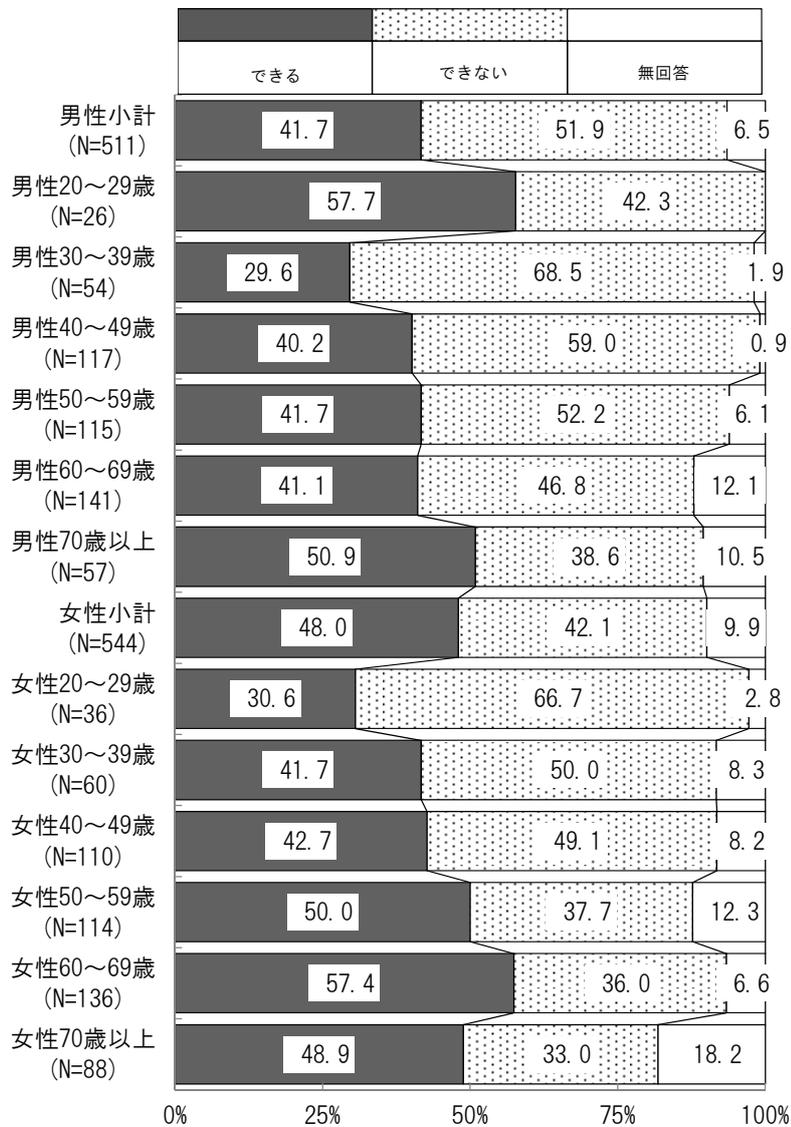
【（図表 17-1）一週間分の食糧の備蓄の有無 単純集計】



災害が発生したと仮定して家族で 1 週間分の食料の備蓄についてたずねたところ、「できる」(44.7%) が「できない」(47.1%) より 2.4 ポイント低くなっている。

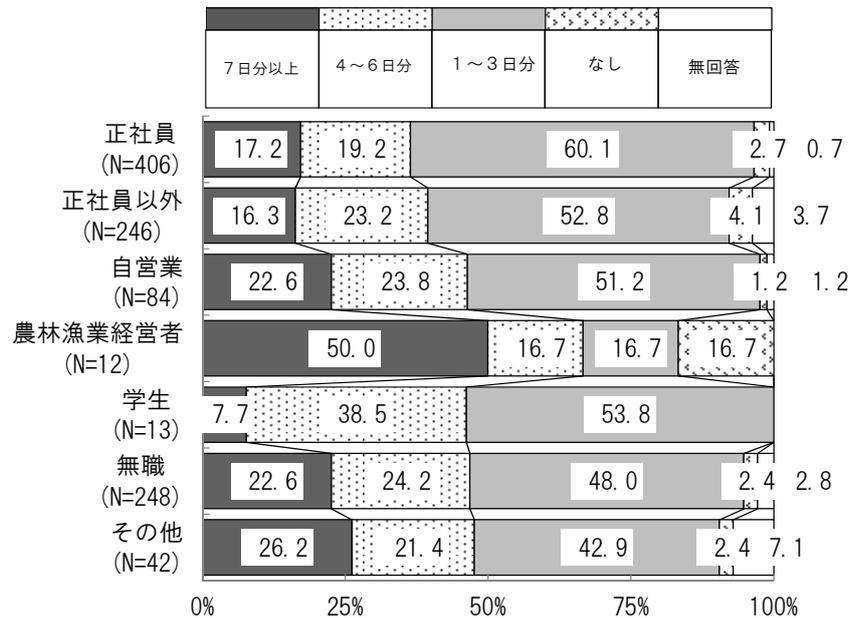
性・年齢別でみると、「できる」は『女性 20～29 歳』を除いて女性の方が高い傾向にある。また、『男性 20～29 歳』(57.7%) が最も高く、『男性 30～39 歳』(29.6%) が最も低くなっている。

【(図表 17-2) 一週間分の食糧の備蓄の有無 性・年齢別】



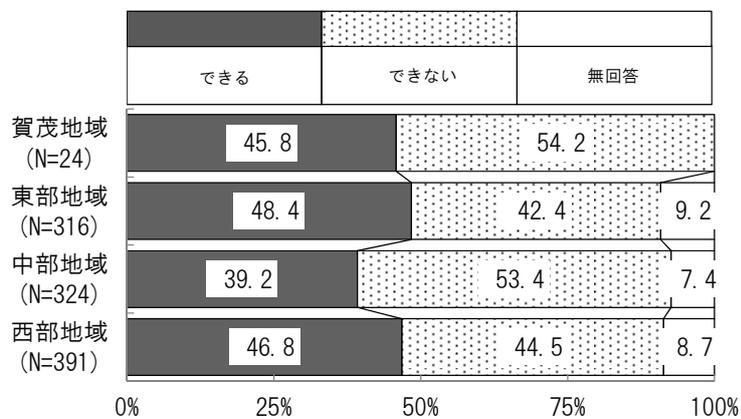
職業別でみると、「できる」は『農林漁業経営者』（83.3%）が他の職業より高くなっている。

【（図表 17-3）一週間分の食糧の備蓄の有無 職業別】



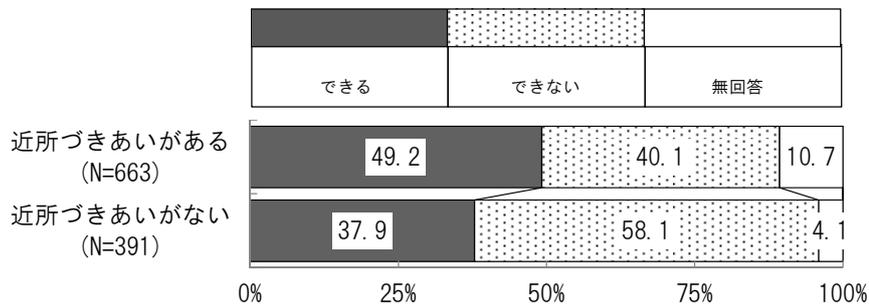
地域別でみると、「できる」は『東部』(48.4%)が最も高く、『中部』(39.2%)が最も低くなっている。

【（図表 17-4）一週間分の食糧の備蓄の有無 地域別】



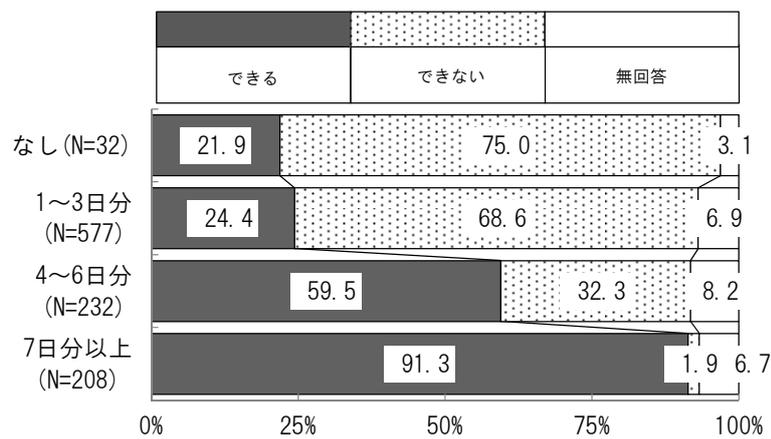
近所づきあいの有無別でみると、「できる」について『近所づきあいがある』(49.2%)が『近所づきあいがない』(37.9%)に比べて11.3ポイント高くなっている。

【(図表 17-5) 一週間分の食糧の備蓄の有無 近所づきあいの有無別】



備蓄食料日数別でみると、「できる」は備蓄食料日数が多くなるにつれて高くなる傾向にあり、『なし』(21.9%)に対して『7日分以上』(91.3%)は4倍以上となっている。

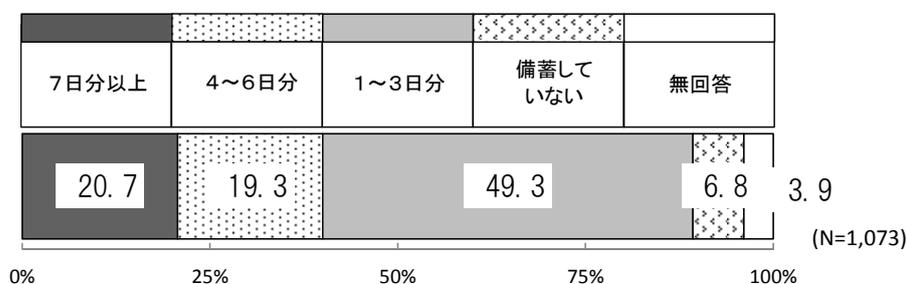
【(図表 17-6) 一週間分の食糧の備蓄の有無 備蓄食糧日数別】



#### 4 災害時に利用できる飲料水の備蓄

問 18 今、災害が発生したと仮定して、あなたのお宅では、利用できる飲料水は家族の何日分ありますか。ご家族ひとり1日あたり3リットルで計算してください。(○は1つ)

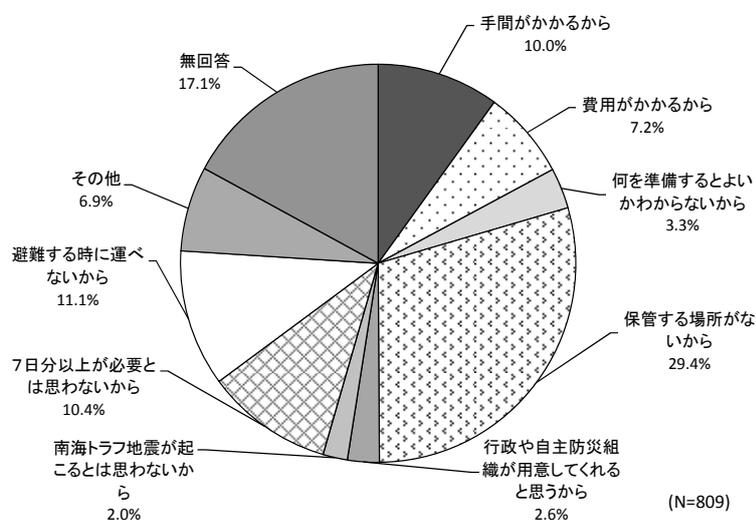
【(図表 18-1) 災害時に利用できる飲料水の備蓄日数 単純集計】



<問 18 で 7 日未満を選んだ方にお伺いします。>

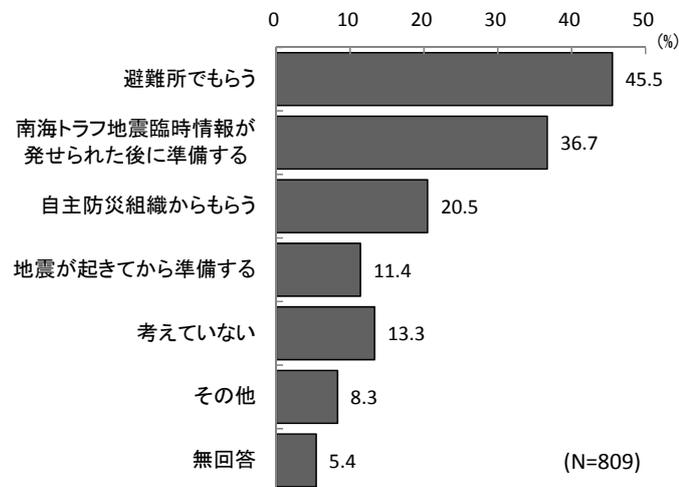
問 18-1 県では現在、災害時に備えて、各家庭で家族の 7 日分以上の飲料水の用意を推奨しています。あなたのお宅で現在のところ 7 日分以上の飲料水を用意していないのはどのような理由からですか。(○は 1 つ)

【(図表 18-2) 7 日分以上の飲料水を用意していない理由 単純集計】



問 18-2 地震が発生した場合、必要な飲料水をどのようにして確保しますか。(〇はいくつでも)

【(図表 18-3) 必要な飲料水の確保手段 単純集計】



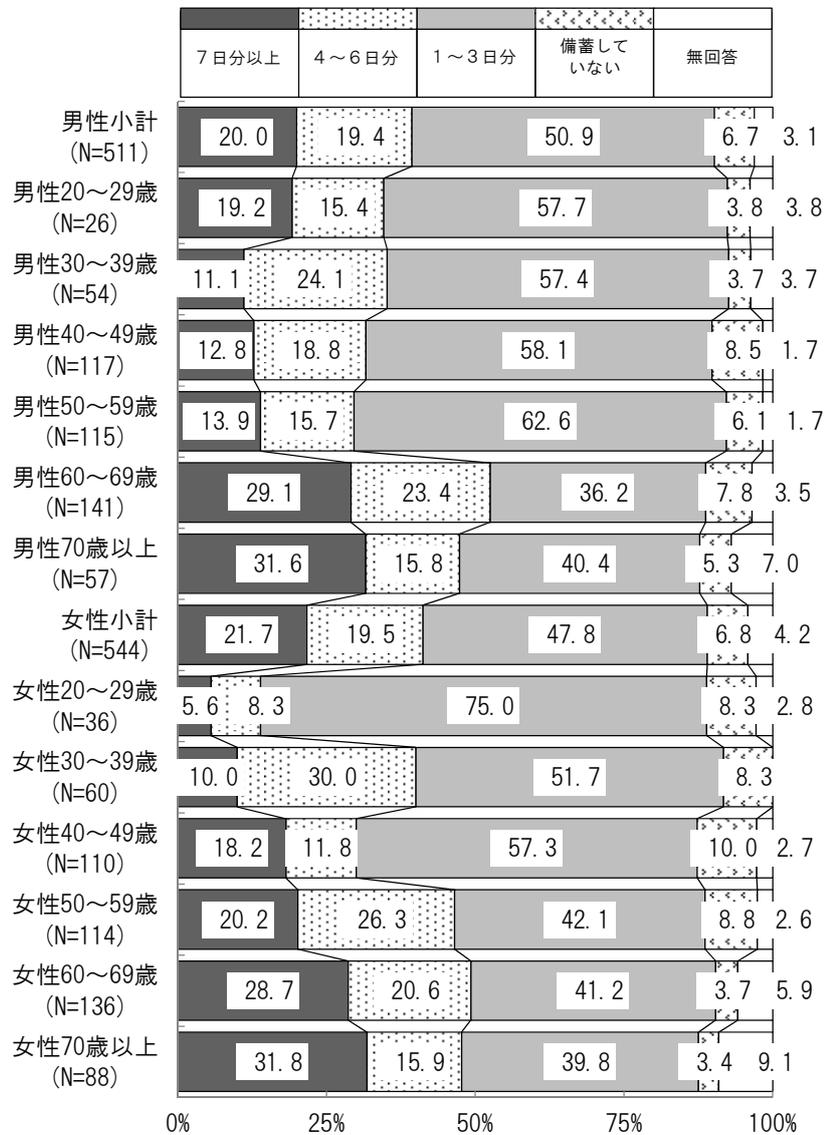
飲料水の備蓄日数についてたずねたところ、「1～3日分」(49.3%)が最も高く、次いで「7日分以上」(20.7%)、「4～6日分」(19.3%)の順になっている。

また、問 18 で「7日分以上」以外を回答した方に、7日分以上の飲料水を備蓄していない理由をたずねたところ、「保管する場所がないから」(29.4%)が最も高く、次いで「避難する時に運べないから」(11.1%)、「7日分以上が必要とは思わないから」(10.4%)の順になっている。

飲料水が必要となった場合の確保手段についてもたずねたところ、「避難所でもらう」(45.5%)が最も高く、次いで「南海トラフ地震臨時情報が発せられた後に準備する」(36.7%)、「自主防災組織からもらう」(20.5%)の順になっている。

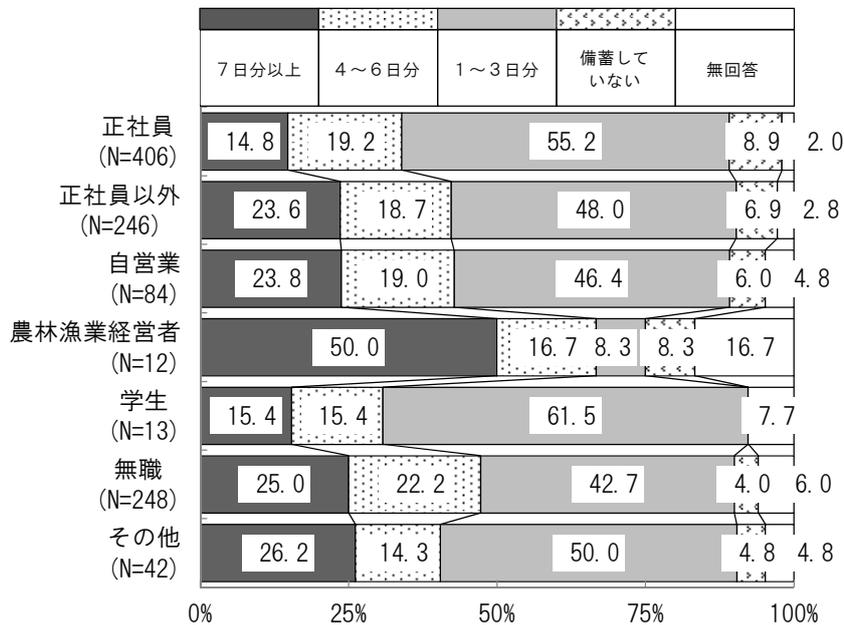
性・年齢別でみると、「1～3日分」と「備蓄していない」をあわせた「4日未満」は、『女性 20～29歳』が8割以上と他の性・年齢層より高くなっている。

【(図表 18-4) 災害時に利用できる飲料水の備蓄日数 性・年齢別】



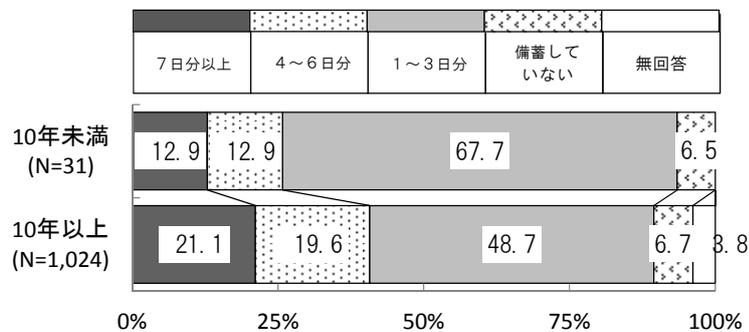
職業別でみると、「7日分以上」と「4～6日分」をあわせた「4日分以上」は、『正社員』(34.0%)、  
『学生』(30.8%)で4割にみえない。

【(図表 18-5) 災害時に利用できる飲料水の備蓄日数 職業別】



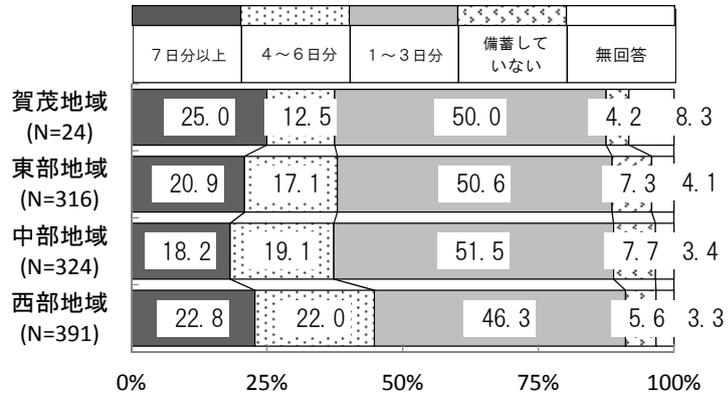
居住期間別でみると、「7日分以上」と「4～6日分」をあわせた「4日分以上」は、『10年以上』(40.7%)が『10年未満』(25.8%)より14.9ポイント高くなっている。

【(図表 18-6) 災害時に利用できる飲料水の備蓄日数 居住期間別】



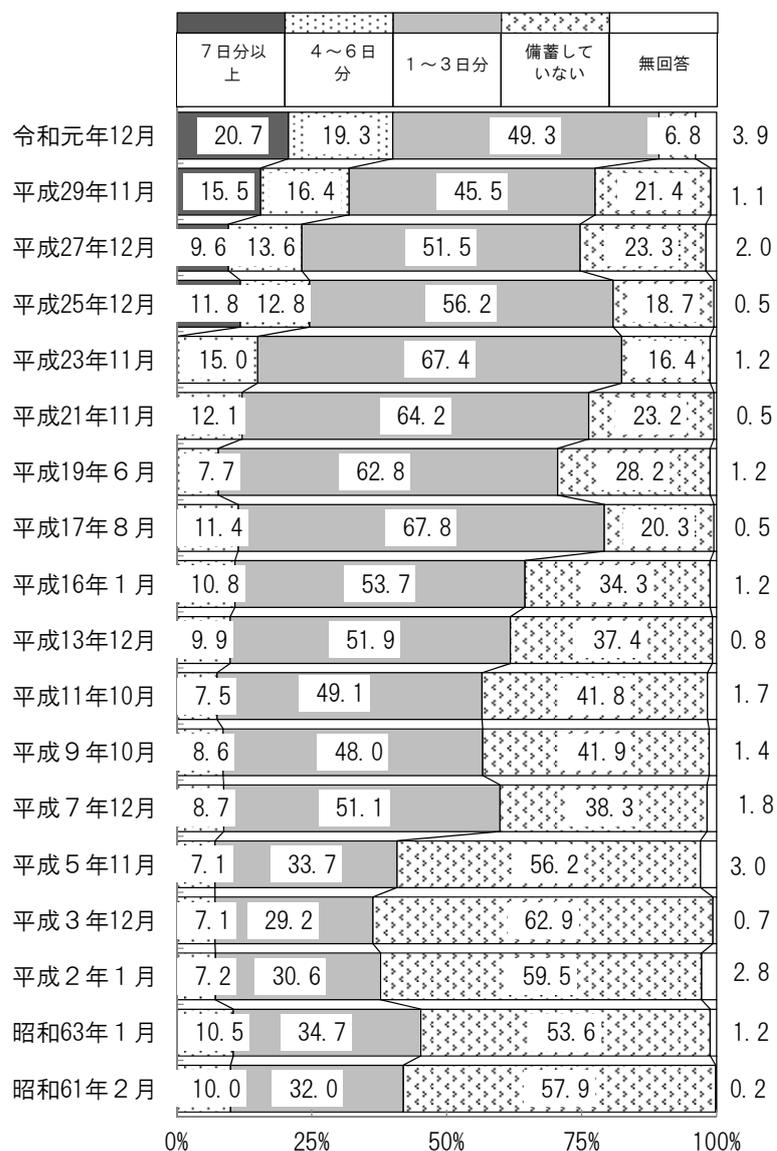
地域別でみると、「備蓄していない」は、『中部』(7.7%)が最も高く、『賀茂』(4.2%)が最も低くなっている。

【(図表 18-7) 災害時に利用できる飲料水の備蓄日数 地域別】



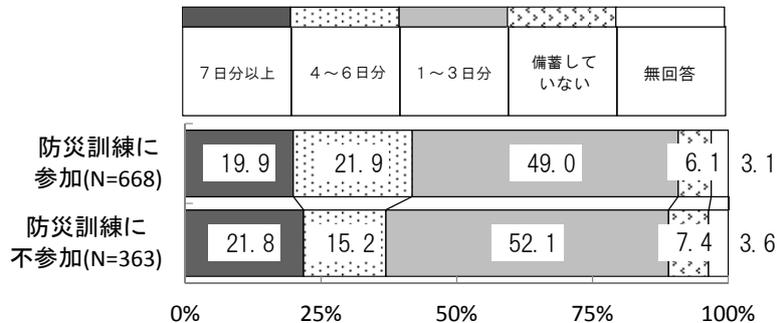
経年比較でみると、「7日分以上」と「4～6日分」をあわせた「4日分以上」は、今回調査（40.0%）では、平成29年11月の前回調査（31.9%）より8.1ポイント高くなっている。「備蓄していない」は、今回調査（6.8%）では、前回調査（21.4%）より14.6ポイント低くなっている。

【（図表 18-8）災害時に利用できる飲料水の備蓄日数 経年比較】



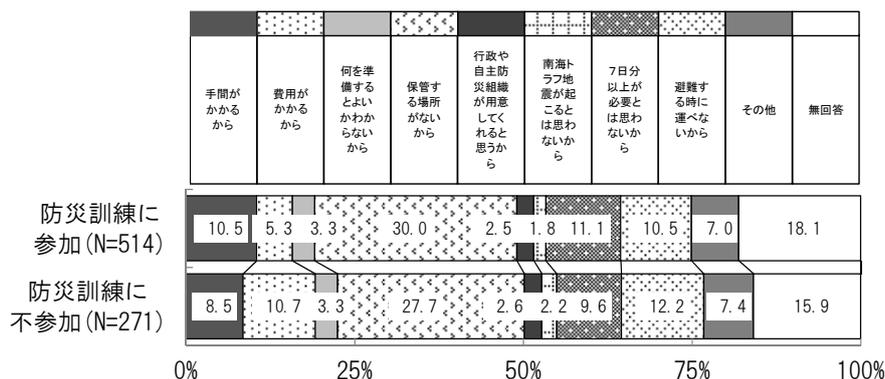
地震防災訓練参加の有無別でみると、「1～3日分」と「備蓄していない」をあわせた「4日未満」は、『防災訓練に不参加』(59.5%)は『防災訓練に参加』(55.1%)より高くなっている。

【(図表 18-9) 災害時に利用できる飲料水の備蓄日数 地震防災訓練参加の有無別】



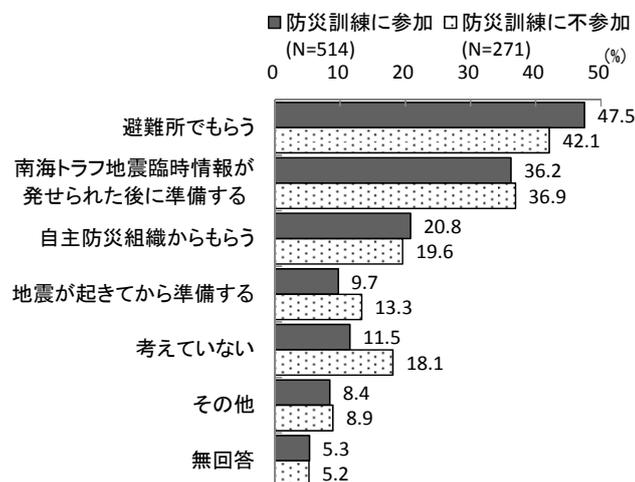
7日分以上の飲料水の備蓄していない理由を地震防災訓練参加の有無別でみると、「7日分以上が必要とは思わないから」では『防災訓練に参加』(11.1%)は『防災訓練に不参加』(9.6%)より高くなっている。

【(図表 18-10) 7日分以上の飲料水を用意していない理由 地震防災訓練参加の有無別】



飲料水が必要となった場合の確保手段を地震防災訓練参加の有無別でみると、「考えていない」では『防災訓練に不参加』(18.1%)は『防災訓練に参加』(11.5%)より高くなっている。

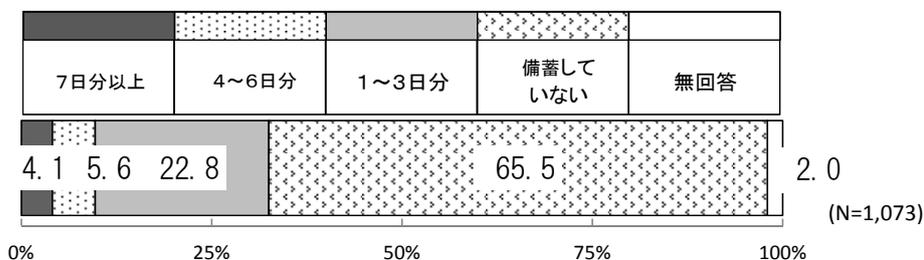
【(図表 18-11) 必要な飲料水の確保手段 地震防災訓練参加の有無別】



## 5 携帯トイレ・簡易トイレの備蓄

問19 あなたのお宅では、何日分の携帯トイレ・簡易トイレを備蓄していますか。ご家族ひとり1日あたり5回分使用するとして計算してください。(〇は1つ)

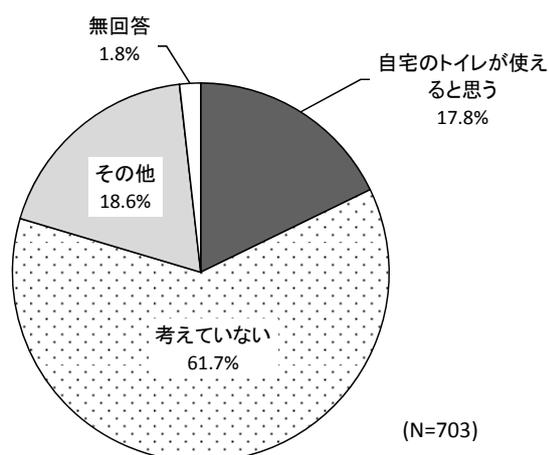
【(図表 19-1) 携帯トイレ・簡易トイレの備蓄日数 単純集計】



<問19で「備蓄していない」を選んだ方にお伺いします。>

問19-1 被災時にはどのような対応を想定していますか。(〇は1つ)

【(図表 19-2) 被災時の想定している対応 単純集計】

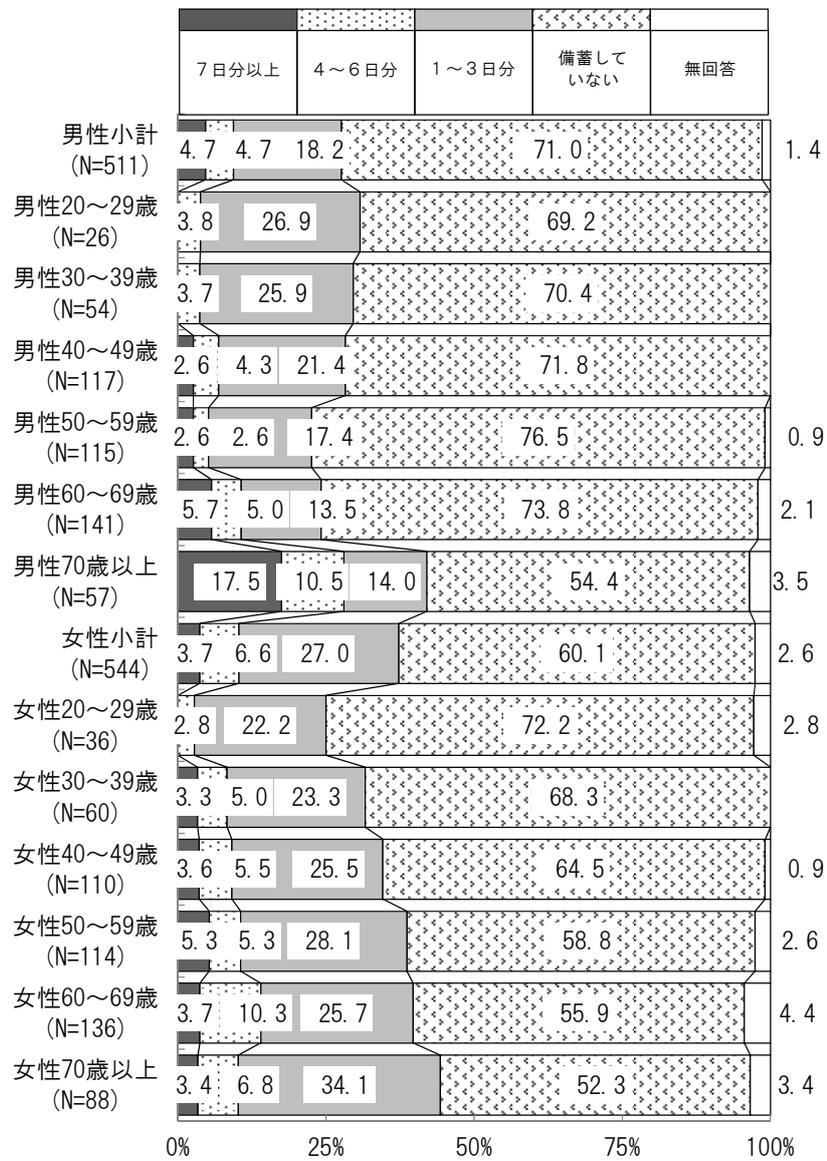


携帯トイレ・簡易トイレの備蓄日数についてたずねたところ、「備蓄していない」(65.5%)が最も高く、次いで「1～3日分」(22.8%)、「4～6日分」(5.6%)、「7日分以上」(4.1%)の順になっている。

また、携帯トイレ・簡易トイレを備蓄していない方に、被災時にはどのような対応を想定しているかたずねたところ、「考えていない」(61.7%)が最も高く、次いで「自宅のトイレが使えると思う」(17.8%)となっている。

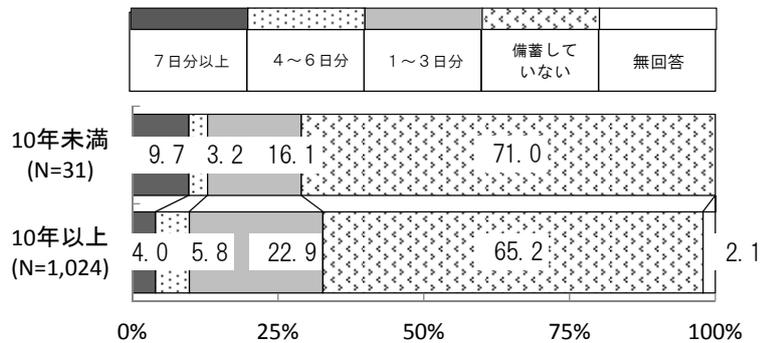
性・年齢別でみると、「備蓄していない」は、『男性 50～59 歳』（76.5%）が最も高くなっている。

【（図表 19-3）携帯トイレ・簡易トイレの備蓄日数 性・年齢別】



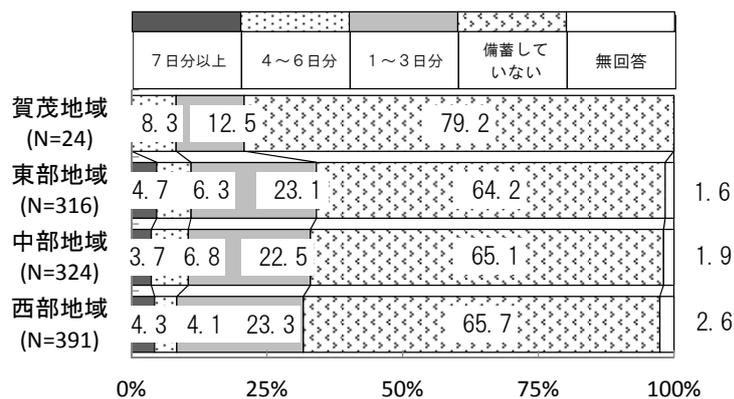
居住期間別で見ると、「7日分以上」と「4～6日分」をあわせた「4日分以上」では、『10年未満』(12.9%)が『10年以上』(9.8%)より3.1ポイント高くなっている。

【(図表 19-4) 携帯トイレ・簡易トイレの備蓄日数 居住期間別】



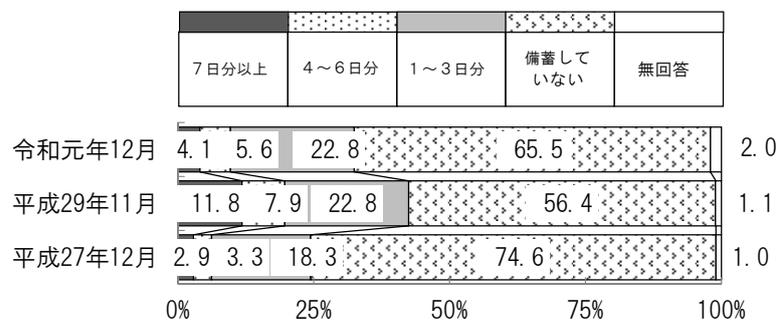
地域別で見ると、「備蓄していない」は、『賀茂』(79.2%)が最も高く、『東部』(64.2%)が最も低くなっている。

【(図表 19-5) 携帯トイレ・簡易トイレの備蓄日数 地域別】



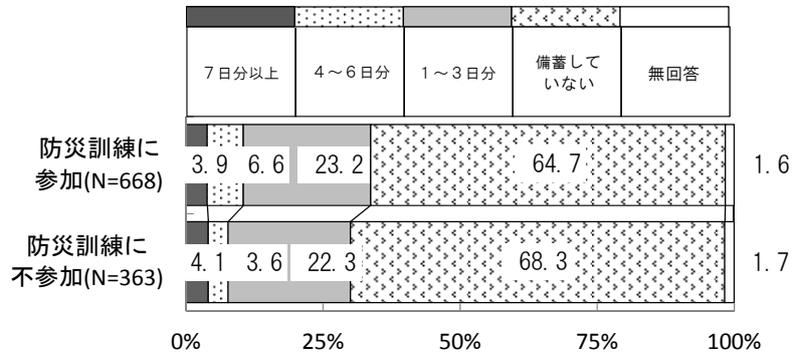
経年比較で見ると、「7日分以上」は、今回調査(4.1%)では、平成29年11月の前回調査(11.8%)より7.7ポイント低くなっている。一方、「備蓄していない」は、今回調査(65.5%)では、前回調査(56.4%)より9.1ポイント高くなっている。

【(図表 19-6) 携帯トイレ・簡易トイレの備蓄日数 経年比較】



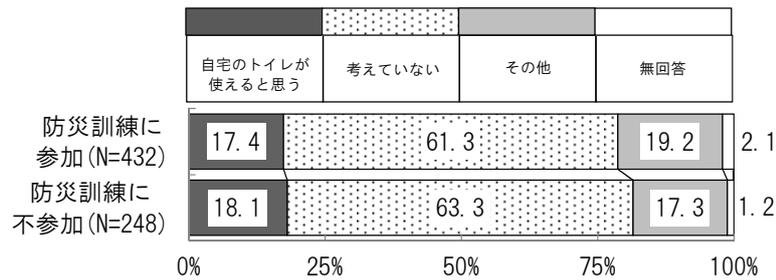
地震防災訓練参加の有無別でみると、「7日以上」と「4～6日分」をあわせた「4日分以上」では、『防災訓練に参加』（10.5%）は『防災訓練に不参加』（7.7%）より2.8ポイント高くなっている。

【（図表 19-7）携帯トイレ・簡易トイレの備蓄日数 地震防災訓練の参加の有無別】



被災時の想定している対応を地震防災訓練参加の有無別でみると、「考えていない」は、『防災訓練に不参加』（63.3%）は『防災訓練に参加』（61.3%）より2.0ポイント高くなっている。

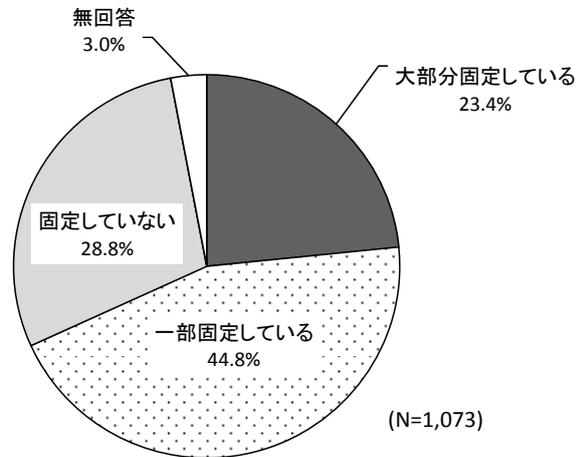
【（図表 19-8）被災時の想定している対応 地震防災訓練の参加の有無別】



6 地震に備えた家具類の固定

問 20 あなたのお宅では、地震に備えて家具類の固定をしていますか。(○は1つ)

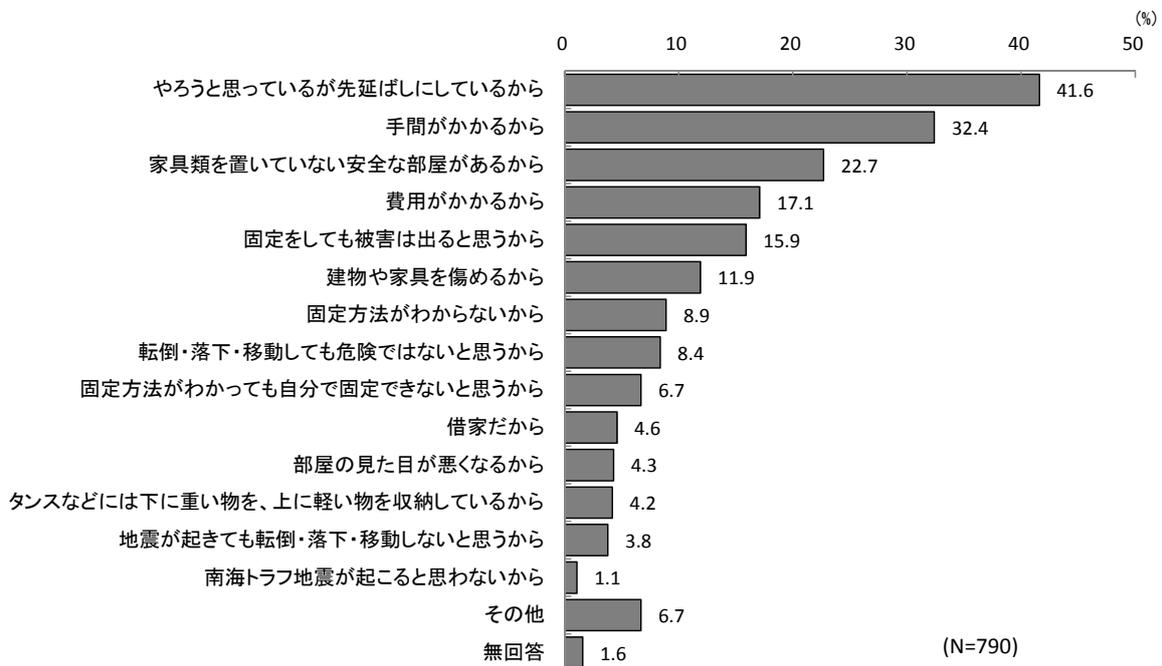
【(図表 20-1) 家具類の固定実施状況 単純集計】



<問 20 で「一部固定している」または「固定していない」を選んだ方にお伺いします。>

問 20-1 固定していない家具があるのはどのような理由からですか。(○はいくつでも)

【(図表 20-2) 家具類の固定をしていない理由 単純集計】

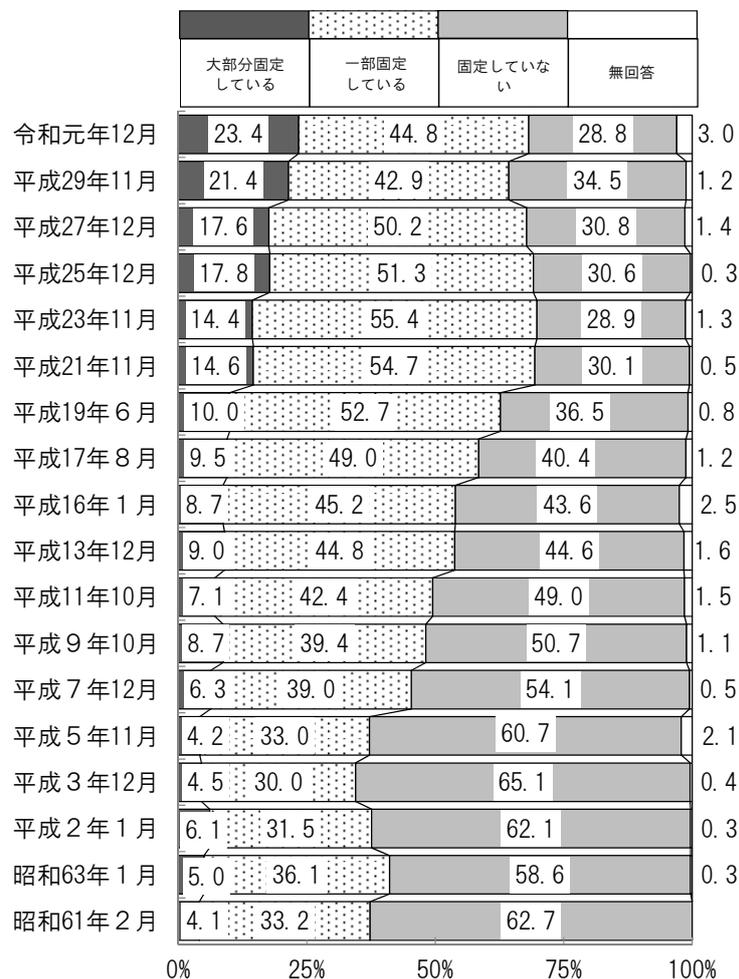


家具類の固定状況についてたずねたところ、「大部分固定している」(23.4%)と「一部固定している」(44.8%)をあわせると、家具の固定実施率は68.2%となっている。

また、問20で「一部固定している」と「固定していない」と回答した人に、固定していない理由をたずねたところ、「やろうと思っているが先延ばしにしているから」(41.6%)が最も高く、次いで「手間がかかるから」(32.4%)、「家具類を置いていない安全な部屋があるから」(22.7%)、「費用がかかるから」(17.1%)、「固定をしても被害は出ると思うから」(15.9%)の順になっている。

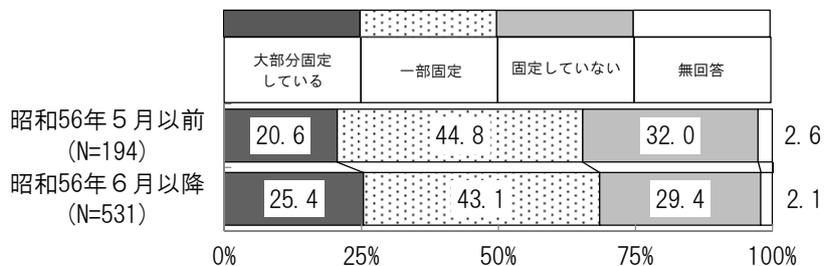
経年比較でみると、家具の固定実施率が、今回調査(68.2%)は平成29年11月の前回調査(64.3%)と比べ3.9ポイント高くなっている。

【(図表 20-3) 家具類の固定実施状況 経年比較】



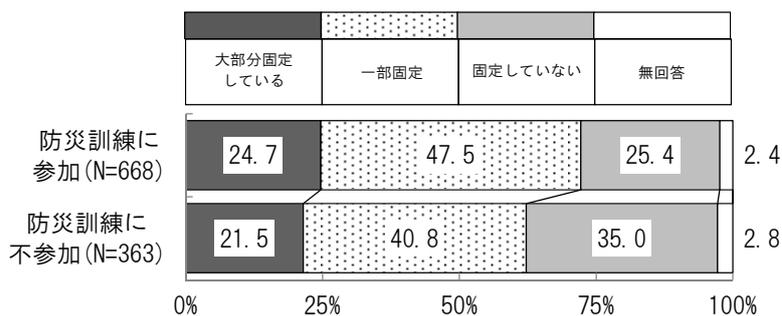
昭和56年5月以前建築と昭和56年6月以降との比較でみると、家具の固定実施率が、「昭和56年5月以前建築」(65.4%)は、「昭和56年6月以降建築」(68.5%)より3.1ポイント低くなっている。

【(図表 20-4) 家具類の固定実施状況  
昭和56年5月以前建築と昭和56年6月以降との比較】



地震防災訓練参加の有無別でみると、家具の固定実施率が、『防災訓練に参加』(72.2%)は『防災訓練に不参加』(62.3%)より9.9ポイント高くなっている。

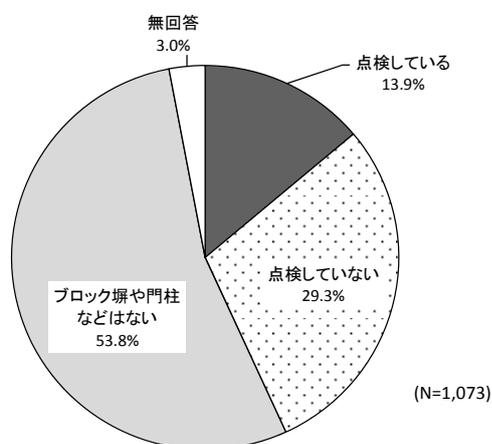
【(図表 20-5) 家具類の固定実施状況 地震防災訓練の参加の有無別】



## 7 ブロック塀・門柱などの安全点検

問 21 あなたのお宅では、ブロック塀や門柱などの安全性について点検していますか。(〇は1つ)

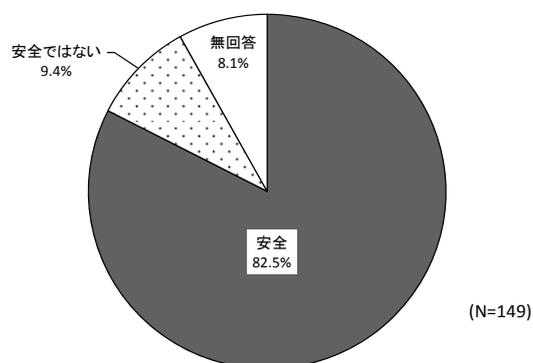
【(図表 21-1) ブロック塀・門柱の安全点検の実施状況 単純集計】



<問 21 で「点検している」を選んだ方にお伺いします。>

問 21-1 点検結果はいかがでしたか。(〇は1つ)

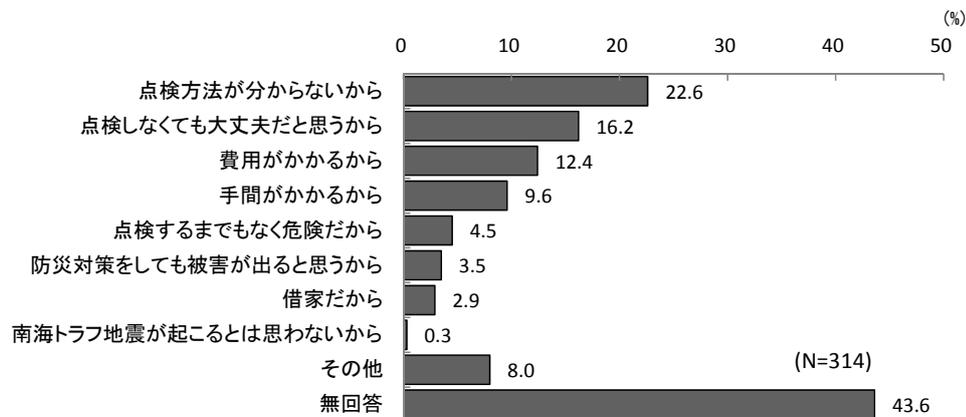
【(図表 21-2) ブロック塀・門柱の安全点検結果 単純集計】



<問 21 で「点検していない」を選んだ方にお伺いします。>

問 21-2 どのような理由からですか。(〇はいくつでも)

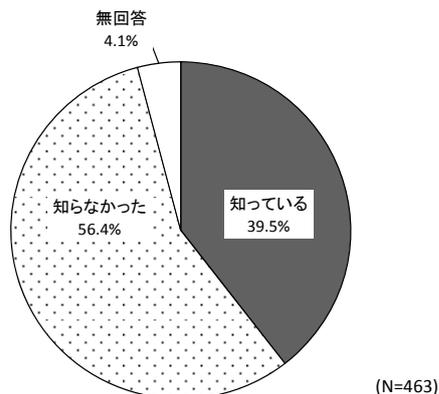
【(図表 21-3) ブロック塀・門柱の安全点検を実施しない理由 単純集計】



<問 21 で「点検している」または「点検していない」を選んだ方にお伺いします。>

問 21-3 現在、静岡県では危険なブロック塀の撤去、改善に対して補助する制度がありますが、このことをご存じですか。(〇は1つ)

【(図表 21-4) 補助制度の認知 単純集計】



ブロック塀・門柱などの安全性の点検についてたずねたところ、「ブロック塀や門柱などはない」(53.8%)が最も高く、次いで「点検していない」(29.3%)、「点検している」(13.9%)の順になっている。

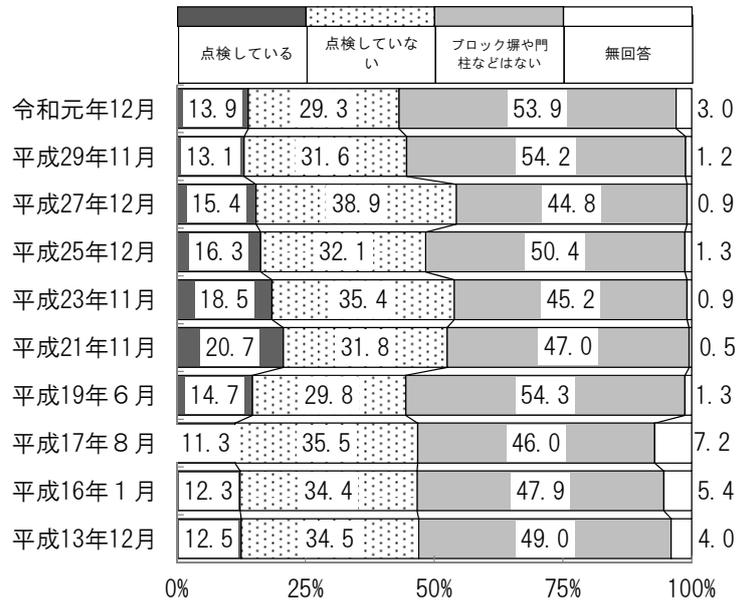
問 21 で「点検している」と回答した人に、点検結果をたずねたところ、「安全」が82.5%、「安全ではない」が9.4%となっている。

また、問 21 で「点検していない」と回答した人の点検していない理由をたずねたところ、「点検方法が分からないから」(22.6%)が最も高く、次いで「点検しなくても大丈夫だと思うから」(16.2%)、「費用がかかるから」(12.4%)の順になっている。

問 21 で「点検している」および「点検していない」と回答した人に、ブロック塀の撤去、改善の補助制度の認知についてたずねたところ、「知らなかった」が56.4%、「知っている」が39.5%となっている。

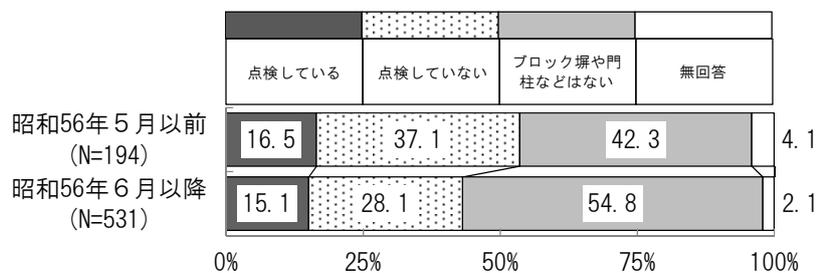
経年比較でみると、ブロック塀の安全性点検率は「点検していない」が、平成 29 年 11 月の前回調査 (31.6%) より、今回調査 (29.3%) の方が 2.3 ポイント低くなっている。

【(図表 21-5) ブロック塀・門柱の安全点検の実施状況 経年比較】



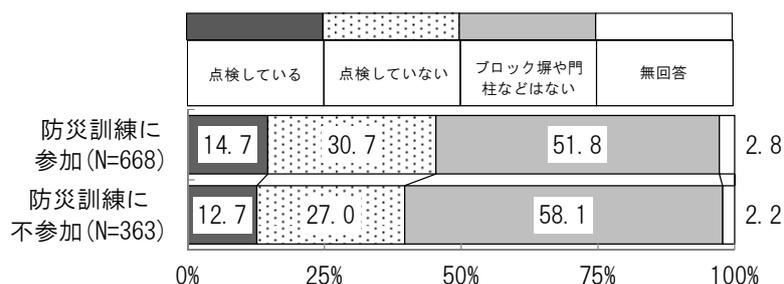
昭和 56 年 5 月以前建築と昭和 56 年 6 月以降との比較でみると、ブロック塀の安全性点検率は、「点検していない」が『昭和 56 年 5 月以前建築』(37.1%) は『昭和 56 年 6 月以降』(28.1%) より 9.0 ポイント高くなっている。

【(図表 21-6) ブロック塀・門柱の安全点検の実施状況 昭和 56 年 5 月以前建築と昭和 56 年 6 月以降との比較】



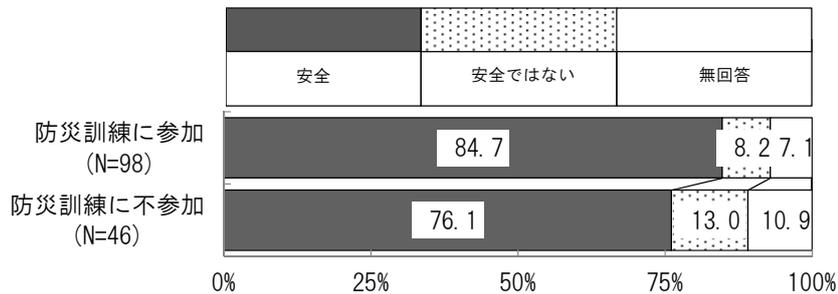
地震防災訓練参加の有無別でみると、ブロック塀の安全性点検率は「点検している」が『防災訓練に参加』(14.7%) は『防災訓練に参加しない』(12.7%) より 2.0 ポイント高くなっている。

【(図表 21-7) ブロック塀・門柱の安全点検の実施状況 地震防災訓練参加の有無別】



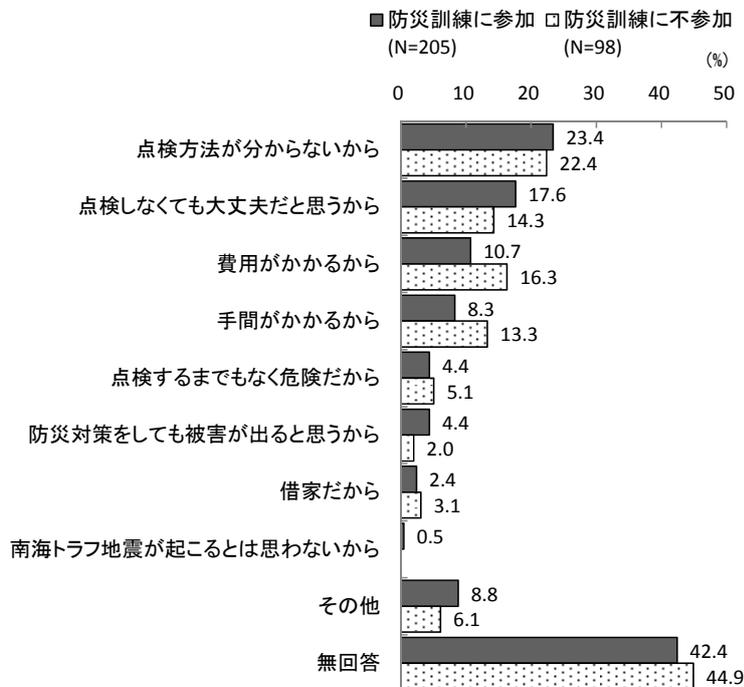
地震防災訓練参加の有無別でみると、点検結果が「安全」では『防災訓練に参加』（84.7%）が『防災訓練に不参加』（76.1%）と比べ8.6ポイント高くなっている。

【（図表 21-8）ブロック塀・門柱の安全点検結果 地震防災訓練参加の有無別】



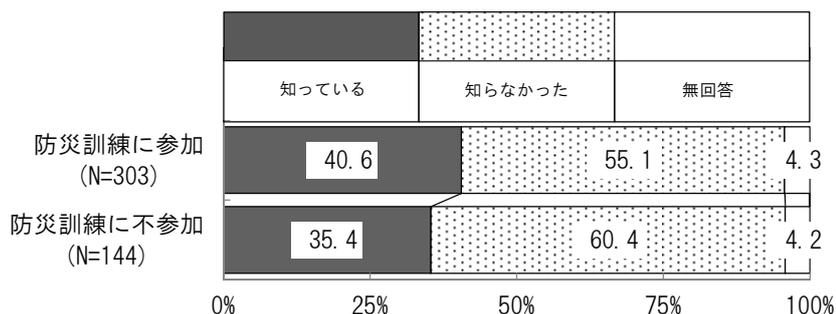
地震防災訓練参加の有無別でみると、点検していない理由は「点検方法が分からないから」が、『防災訓練に参加』が23.4%、『防災訓練に不参加』が22.4%となっている。

【（図表 21-9）ブロック塀・門柱の安全点検を実施しない理由 地震防災訓練参加の有無別】



地震防災訓練参加の有無別でみると、改善の補助制度の認知は「知っている」が、『防災訓練に参加』（40.6%）は『防災訓練に不参加』（35.4%）より5.2ポイント高くなっている。

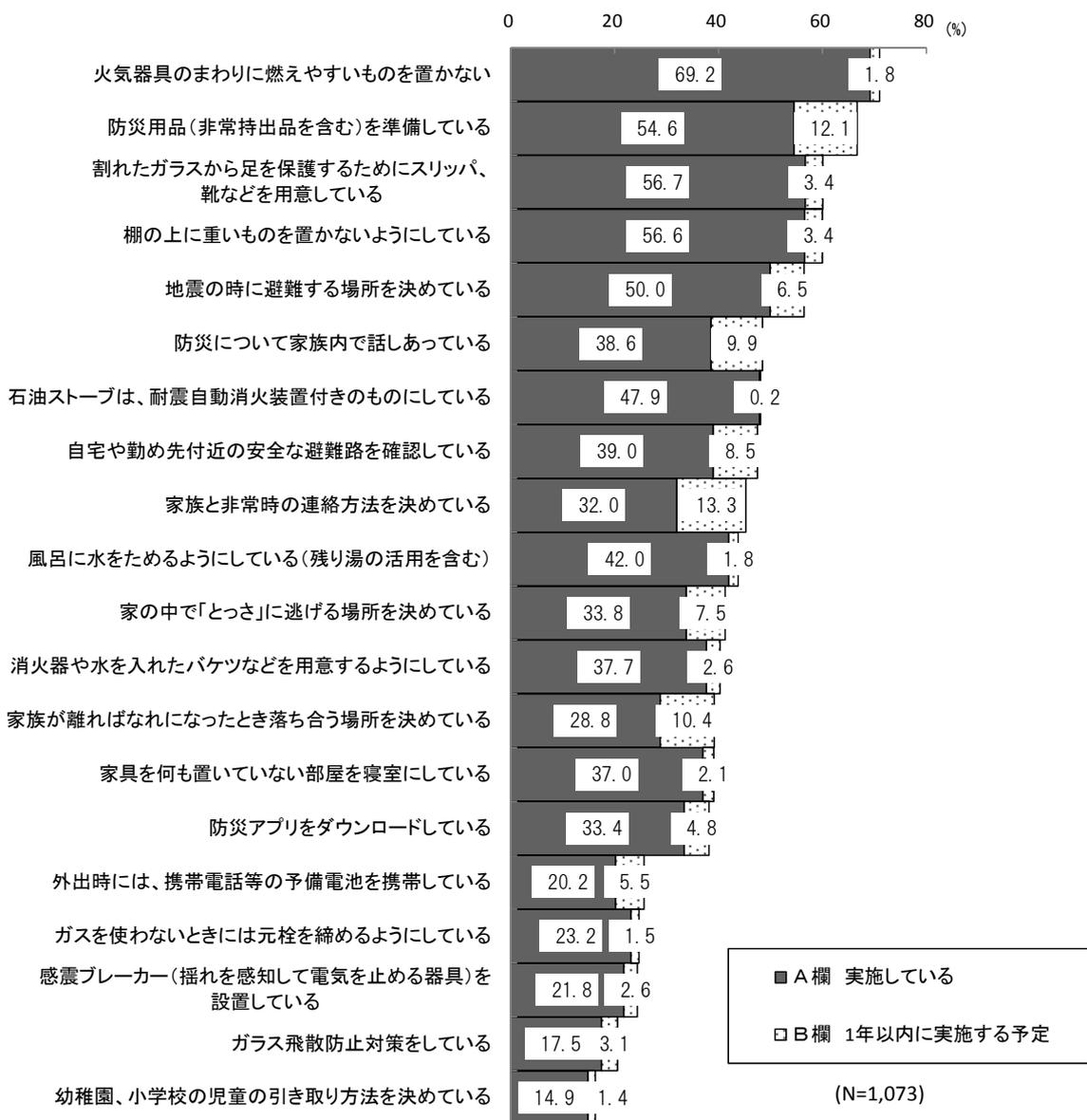
【（図表 21-10）補助制度の認知 地震防災訓練参加の有無別】



## 8 南海トラフ地震に備えての防災対策

問 22 次にあげるものの中で、南海トラフ地震に備えて自宅や日常生活で実施している防災対策がありますか。質問項目ごとに、A欄～D欄のどれか一つに○をお付けください。  
 (※D欄質問項目は該当しないとは、例 家具を固定済、ガスを使っていない、石油ストーブなしなど)

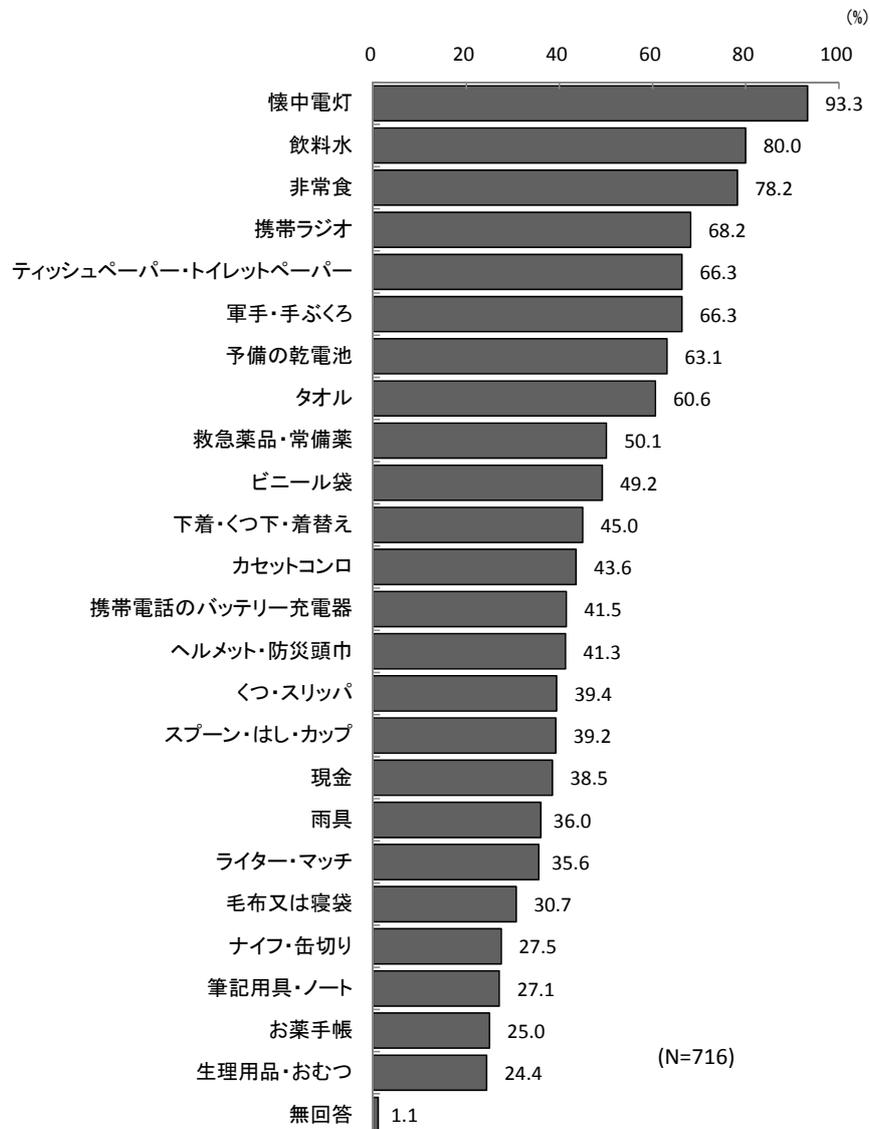
【(図表 22-1) 南海トラフ地震に備えての防災対策 実施・予定のみ集計】



<問 22 で「防災用品（非常持出品を含む）を準備している」のA欄、B欄で○が付いた方にお伺いします。>

問 22-1 非常持出品として何を用意している、もしくは用意する予定ですか。（○はいくつでも）

【（図表 22-2）用意している非常持出品 単純集計】

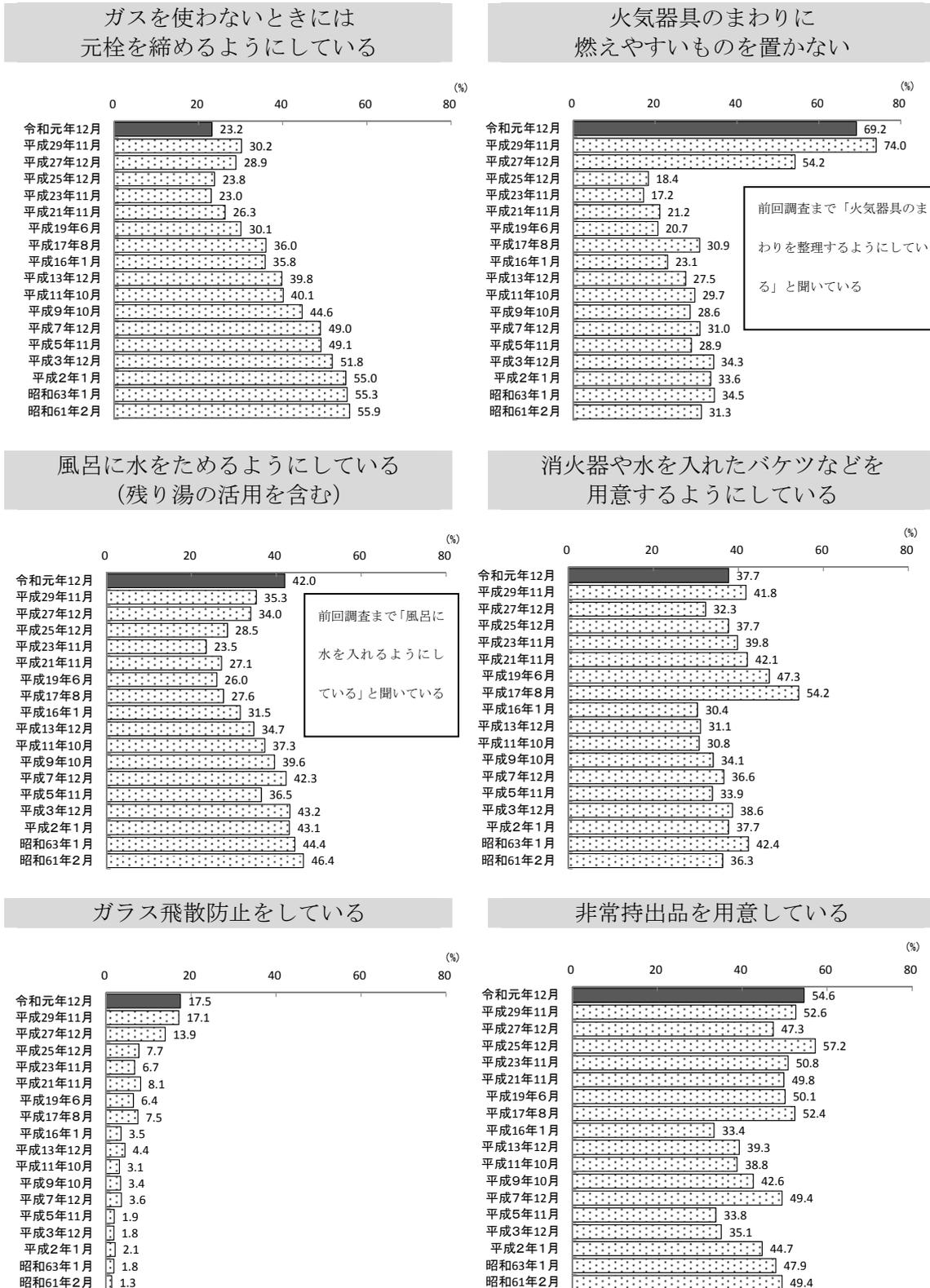


南海トラフ地震に備えて行っている防災対策についてたずねたところ、「実施している」と「1年以内に実施する予定」の数字を合わせた項目では、「火気器具のまわりに燃えやすいものを置かない」(71.0%)が最も高く、次いで「防災用品（非常持出品を含む）を準備している」(66.7%)、「割れたガラスから足を保護するためにスリッパ、靴などを用意している」(60.1%)の順になっている。

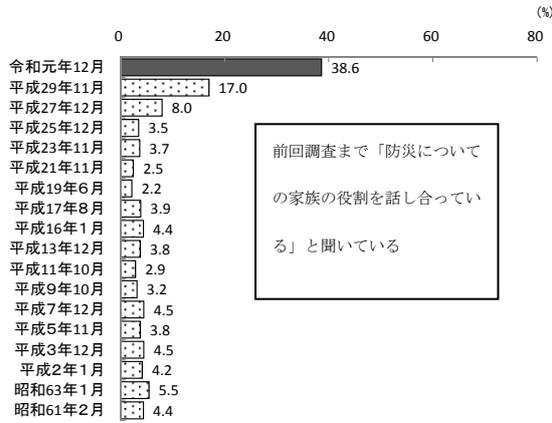
問 22 で「防災用品（非常持出品を含む）を準備している」と回答した人に何を用意しているかをたずねたところ、「懐中電灯」(93.3%)が最も高く、次いで「飲料水」(80.0%)、「非常食」(78.2%)、「携帯ラジオ」(68.2%)、「ティッシュペーパー・トイレトペーパー」、「軍手・手ぶくろ」(ともに 66.3%)の順になっている。

南海トラフ地震に備えて行っている防災対策の内、「実施している」ものを経年比較でみると、「防災についての家族の役割を話しあっている」が今回調査（38.6%）は平成29年11月の前回調査（17.0%）に比べて21.6ポイント高くなっている。

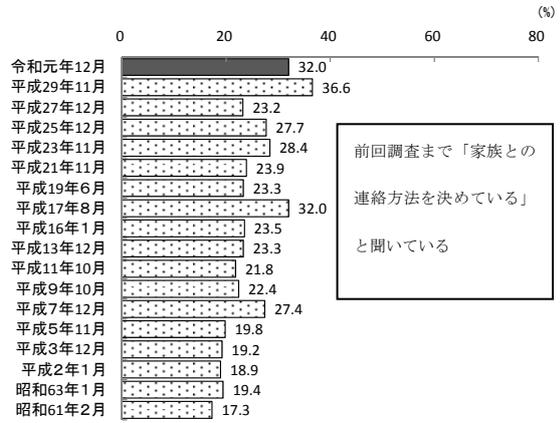
【（図表 22-3）日常面での備え 経年比較】



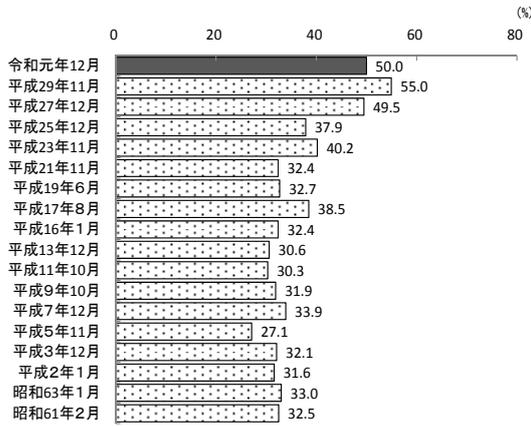
### 防災について家族内で話しあっている



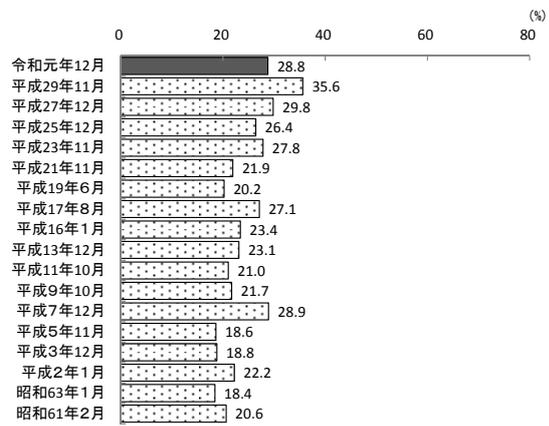
### 家族と非常時の連絡方法を決めている



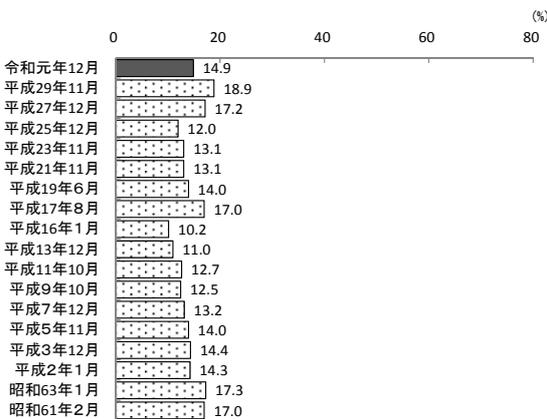
### 地震の時に避難する場所を決めている



### 家族が離ればなれになったとき落ち合う場所を決めている



### 幼稚園、小学校の児童の引き取り方法を決めている



南海トラフ地震に備えて行っている防災対策についてたずねたところ、「実施している」と「1年以内に実施する予定」の数字を合わせた項目を経年比較でみると、日常面での備えの上位1位の「火気器具のまわりを整理するようにしている」は、今回調査（71.0%）が平成29年11月の前回調査（74.0%）より3.0ポイント下降している。また、2位の「防災用品（非常持出品を含む）を準備している」は、今回調査（66.7%）が前回調査（52.6%）より14.1ポイント上昇している。3位の「割れたガラスから足を保護するためにスリッパ、靴などを用意している」は、今回調査（60.1%）が前回調査（58.1%）より2.0ポイント上昇している。

行動面での備えは、上位5項目ともに前回調査と比べてポイント上昇の傾向となっている。2位の「防災についての家族の役割を話し合っている」は、今回調査（48.5%）が前回調査（17.0%）より31.5ポイント上昇している。

【（図表 22-4）日常面での備え 上位5位 経年比較】

上位5位	令和元年 12月	前回との 差	平成29年 11月	平成27年 12月	平成25年 12月	平成23年 11月	平成21年 11月	平成19年 6月	平成17年 8月	平成16年 1月	平成13年 12月	平成11年 10月	平成9年 10月	平成7年 12月	平成5年 11月	平成3年 12月	平成2年 1月	昭和63年 1月	昭和61年 2月
1位 火気器具のまわりを整理するようにしている	71.0	-3.0	74.0	54.2	18.4	17.2	21.2	20.7	30.9	23.1	27.5	29.7	28.6	31.0	28.9	34.3	33.6	34.5	31.3
2位 防災用品（非常持出品を含む）を準備している	66.7	14.1	52.6	47.3	57.2	50.8	49.8	50.1	52.4	33.4	39.3	38.8	42.6	49.4	33.8	35.1	44.7	47.9	49.4
3位 割れたガラスから保護するためにスリッパ、運動靴などを用意している	60.1	2.0	58.1	39.9	31.2	21.9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
4位 標の上の重いものをおろしている	60.0	4.2	55.8	35.4	23.8	20.1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
5位 石油ストーブは、耐震自動消火装置付きのものにしている	48.1	-4.4	52.5	55.7	31.2	10.8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【（図表 22-5）行動面での備え 上位5位 経年比較】

上位5位	令和元年 12月	前回との 差	平成29年 11月	平成27年 12月	平成25年 12月	平成23年 11月	平成21年 11月	平成19年 6月	平成17年 8月	平成16年 1月	平成13年 12月	平成11年 10月	平成9年 10月	平成7年 12月	平成5年 11月	平成3年 12月	平成2年 1月	昭和63年 1月	昭和61年 2月
1位 地震の時に避難する場所を決めている	56.5	1.5	55.0	49.5	37.9	40.2	32.4	32.7	38.5	32.4	30.6	30.3	31.9	33.9	27.1	32.1	31.6	33.0	32.5
2位 防災についての家族の役割を話し合っている	48.5	31.5	17.0	8.0	3.5	3.7	2.5	2.2	3.9	4.4	3.8	2.9	3.2	4.5	3.8	4.5	4.2	5.5	4.4
3位 自宅や勤め先付近の安全な避難路を確認している	47.5	3.2	44.3	28.7	19.2	14.5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
4位 家族との連絡方法を決めている	45.3	8.7	36.6	23.2	27.7	28.4	23.9	23.3	32.0	23.5	23.3	21.8	22.4	27.4	19.8	19.2	18.9	19.4	17.3
5位 家の中で「とっさ」に逃げる場所を決めている	41.3	2.5	38.8	27.4	24.1	19.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

※＜防災についての家族の役割を話し合っている＞の平成29年11月以前の値については「実施している」の割合を記載している。

「実施している」と「1年以内に実施する予定」の数字を合わせた項目を避難のタイミング別で見ると、全体と大きな差異はみられない。

【(図表 22-6) 日常面での備え 実施・予定のみ 避難のタイミング別】

	回答者数	%											
		火気器具のまわりを整理する	防災用品(非常持出品を含む)	割れたガラスから保護するためにスリッパ、運動靴などを着用している	棚の上の重いものをおろしている	石油ストーブは、耐震自動消火装置付きのものにして	風呂に水を入れるようにしている	防災アプリをダウンロードしている	外出時には、携帯電話やスマートフォンなどの予備電池を携帯している	ガスを使わないときには元栓を締めるようにしている	感震ブレーカー(揺れを感じて電気を止める器具)を感知している	ガラス飛散防止をしている	
全体	1,073	70.9	66.7	60.7	59.9	48.1	48.8	38.1	25.7	24.7	24.4	20.6	
避難のタイミング別	揺れが収まったら	604	73.2	69.0	63.7	63.1	47.2	44.2	40.1	28.3	23.8	24.5	22.8
	津波警報を見聞きしたら(自治体からの呼びかけ含む)	262	69.8	63.7	57.8	54.6	52.7	48.5	29.8	19.8	26.0	22.1	15.6
	スマートフォンなどで津波の危険性があるか確認し、危険を認知したら	111	69.4	61.3	49.5	57.7	45.9	39.6	45.9	27.0	27.0	25.2	17.1
	周りの人が避難している姿を見たら	38	68.4	50.0	39.5	55.3	44.7	44.7	28.9	21.1	26.3	26.3	18.4
	海の水が引いているのを見たら	15	40.0	60.0	53.3	46.7	46.7	40.0	46.7	6.7	20.0	20.0	13.3
	沖合に高い波が見えたら	2	50.0	100.0	50.0	0.0	50.0	100.0	50.0	0.0	0.0	50.0	0.0
	足下に水が来たら	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
	その他	12	83.3	100.0	91.7	75.0	25.0	41.7	58.3	33.3	16.7	50.0	25.0

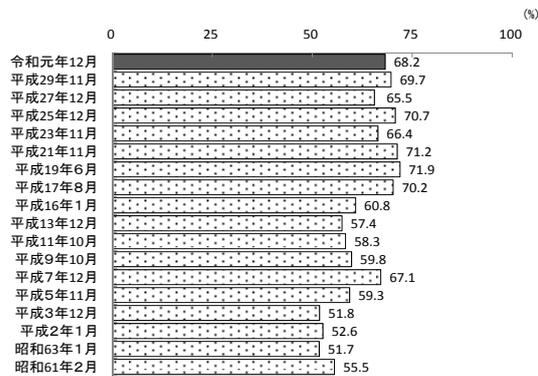
【(図表 22-7) 行動面での備え 実施・予定のみ 避難のタイミング別】

	回答者数	%									
		地震の時に避難する場所を決めている	防災について家族の役割を話しあっている	自宅や勤め先付近の安全な避難路を確認している	家族との連絡方法を決めてい	場所の中で「とつさ」に逃げる	消火器や水を入れたバケツなどを用意するようになった	家族が離ればなれになったとき落ち合う場所を決めた	家具を何にも置いていない部屋を寝室にしている	幼稚園、小学校の児童の引き取り方法を決めている	
全体	1,073	56.6	44.5	47.5	45.3	47.4	40.4	39.2	39.0	16.3	
避難のタイミング別	揺れが収まったら	604	59.8	51.0	51.5	47.4	48.5	42.7	42.9	39.2	16.6
	スマートフォンなどで津波の危険性があるか確認し、危険を認知したら	262	52.7	43.5	40.1	39.7	37.8	38.2	30.9	38.2	14.5
	津波警報を見聞きしたら(自治体からの呼びかけ含む)	111	53.2	46.8	50.5	45.9	37.8	36.9	42.3	37.8	18.0
	周りの人が避難している姿を見たら	38	47.4	39.5	31.6	42.1	31.6	34.2	28.9	47.4	13.2
	海の水が引いているのを見たら	15	40.0	26.7	20.0	33.3	20.0	33.3	13.3	20.0	13.3
	沖合に高い波が見えたら	2	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	0.0	100.0	0.0	50.0
	足下に水が来たら	1	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	その他	12	75.0	58.3	50.0	66.7	58.3	41.7	58.3	33.3	25.0

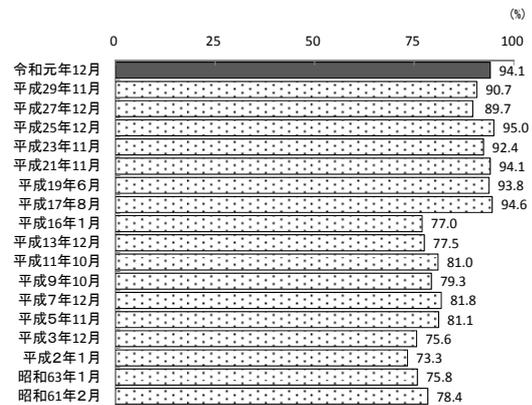
用意している非常持出品を**経年比較**でみると、今回調査では8つの項目で平成29年11月の前回調査より高くなっている。

【(図表 22-8) 用意している非常持出品 経年比較】

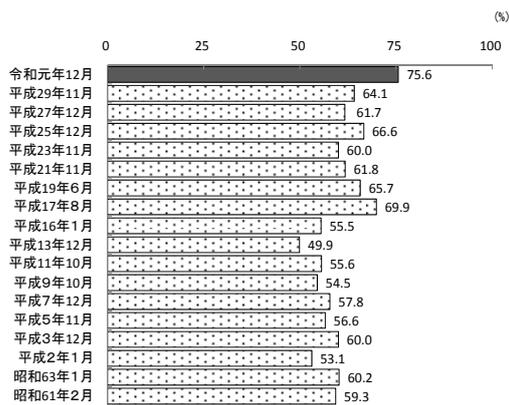
携帯ラジオ



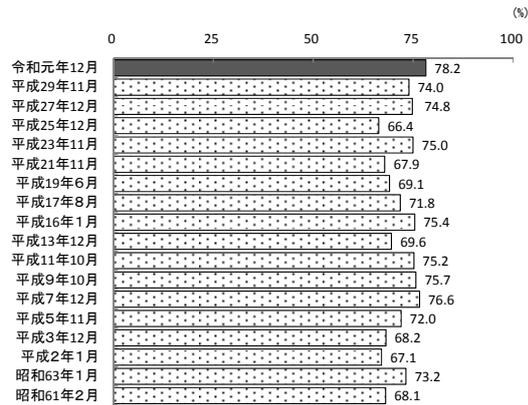
ろうソク、マッチ、懐中電灯



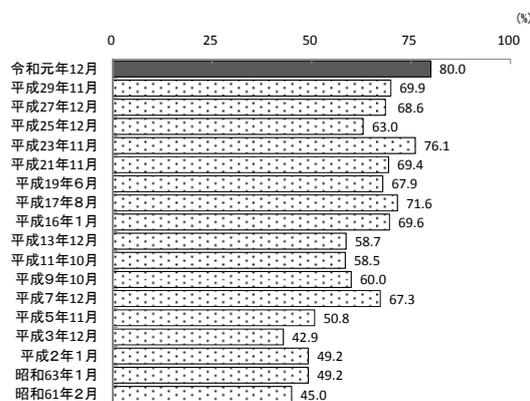
手ぶくろ、ヘルメット、防災頭巾



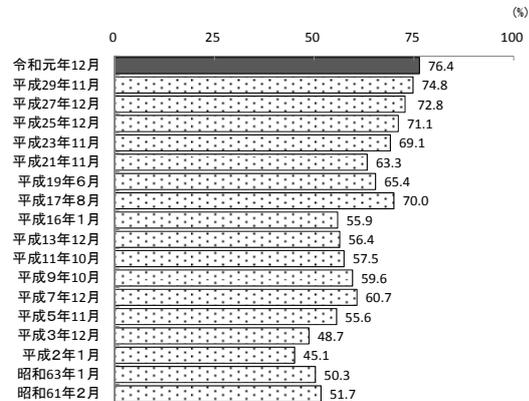
乾パン、ミルク、缶詰などの食料品



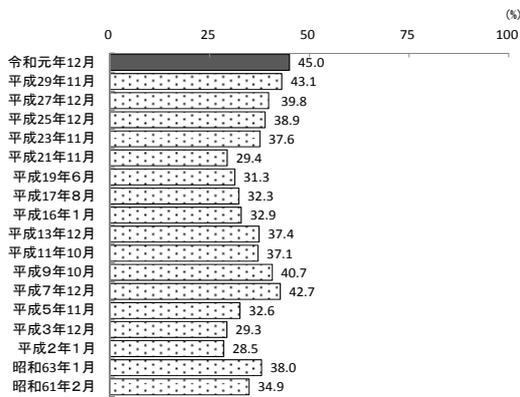
飲料水



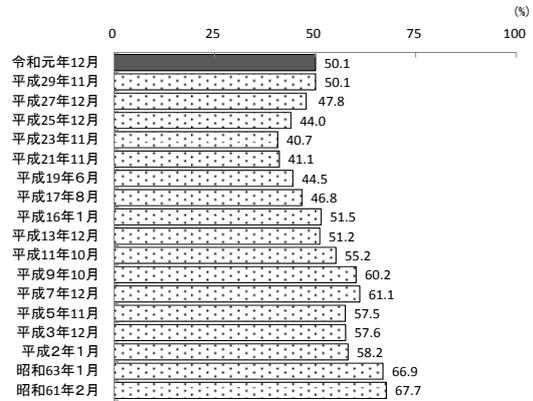
ちり紙、タオル、せっけん



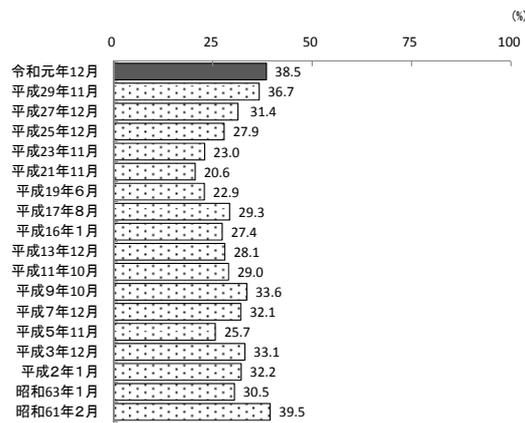
### 下着類



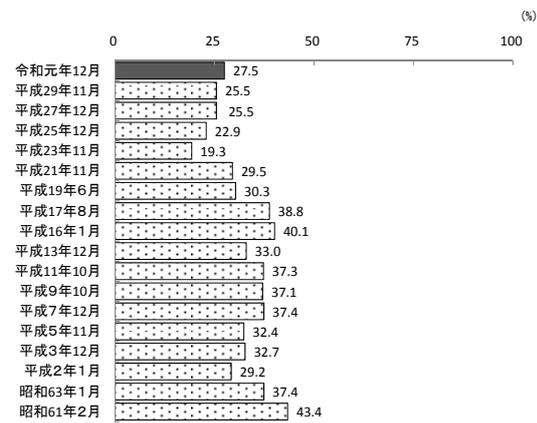
### 救急医療品、常備薬



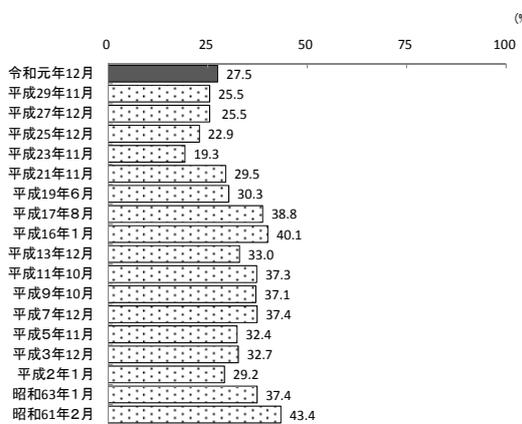
### 現金



### ナイフ、缶きり、ロープ、ひも



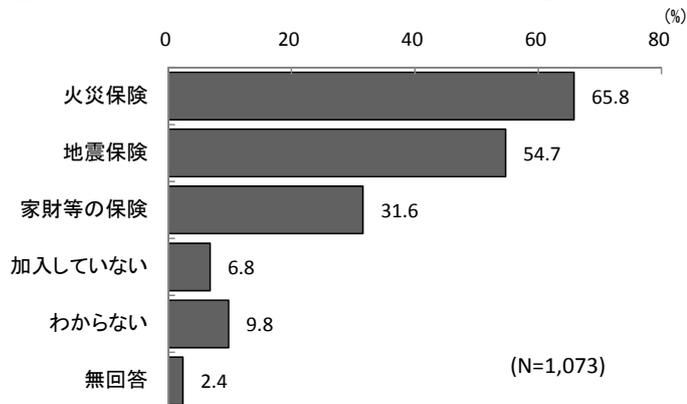
### 毛布又は寝袋



9 建物や家財に関わる保険加入状況

問 23 あなたのお宅は建物や家財に関わる、どのような保険に加入していますか。(〇はいくつでも)

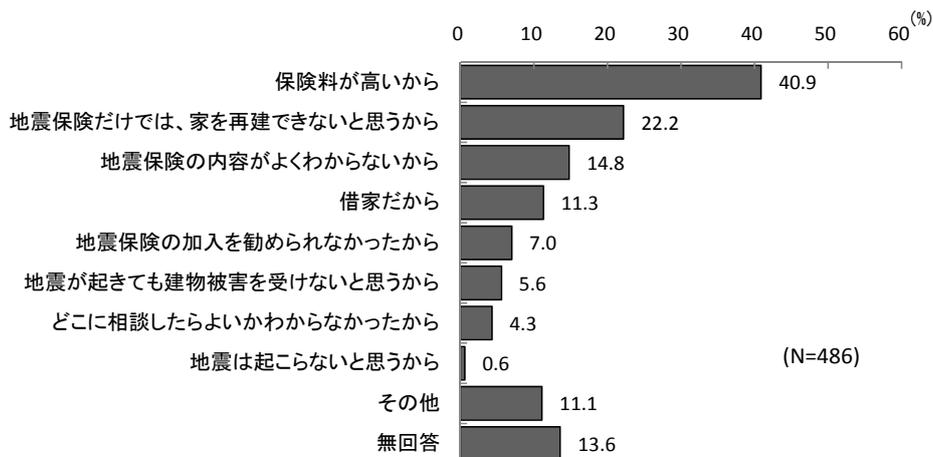
【(図表 23-1) 保険加入状況 単純集計】



<問 23 で「地震保険」を選ばなかった方にお伺いします。>

問 23-1 地震保険に加入していない理由は何ですか。(〇はいくつでも)

【(図表 23-2) 地震保険に加入していない理由 単純集計】

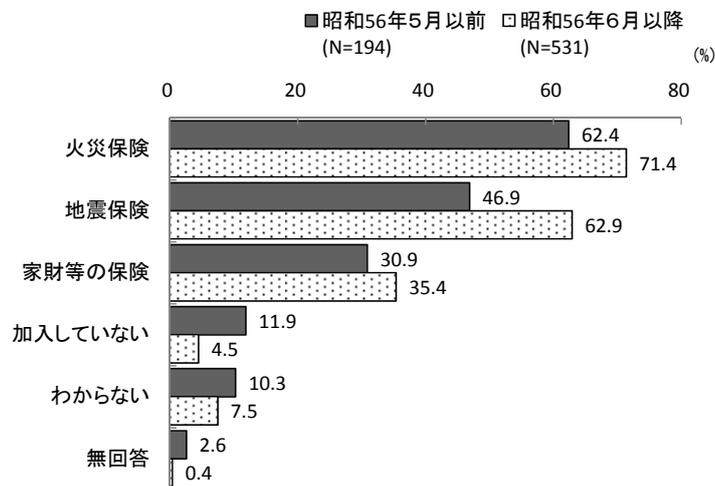


建物や家財に関わる保険の加入についてたずねたところ、「火災保険」(65.8%)が最も高く、次いで「地震保険」(54.7%)、「家財等の保険」(31.6%)の順になっている。

また、問 23 で「地震保険」を選ばなかった方に、地震保険に加入していない理由についてたずねたところ、「保険料が高いから」(40.9%)が最も高く、次いで「地震保険だけでは、家を再建できないと思うから」(22.2%)、「地震保険の内容及くわからないから」(14.8%)の順になっている。

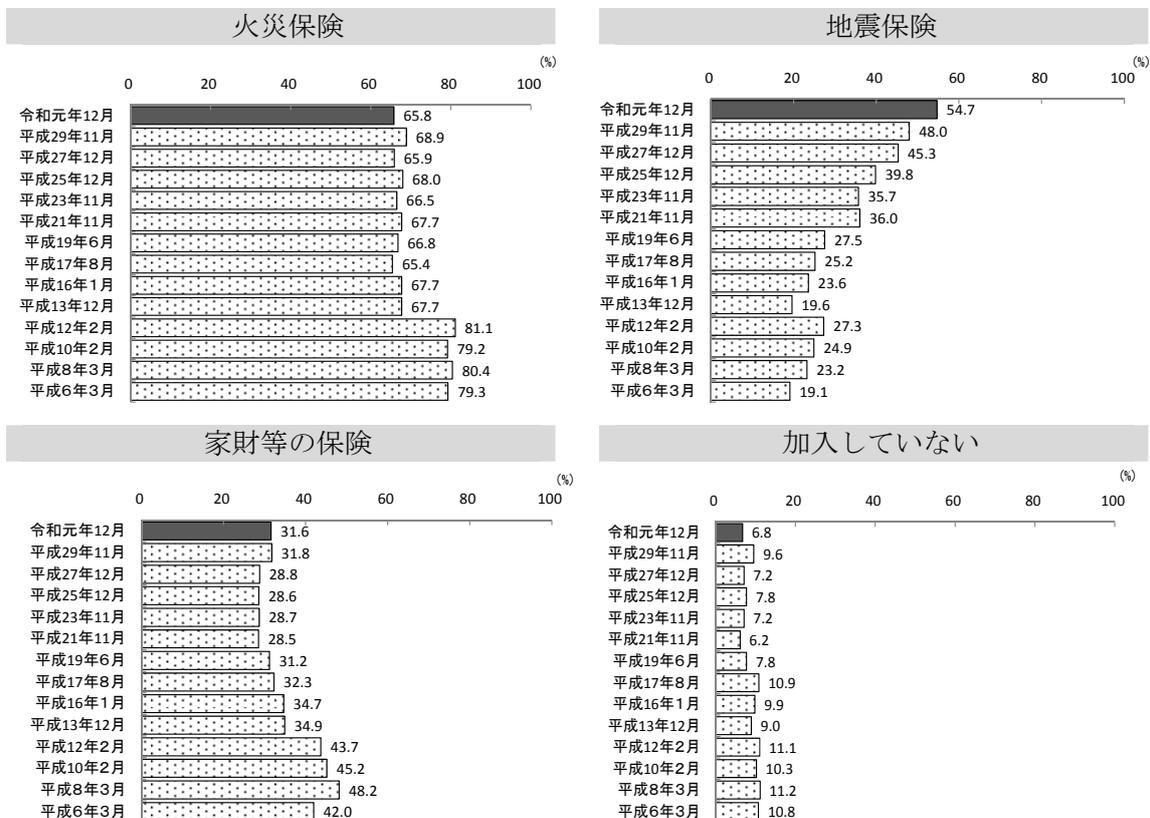
昭和56年5月以前建築と昭和56年6月以降との比較でみると、保険の加入状況は、「地震保険」では、『昭和56年5月以前建築』（46.9%）が『昭和56年6月以降』（62.9%）より16.0ポイント低くなっている。

【（図表 23-3）保険加入状況 昭和56年5月以前建築と昭和56年6月以降との比較】



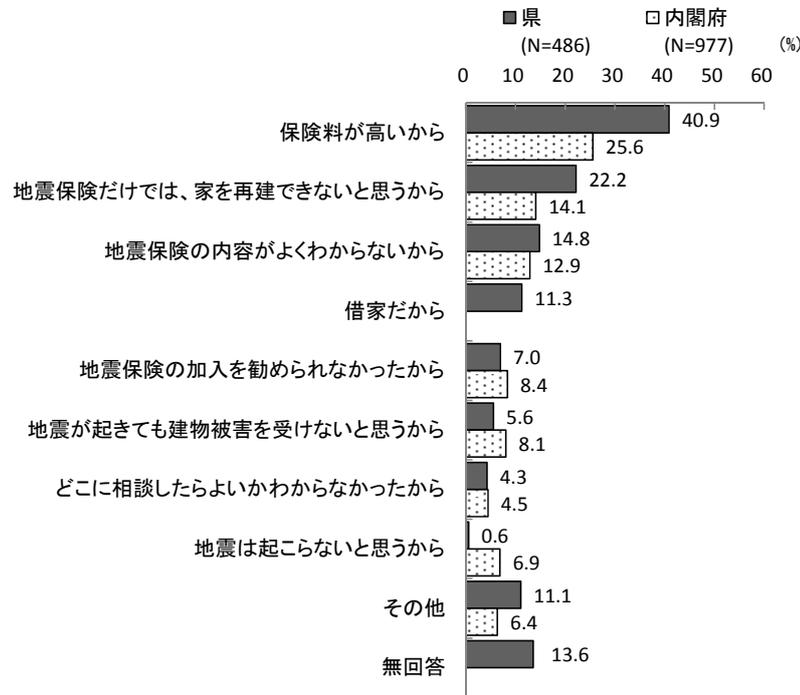
経年比較でみると、「地震保険」では今回調査（54.7%）が平成29年11月の前回調査（48.0%）より6.7ポイント上昇している。

【（図表 23-4）保険加入状況 経年比較】



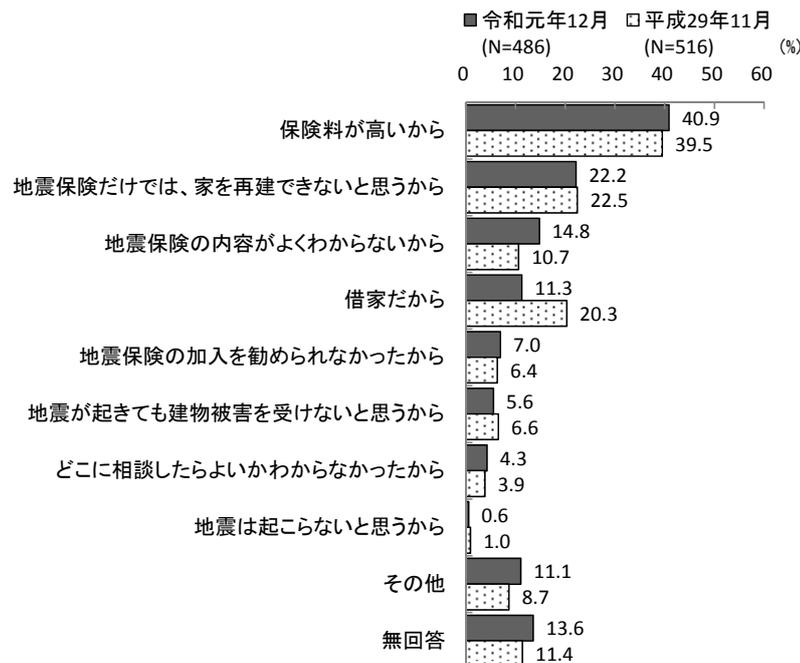
内閣府調査との比較でみると、「保険料が高いから」では『県』(40.9%)が『内閣府』(25.6%)より15.3ポイント高くなっている。

【(図表 23-5) 地震保険に加入していない理由 内閣府調査との比較】



経年比較でみると、「地震保険の内容及びよくわからないから」では今回調査(14.8%)が平成29年11月の前回調査(10.7%)より4.1ポイント高く、「借家だから」では今回調査(11.3%)が前回調査(20.3%)より9.0ポイント低くなっている。

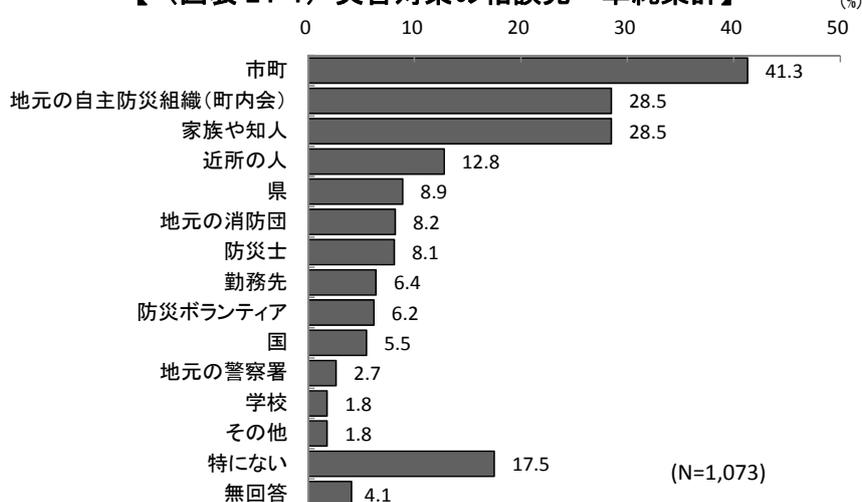
【(図表 23-6) 地震保険に加入していない理由 経年比較】



## 10 災害対策の相談先

問 24 あなたは、防災対策を検討する際に具体的に相談したいのはどこですか（〇はいくつでも）

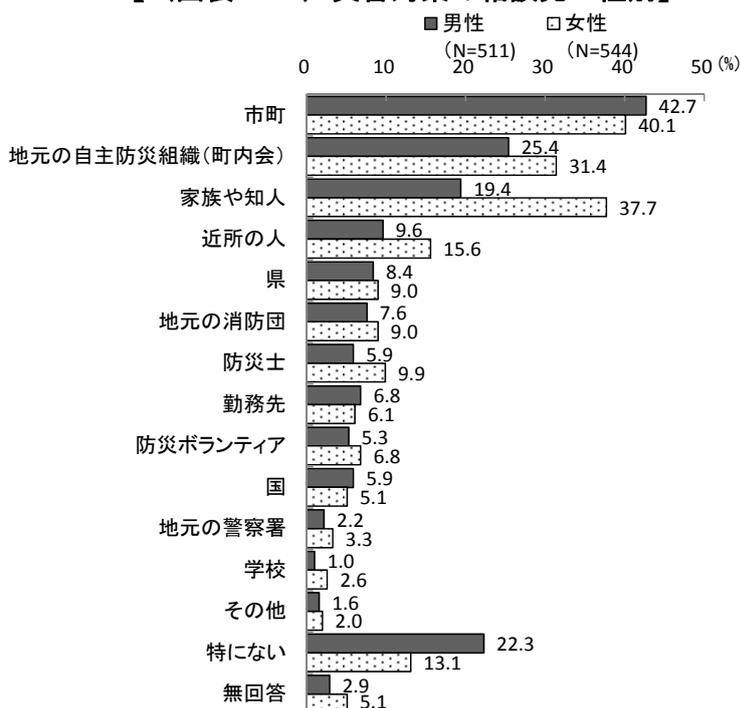
【（図表 24-1）災害対策の相談先 単純集計】



災害対策の相談先についてたずねたところ、「市町」（41.3%）が最も高く、次いで「地元の自主防災組織（町内会）」、「家族や知人」（ともに 28.5%）の順になっている。

性別で見ると、「市町」は『男性』（42.7%）、『女性』（40.1%）と男性の方が 2.6 ポイント高く、「地元の自主防災組織（町内会）」は『男性』（25.4%）、『女性』（31.4%）と女性の方が 6.0 ポイント高く、「家族や知人」は『男性』（19.4%）、『女性』（37.7%）と女性の方が 18.3 ポイント高くなっている。

【（図表 24-2）災害対策の相談先 性別】



性・年齢別でみると、「市町」は『男性40～49歳』（45.3%）、『女性30～39歳』（45.0%）と45ポイント以上で他の年齢層より高くなっている。「地元の自主防災組織（町内会）」は『女性60～69歳』（41.2%）、『女性70歳以上』（40.9%）と他の年齢層より高くなっている。

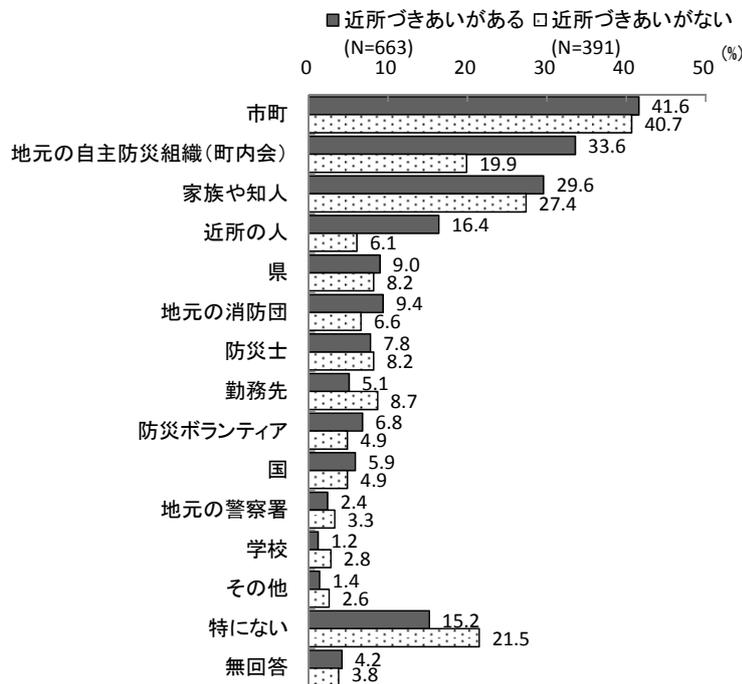
地域別でみると、「市町」は『賀茂』（62.5%）と他の地域より高くなっている。「地元の自主防災組織（町内会）」も『賀茂』（37.5%）が他の地域より高くなっている。

【（図表 24-3）災害対策の相談先 性・年齢別、地域別】

	回答者数	市町	地元の自主防災組織（町内会）	家族や知人	近所の人	県	地元の消防団	防災士	勤務先	防災ボランティア	国	地元の警察署	学校	その他	特にない	無回答	(%)	
全体	1,073	41.3	29.5	29.5	12.8	8.9	8.2	8.1	6.4	6.2	5.5	2.7	1.8	1.8	17.5	4.1		
性・年齢別	男性	511	42.7	25.4	9.4	9.6	8.4	7.6	5.9	6.8	5.3	5.9	2.2	1.0	1.6	22.3	2.9	
	男性20～29歳	26	38.5	3.8	34.6	3.8	15.4	3.8	7.7	3.8	7.7	7.7	3.8	3.8	23.1	3.8		
	男性30～39歳	54	40.7	14.8	20.4	3.7	9.3	0.0	0.0	3.7	3.7	5.6	1.9	1.9	1.9	20.4	5.6	
	男性40～49歳	117	45.3	20.5	17.9	6.0	10.3	8.5	7.7	9.4	6.8	7.7	4.3	1.7	0.9	21.4	1.7	
	男性50～59歳	115	43.5	27.0	23.5	13.9	7.8	7.0	6.1	15.7	6.1	6.1	1.7	0.9	2.6	22.6	1.7	
	男性60～69歳	141	43.3	34.8	14.9	11.3	5.7	8.5	5.7	2.1	5.0	4.3	0.7	0.0	0.7	23.4	3.5	
	男性70歳以上	57	38.6	28.1	17.5	12.3	7.0	12.3	7.0	0.0	1.8	3.5	0.0	1.8	1.8	22.8	3.5	
	女性	544	40.1	31.4	37.7	15.6	9.0	9.0	9.9	6.1	6.8	5.1	3.3	2.6	2.0	13.1	5.1	
	女性20～29歳	36	41.7	13.9	41.7	16.7	8.3	6.7	5.6	11.1	5.6	8.3	5.6	2.8	2.8	8.3	5.6	
	女性30～39歳	60	45.0	16.7	40.0	8.3	13.3	3.3	16.7	15.0	5.0	6.7	1.7	6.7	5.0	11.7	1.7	
	女性40～49歳	110	42.7	30.9	41.8	14.5	9.1	7.3	10.9	6.4	8.2	4.5	2.7	6.4	2.7	14.5	3.6	
	女性50～59歳	114	43.9	26.3	38.6	9.6	11.4	4.4	7.9	6.1	8.8	7.9	0.9	1.8	0.9	12.3	7.9	
	女性60～69歳	136	34.6	41.2	32.4	17.6	6.6	11.8	9.6	4.4	7.4	1.5	2.2	0.0	0.7	16.2	3.7	
女性70歳以上	88	36.4	40.9	36.4	26.1	6.8	13.6	9.1	0.0	3.4	5.7	9.1	0.0	2.3	10.2	8.0		
地域別	賀茂地域	24	62.5	37.5	25.0	12.5	4.2	4.2	4.2	4.2	4.2	4.2	0.0	0.0	12.5	8.3		
	東部地域	316	42.1	29.7	27.2	15.2	8.2	9.8	5.1	5.7	7.0	4.4	2.5	1.3	2.2	9.0	2.5	
	中部地域	324	41.7	27.5	24.4	9.9	12.3	7.4	9.6	7.4	4.6	6.8	2.5	1.9	1.2	17.6	4.6	
	西部地域	391	39.1	27.9	34.0	13.0	6.4	8.2	9.2	6.4	6.6	5.4	3.1	2.3	2.0	16.6	4.6	

近所づきあいの有無別でみると、「地元の自主防災組織（町内会）」では『近所づきあいがある』（33.6%）が『近所づきあいがない』（19.9%）より13.7ポイント高くなっている。

【（図表 24-4）災害対策の相談先 近所づきあいの有無別】



要配慮者との同居別でみると、「地元の自主防災組織（町内会）」、「近所の人」は『日常生活に介護を必要とする方』のいる世帯、『65歳以上の方』のいる世帯で特に高いという傾向がみられる。

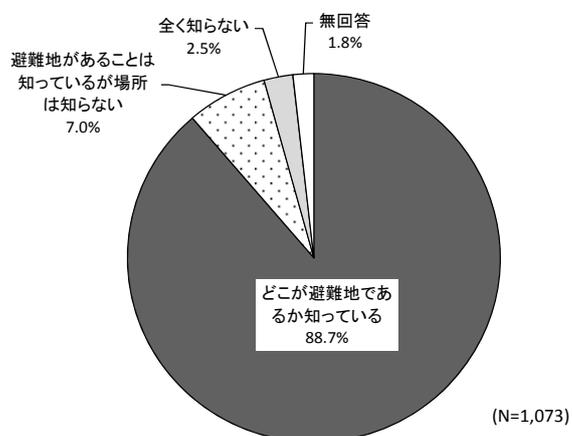
【（図表 24-5）災害対策の相談先 要配慮者との同居別】

	回答者数	(%)															
		市町	地元の自主防災組織(町内会)	家族や知人	近所の人	県	地元の消防団	防災士	勤務先	防災ボランティア	国	地元の警察署	学校	その他	特にない	無回答	
全体	1,073	41.3	28.5	28.5	12.8	8.9	8.2	8.1	6.4	6.2	5.5	2.7	1.8	1.8	17.5	4.1	
要配慮者との同居別	小学校に入学する前の子供	120	39.2	24.2	36.7	16.7	7.5	10.8	7.5	10.8	7.5	5.0	3.3	8.3	0.0	16.7	0.8
	小学生	143	42.7	21.3	31.5	11.9	9.1	6.3	11.2	10.5	9.8	6.3	5.6	6.3	0.7	14.7	1.4
	中高生	174	43.1	21.0	29.3	10.9	6.3	9.2	7.5	8.0	4.6	4.6	2.9	3.4	1.1	20.7	4.0
	日常生活に介護を必要とする方	72	36.1	33.3	30.6	19.4	8.3	5.6	6.9	8.3	6.9	6.9	2.8	4.2	0.0	19.4	4.2
	妊産婦	11	54.5	18.2	18.2	9.1	9.1	9.1	0.0	18.2	0.0	9.1	9.1	0.0	9.1	27.3	0.0
	65歳以上の方	525	41.0	32.8	29.7	14.1	9.3	8.0	8.0	4.0	5.7	5.9	3.0	2.1	1.7	15.8	5.3
いない	282	41.8	28.8	25.9	11.0	8.5	8.2	6.0	6.7	7.8	5.3	2.5	0.0	2.8	18.8	3.5	

## 11 避難地の認知

問 25 地震が発生したときの避難のため、市町はあらかじめ避難地や避難所を指定していますが、あなたの住む地域の避難地をご存知ですか。(〇は1つ)

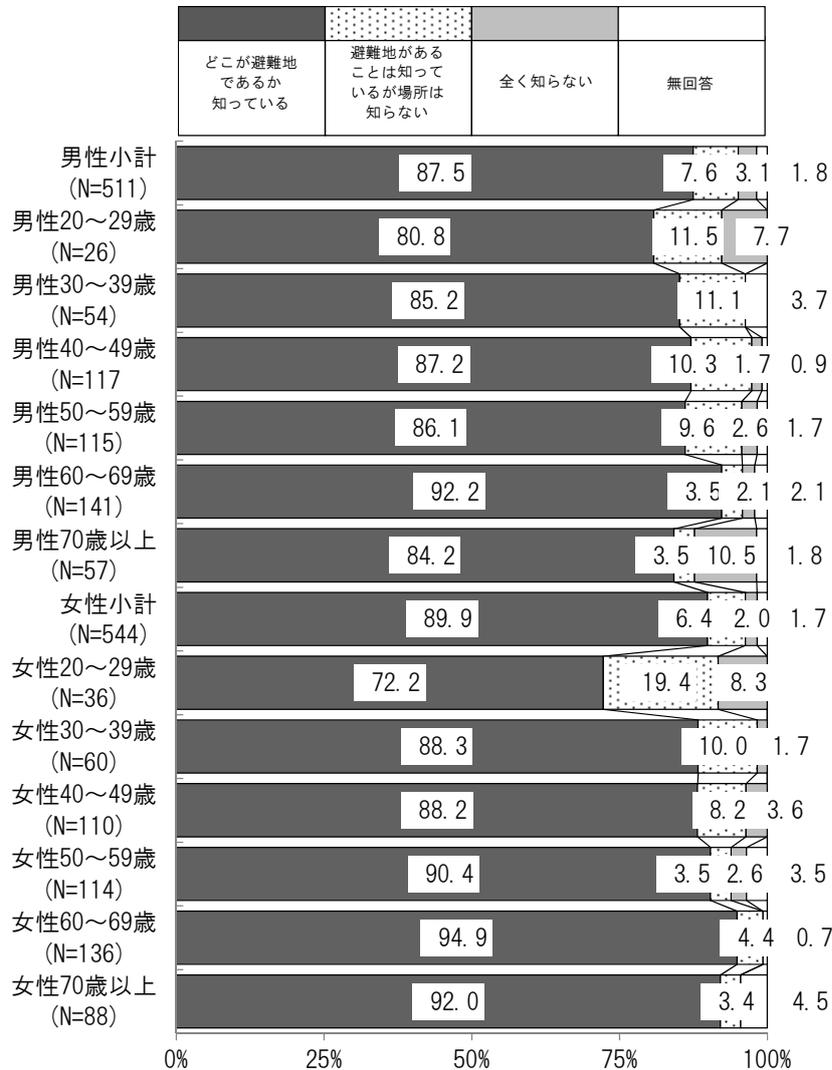
【(図表 25-1) 避難地の認知 単純集計】



市町が指定する避難地の認知についてたずねたところ、「どこが避難地であるか知っている」(88.7%) が最も高く、次いで「避難地があることは知っているが場所は知らない」(7.0%)、「全く知らない」(2.5%) の順になっている。

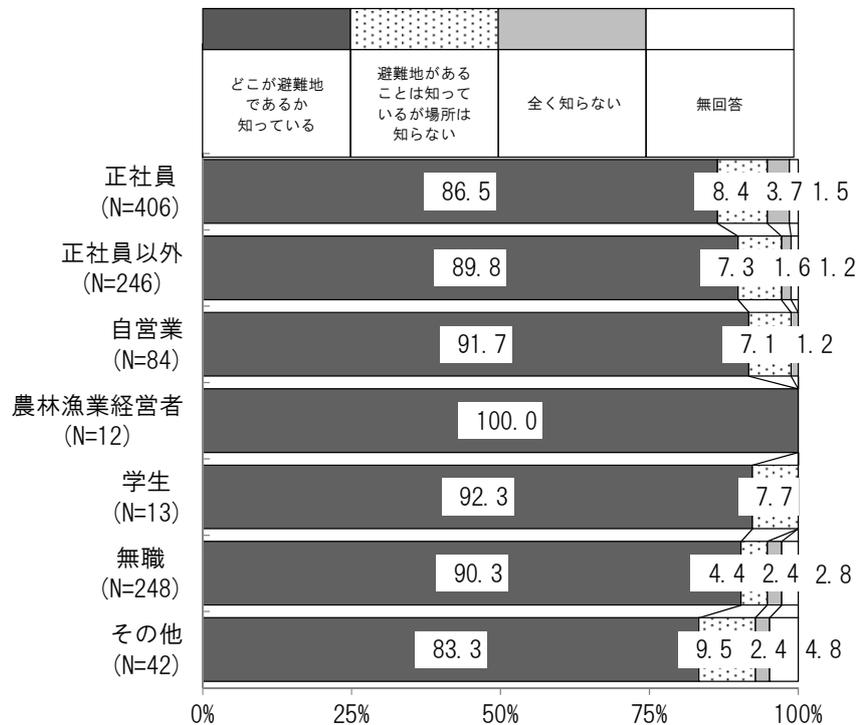
性・年齢別でみると、「どこが避難地であるか知っている」は『女性 60～69 歳』（94.9%）が最も高く、最も低い『女性 20～29 歳』（72.2%）と 22.7 ポイントの差がみられる。

【（図表 25-2）避難地の認知 性・年齢別】



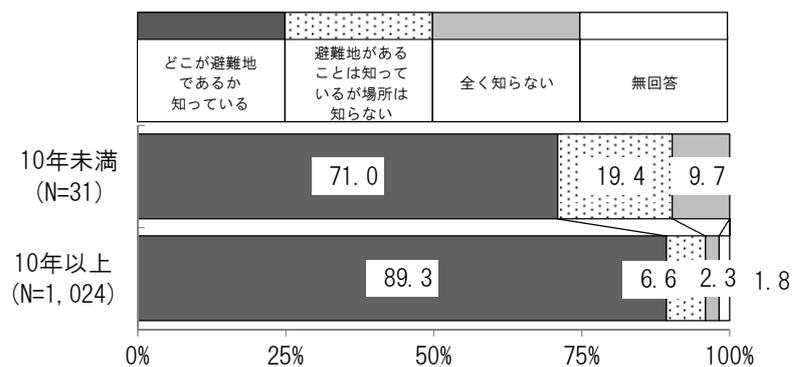
職業別でみると、「どこが避難地であるか知っている」は『農林漁業経営者』（100.0%）が他の職業より高くなっている。

【（図表 25-3）避難地の認知 職業別】



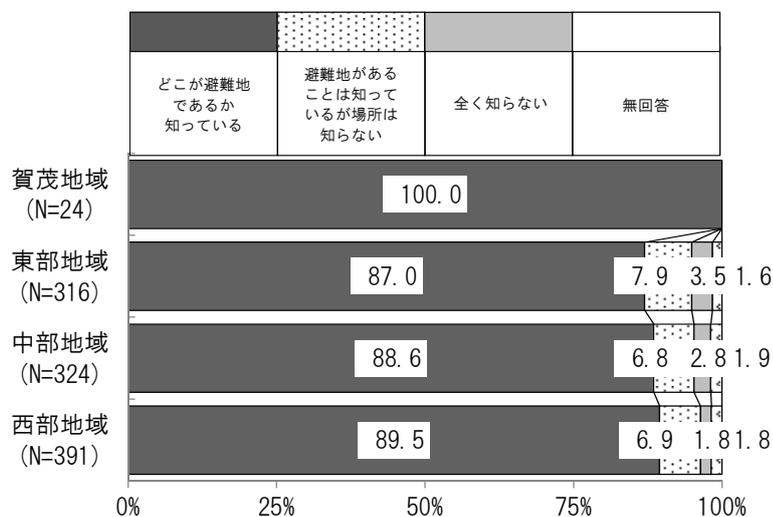
居住期間別でみると、「どこが避難地であるか知っている」は『10年以上』（89.3%）と『10年未満』（71.0%）では18.3ポイントの差がみられる。

【（図表 25-4）避難地の認知 居住期間別】



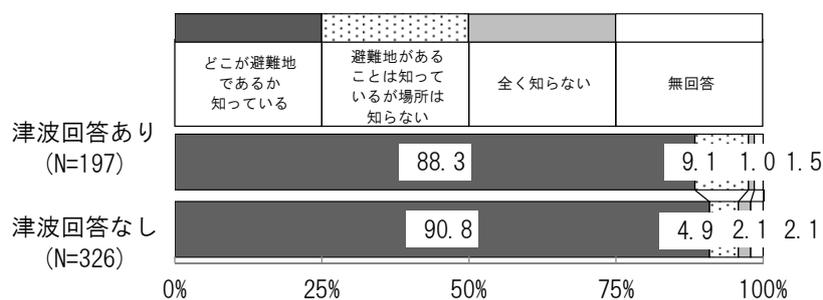
地域別でみると、「どこが避難地であるか知っている」は『賀茂』(100.0%)と最も高く、最も低い『東部』(87.0%)と13.0ポイントの差がみられる。

【(図表 25-5) 避難地の認知 地域別】



予想される被害「津波」とそれ以外の回答者別でみると、「どこが避難地であるか知っている」は『津波回答あり』(88.3%)、『津波回答なし』(90.8%)となっている。

【(図表 25-6) 避難地の認知 予想される被害「津波」とそれ以外の回答者別】

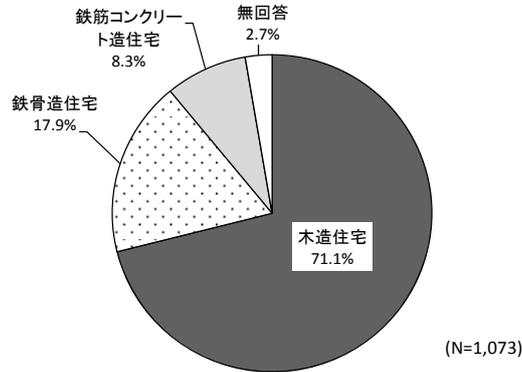


# 第5章 住宅の耐震補強について

## 1 住宅の構造と耐震診断

問 26 あなたのお住まいの家は、次のどれにあたりますか。(○は1つ)

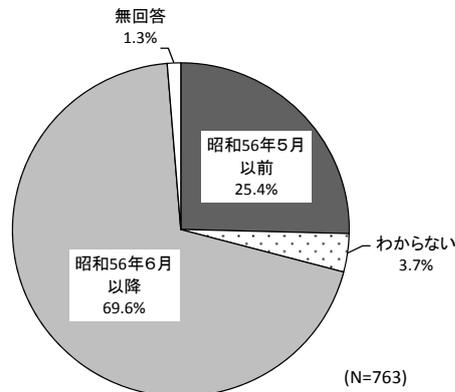
【(図表 26-1) 住宅の構造 単純集計】



<問 26 で「木造住宅」を選んだ方にお伺いします。>

問 26-1 あなたのお住まいの「木造住宅」は、いつ建てられた住宅ですか。(○は1つ)

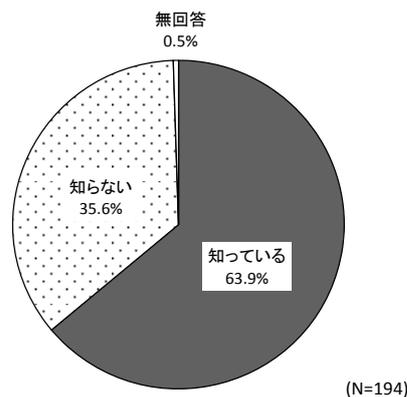
【(図表 26-2) 昭和 56 年 5 月以前建築と昭和 56 年 6 月以降との比較 単純集計】



<問 26-1 で「昭和 56 年 5 月以前」を選んだ方にお伺いします。>

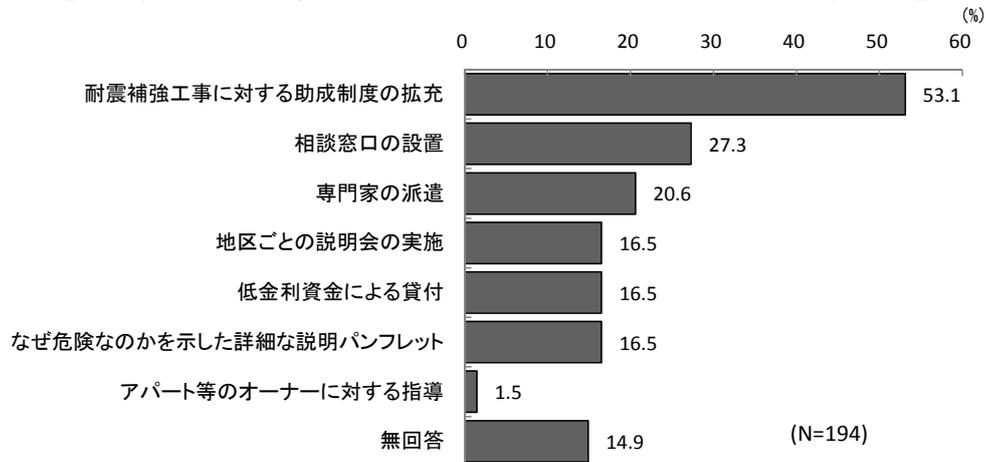
問 26-2 昭和 56 年 5 月以前に建てられた木造住宅の耐震診断を、地元市町が無料で実施していることを知っていますか。(○は1つ)

【(図表 26-3) 耐震診断の無料実施の認知 単純集計】



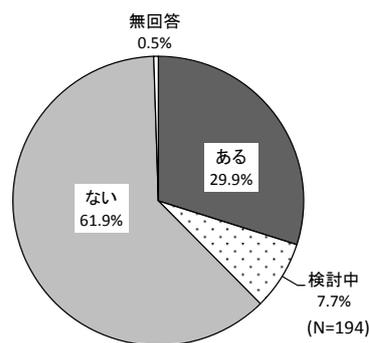
問 26-3 今後、あなたのお住まいの住家を耐震化をする場合、県や市町に対して要望することがあります。次の中からあてはまるものをお選びください。(〇はいくつでも)

【(図表 26-4) 耐震化にあたっての県や市町への要望 単純集計】



問 26-4 耐震診断をしたことがありますか。(〇は1つ)

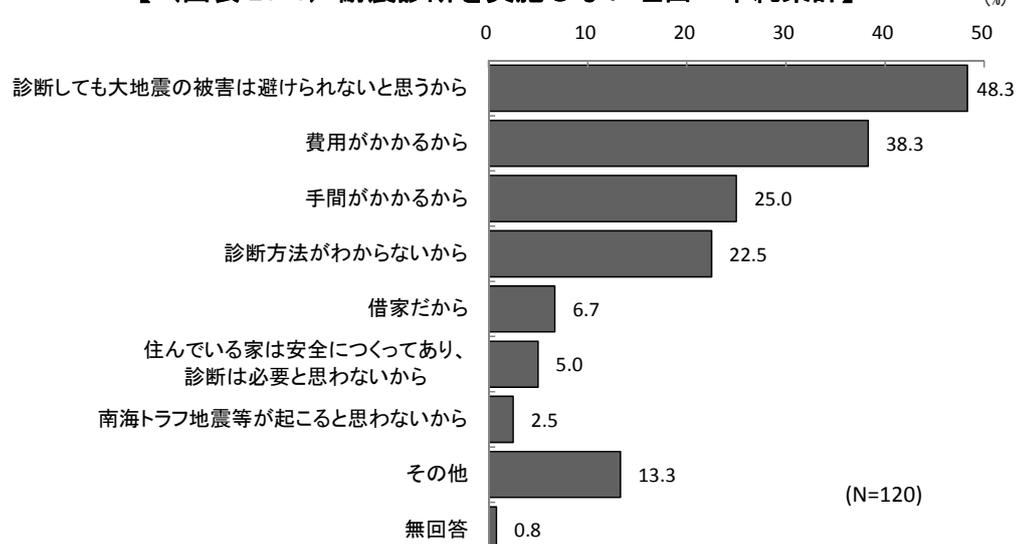
【(図表 26-5) 耐震診断の実施有無 単純集計】



<問 26-4 で「ない」を選んだ方にお伺いします。>

問 26-5 耐震診断をしないのはなぜですか。(〇はいくつでも)

【(図表 26-6) 耐震診断を実施しない理由 単純集計】



住宅の構造をたずねたところ、「木造住宅」(71.1%)が最も高く、次いで「鉄骨造住宅」(17.9%)、「鉄骨コンクリート造住宅」(8.3%)の順になっている。

問26で「木造住宅」と回答した人の時期についてたずねたところ、建築基準法が改正された『昭和56年6月以降』(69.6%)、『昭和56年5月以前』(25.4%)となっている。

市町で昭和56年5月以前に建てられた木造住宅の耐震診断を無料で実施していることを知っているかたずねたところ、『知っている』(63.9%)、『知らない』(35.6%)となっている。

また、耐震化について県や市町に対して要望することがあるかをたずねたところ、「耐震補強工事に対する助成制度の拡充」(53.1%)、次いで「相談窓口の設置」(27.3%)、「専門家の派遣」(20.6%)の順になっている。

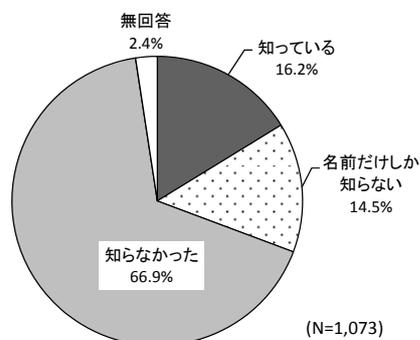
昭和56年5月以前に建てられた木造住宅に住んでいる方に耐震診断の有無についてたずねたところ、耐震診断したことが「ない」(61.9%)が最も高く、次いで「ある」(29.9%)、「検討中」(7.7%)の順になっており、耐震診断したことが「ない」という人が6割となっている。

問26-4で耐震診断をしたことが「ない」と回答した人に耐震診断をしない理由をたずねたところ、「診断しても大地震の被害は避けられないと思うから」(48.3%)が最も高く、次いで「費用がかかるから」(38.3%)、「手間がかかるから」(25.0%)の順になっている。

## 2 『プロジェクト「TOUKAI（倒壊）ー0（ゼロ）」の認知

問 27 あなたは『プロジェクト“TOUKAI（倒壊）ー0（ゼロ）”』をご存知ですか。（○は1つ）

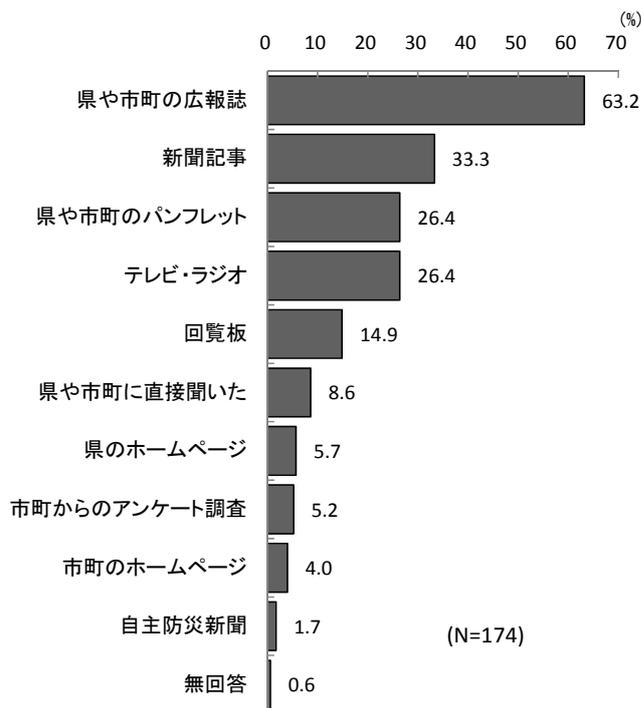
【（図表 27-1）『プロジェクト「TOUKAI（倒壊）ー0（ゼロ）」の認知 単純集計】



<問 27 で「知っている」を選んだ方にお伺いします。>

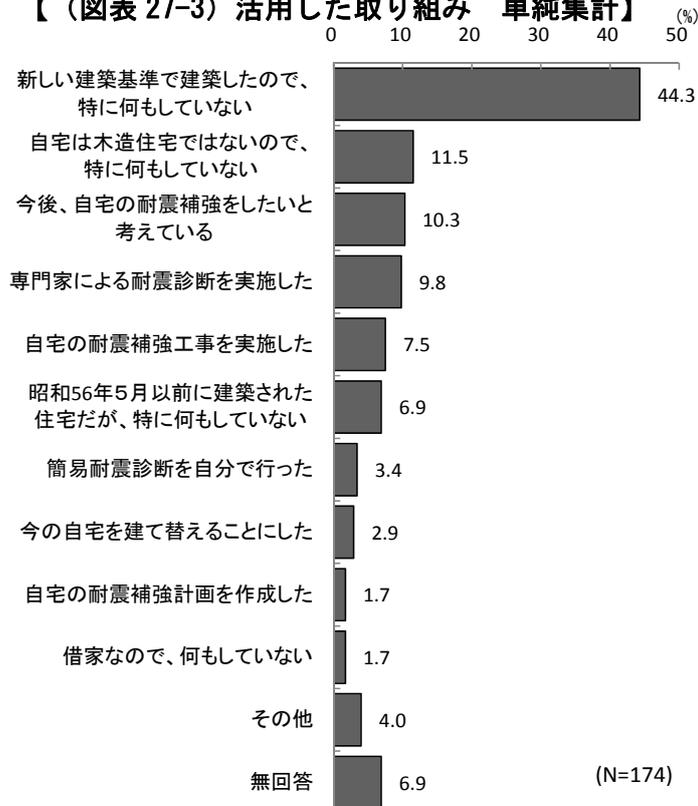
問 27-1 あなたは『プロジェクト“TOUKAI（倒壊）ー0（ゼロ）”』をどのようにして知りましたか。（○はいくつでも）

【（図表 27-2）認知した際の情報媒体 単純集計】



問 27-2 あなたは『プロジェクト“TOUKAI（倒壊）-0（ゼロ）”』を活用して取り組んだ行動はありますか。（現在行っている場合を含む）次の中からあてはまるものを選びください。（〇はいくつでも）

【（図表 27-3）活用した取り組み 単純集計】



『プロジェクト“TOUKAI（倒壊）-0（ゼロ）”』の認知度についてたずねたところ、「知らなかった」(66.9%)が最も高く、次いで「知っている」(16.2%)、「名前だけしか知らない」(14.5%)となっている。

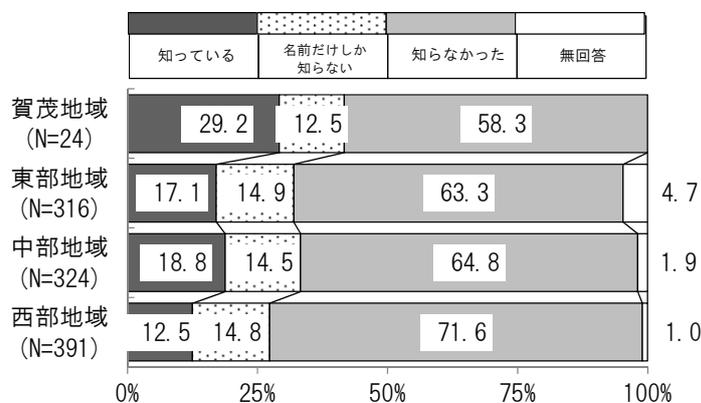
ある程度内容を理解している人（「知っている」）の認知方法については、「県や市町の広報誌」(63.2%)が最も高く、次いで「新聞記事」(33.3%)、「県や市町のパンフレット」、「テレビ・ラジオ」（ともに26.4%）の順になっている。

また、認知後の行動についてたずねたところ、「新しい建築基準で建築したので、特に何もしていない」(44.3%)が最も高く、次いで「自宅は木造住宅ではないので、特に何もしていない」(11.5%)、「今後、自宅の耐震補強をしたいと考えている」(10.3%)の順になっている。

具体的に取った行動としては、「専門家による耐震診断を実施した」(9.8%)が最も高く、次いで「自宅の耐震補強工事を実施した」(7.5%)となっている。

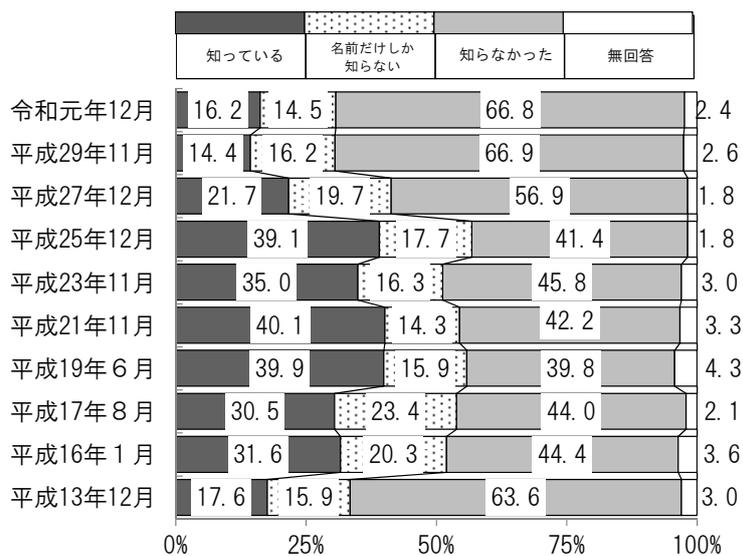
地域別でみると、知っている人（「知っている」＋「名前だけしか知らない」）は、『賀茂』（41.7%）が最も高く、最も低い『西部』（27.3%）とは14.4ポイントの差がみられる。

【（図表 27-4）『プロジェクト「TOUKAI（倒壊）—0（ゼロ）』の認知 地域別】



経年比較でみると、知っている人（「知っている」＋「名前だけしか知らない」）は、今回調査（30.7%）、平成29年11月の前回調査（30.6%）と大きな差はみられない。

【（図表 27-5）『プロジェクト「TOUKAI（倒壊）—0（ゼロ）』の認知 経年比較】

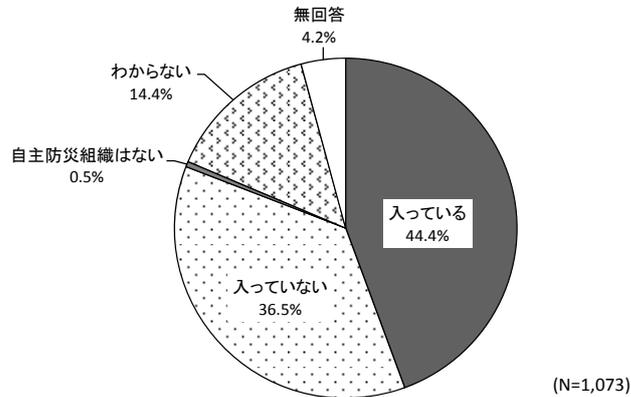


# 第6章 自主防災組織・防災訓練について

## 1 自主防災組織への加入と活動状況

問 28 あなたは、地域の自主防災組織に入っていますか。(○は1つ)

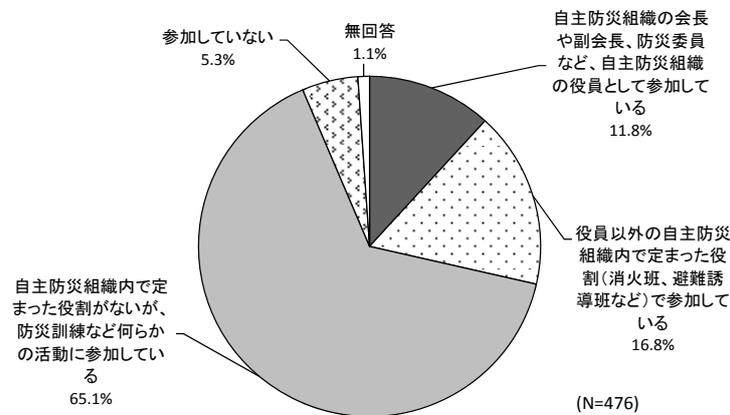
【(図表 28-1) 自主防災組織への加入状況 単純集計】



<問 28 で「加入している」を選んだ方にお伺いします。>

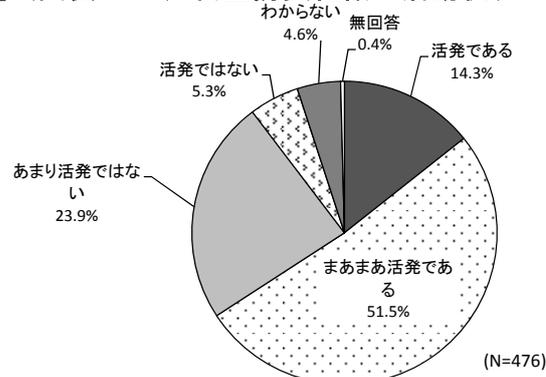
問 28-1 あなたは、どのような自主防災組織の活動に参加していますか。(○は1つ)

【(図表 28-2) 参加している自主防災組織の活動 単純集計】



問 28-2 あなたの地区の自主防災組織の活動は活発と思いますか。(○は1つ)

【(図表 28-3) 自主防災組織の活動状況 単純集計】



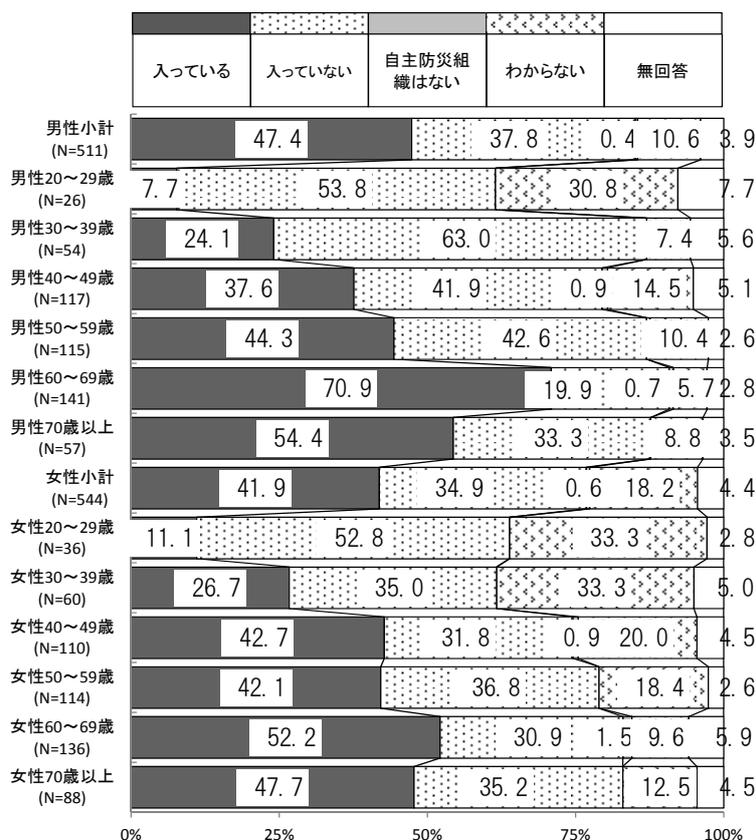
自主防災組織への加入についてたずねたところ、「入っている」(44.4%)が最も高く、次いで「入っていない」(36.5%)、「わからない」(14.4%)、「自主防災組織はない」(0.5%)の順になっている。

また、問28で自主防災組織に「入っている」と回答した人に、自主防災組織の活動に参加しているかたずねたところ、「自主防災組織内で定まった役割がないが、防災訓練など何らかの活動に参加している」(65.1%)が最も高く、次いで「役員以外の自主防災組織内で定まった役割(消火班、避難誘導班など)で参加している」(16.8%)、「自主防災組織の会長や副会長、防災委員など、自主防災組織の役員として参加している」(11.8%)「参加していない」(5.3%)の順になっている。

さらに、自主防災組織の活動状況についてたずねたところ、「活発である」と「まあまあ活発である」を合わせると65.8%となり、6割以上の人々が地区の自主防災組織の活動が活発だと感じている。

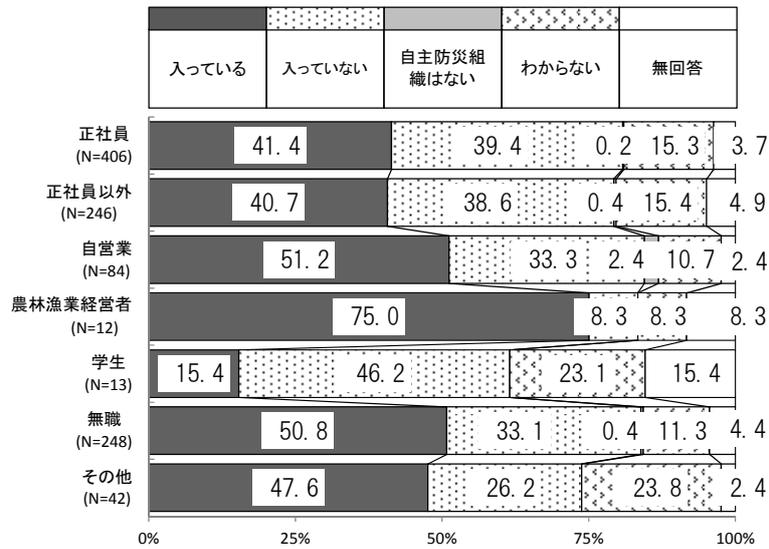
性・年齢別で見ると、「入っている」は『男性60～69歳』(70.9%)が最も高く、次いで『男性70歳以上』(54.4%)、『女性60～69歳』(52.2%)、『女性70歳以上』(47.7%)の順になっている。

【(図表 28-4) 自主防災組織への加入状況 性・年齢別】



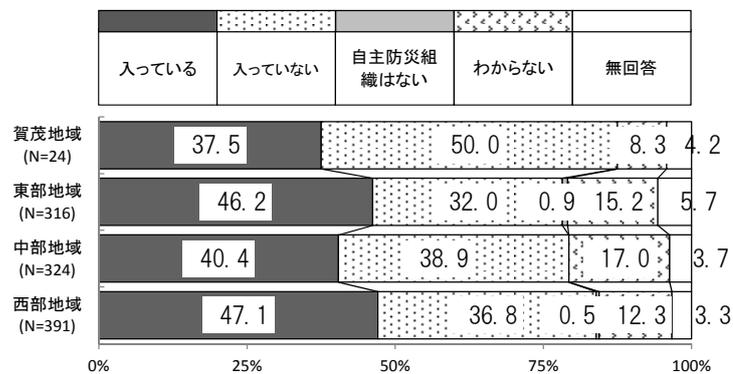
職業別でみると、「入っている」は『農林漁業経営者』（75.0%）が最も高くなっている。

【（図表 28-5） 自主防災組織への加入状況 職業別】



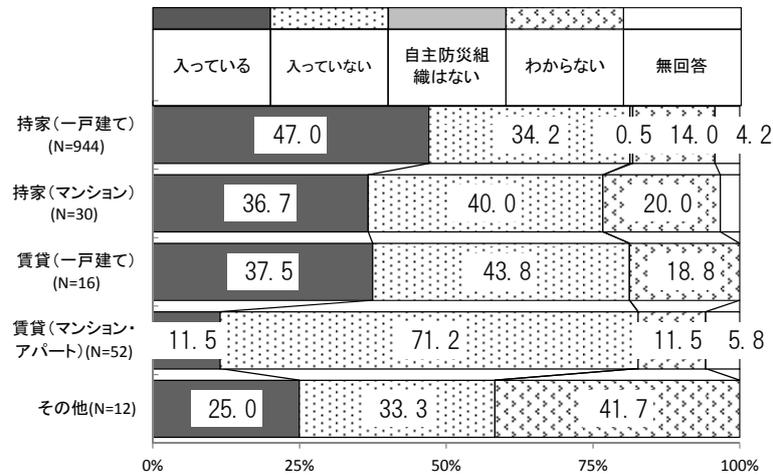
地域別でみると、「入っている」は『西部』（47.1%）が最も高く、『賀茂』（37.5%）が最も低くなっている。

【（図表 28-6） 自主防災組織への加入状況 地域別】



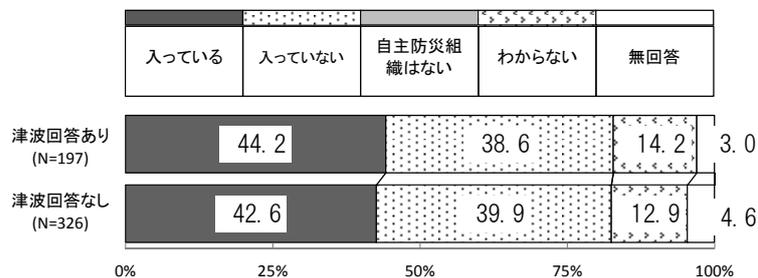
住居形態別でみると、「入っている」は『持家（一戸建て）』（47.0%）が最も高く、『賃貸（マンション・アパート）』（11.5%）が最も低く、35.5ポイントの差がみられる。

【（図表 28-7）自主防災組織への加入状況 住居形態別】



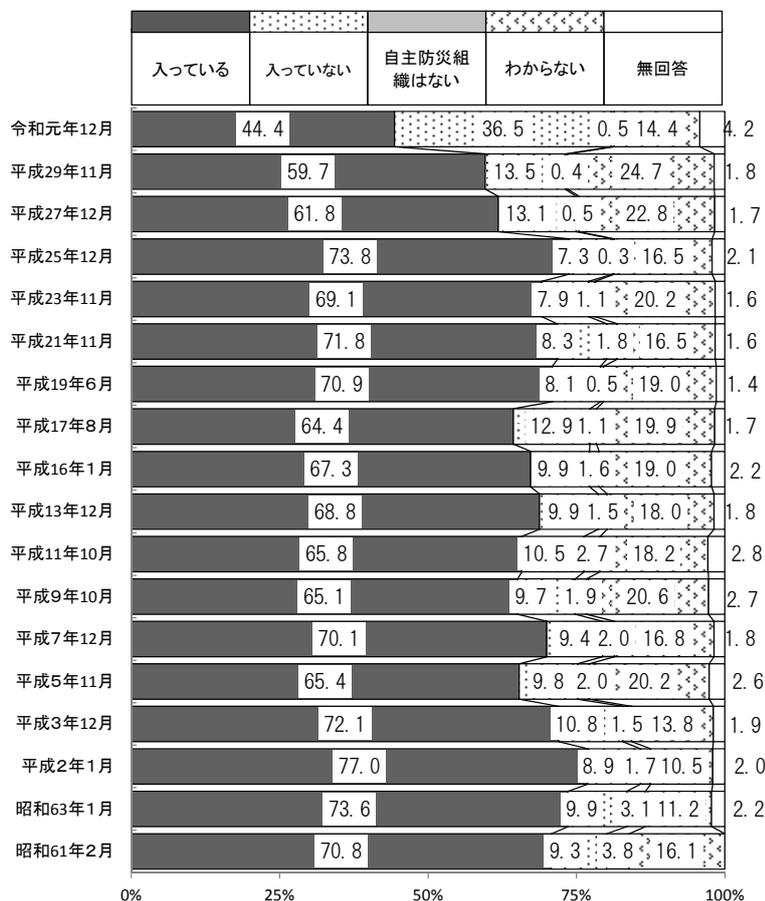
予想される被害が「津波」との回答者とそれ以外の回答者別でみると、「入っている」は『津波回答あり』（44.2%）、『津波回答なし』（42.6%）となっている。

【（図表 28-8）自主防災組織への加入状況 予想される被害「津波」とそれ以外の回答者別】



経年比較でみると、平成2年1月の調査で、「入っている」(77.0%)が最も高くなっており、平成25年12月の調査までは7割前後で推移していた。今回調査(44.4%)は、平成29年11月の前回調査(59.7%)より15.3ポイント減少している。

【(図表 28-9) 自主防災組織への加入状況 経年比較】



※前回調査では「あなたのお宅は、地域の自主防災組織に入っていますか。」と聞いているが、今回調査では「あなたは、地域の自主防災組織に入っていますか。」としている。

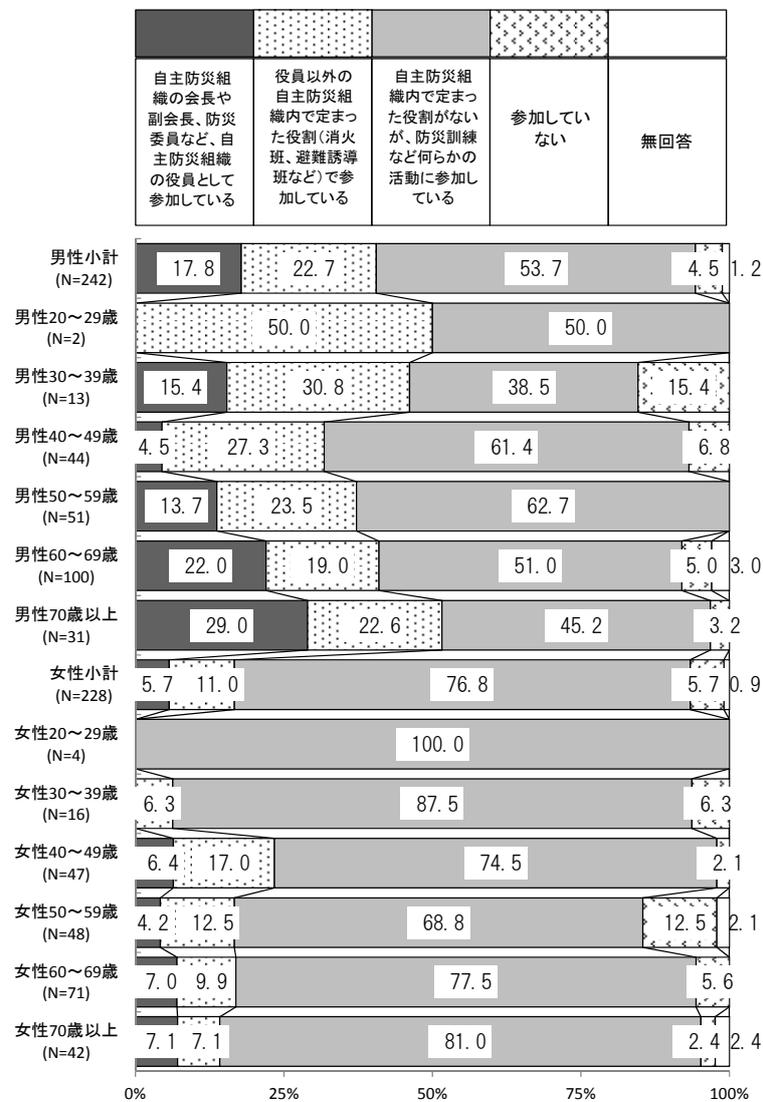
参加している自主防災組織の活動を性・年齢別で見ると、「自主防災組織内で定まった役割がないが、防災訓練など何らかの活動に参加している」は、『女性 30～39 歳』（87.5%）が最も高くなっている。「役員以外の自主防災組織内で定まった役割（消化班、避難誘導班など）で参加している」は、『男性 30～39 歳』（30.8%）が最も高くなっている。「自主防災組織の会長や副会長、防災委員など、自主防災組織の役員として参加している」は、『男性 70 歳以上』（29.0%）が最も高くなっている。「参加していない」は『男性 30～39 歳』（15.4%）が最も高くなっている。

◇男女の自主防災組織での活動率◇

男性 94.2%

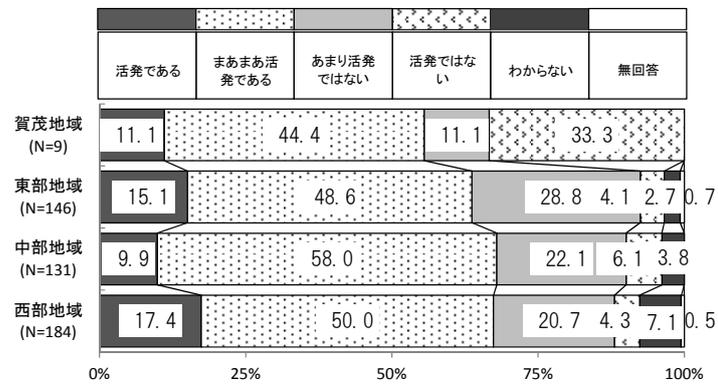
女性 93.5%

【（図表 28-10）参加している自主防災組織の活動 性・年齢別】



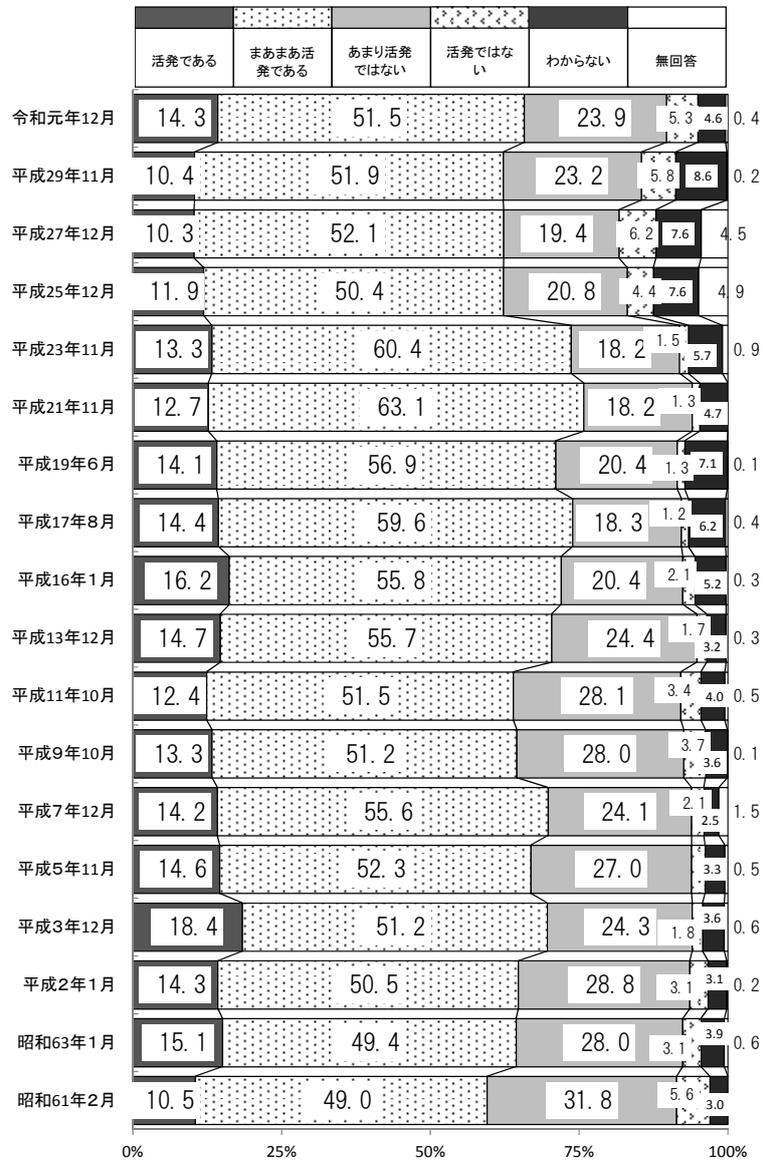
自主防災組織の活動状況を地域別で見ると、「活発である」+「まあまあ活発である」は、『中部』(67.9%)が最も高く、『賀茂』(55.5%)が最も低くなっている。

【(図表 28-11) 自主防災組織の活動状況 地域別】



自主防災組織の活動状況を経年比較で見ると、「活発である」＋「まあまあ活発である」は、今回調査（65.8%）が平成29年11月の前回調査（62.3%）より3.5ポイント高くなっている。

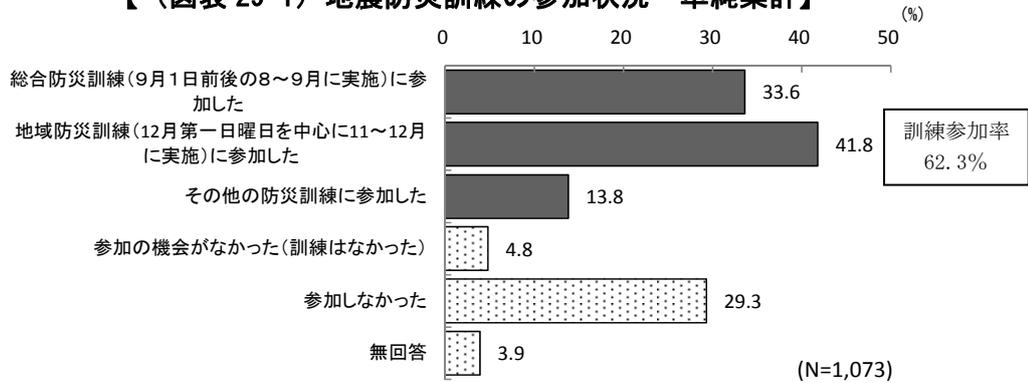
【（図表 28-12）自主防災組織の活動状況 経年比較】



## 2 過去1年間の地震防災訓練への参加状況

問 29 あなたは、過去1年間に、地域や職場の地震防災訓練に参加したことがありますか。  
(○はいくつでも)

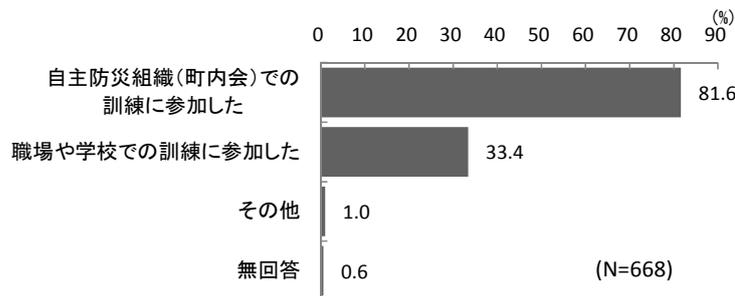
【(図表 29-1) 地震防災訓練の参加状況 単純集計】



<問 29 で「総合防災訓練(9月1日前後の8~9月に実施)に参加した」「地域防災訓練(12月第一日曜日を中心に11~12月に実施)に参加した」「3 その他の防災訓練に参加した」のいずれかを選んだ方にお伺いします。>

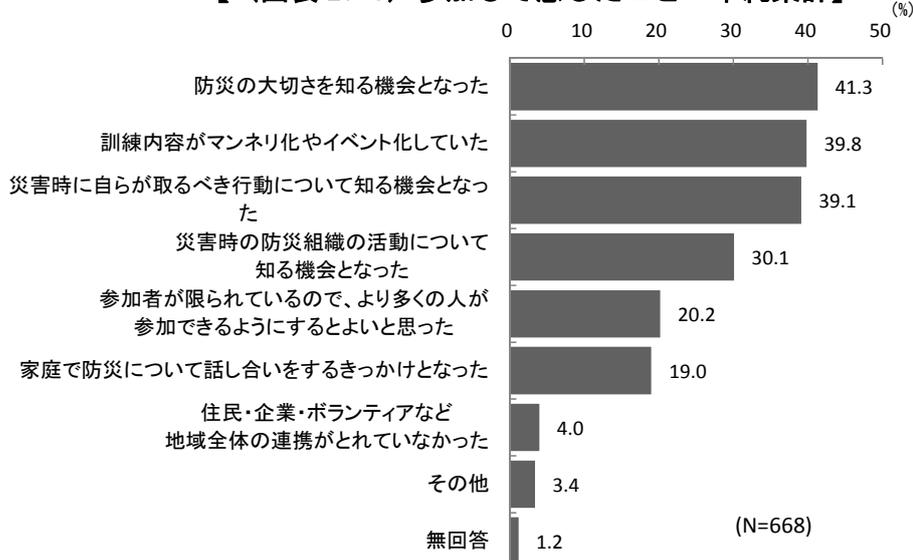
問 29-1 防災訓練はどちらで参加しましたか。(○はいくつでも)

【(図表 29-2) 地震防災訓練の参加形態 単純集計】



問 29-2 参加して、どのようなことを感じましたか。(○はいくつでも)

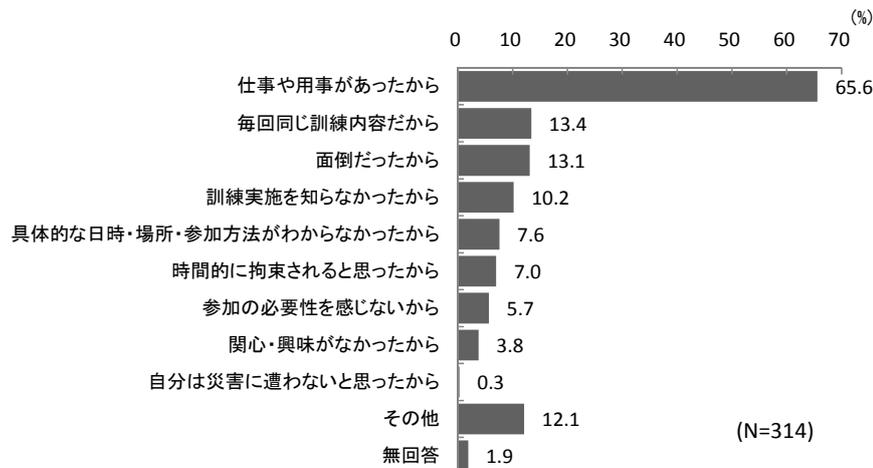
【(図表 29-3) 参加して感じたこと 単純集計】



<問 29 で「参加しなかった」を選んだ方にお伺いします。>

問 29-3 参加しなかった理由は何ですか。(〇はいくつでも)

【(図表 29-4) 参加しなかった理由 単純集計】



過去 1 年間の地震防災訓練参加状況についてたずねたところ、「地域防災訓練（12 月第一日曜日を中心に 11～12 月に実施）に参加した」（41.8%）が最も高く、次いで「総合防災訓練（9 月 1 日前後の 8～9 月に実施）に参加した」（33.6%）、「参加しなかった」（29.3%）、「その他の防災訓練に参加した」（13.8%）、「参加の機会がなかった（訓練はなかった）」（4.8%）の順になっている。

なお、いずれかの訓練に参加した人は 62.3%となっている。

また、問 29 で地震防災訓練に「参加した」と回答した人の参加形態についてたずねたところ、「自主防災組織（町内会）での訓練に参加した」（81.6%）が最も高く、次いで「職場や学校での訓練に参加した」（33.4%）となっている。

また、参加してみてどのようなことを感じたかをたずねたところ、「防災の大切さを知る機会となった」（41.3%）が最も多く、次いで「訓練内容がマンネリ化やイベント化していた」（39.8%）、「災害時に自らが取るべき行動について知る機会となった」（39.1%）の順になっている。

一方、問 29 で地震防災訓練に「参加しなかった」と回答した人の理由は、「仕事や用事があったから」（65.6%）が最も高く、次いで「毎回同じ訓練内容だから」（13.4%）、「面倒だったから」（13.1%）、「訓練実施を知らなかったから」（10.2%）、「具体的な日時・場所・申込方法がわからなかったから」（7.6%）の順になっている。

性・年齢別でみると「地域防災訓練（12月第一日曜日を中心に11月～12月に実施）に参加した」は『男性60～69歳』（53.2%）と『女性60～69歳』（52.2%）が他の年齢層より高くなっている。「総合防災訓練（9月1日前後の8～9月に実施）に参加した」は『男性50～59歳』（41.7%）、『女性60～69歳』（39.0%）、『男性40～49歳』（37.6%）、『男性60～69歳』、『女性40～49歳』（ともに35.5%）が他の年齢層より高くなっている。

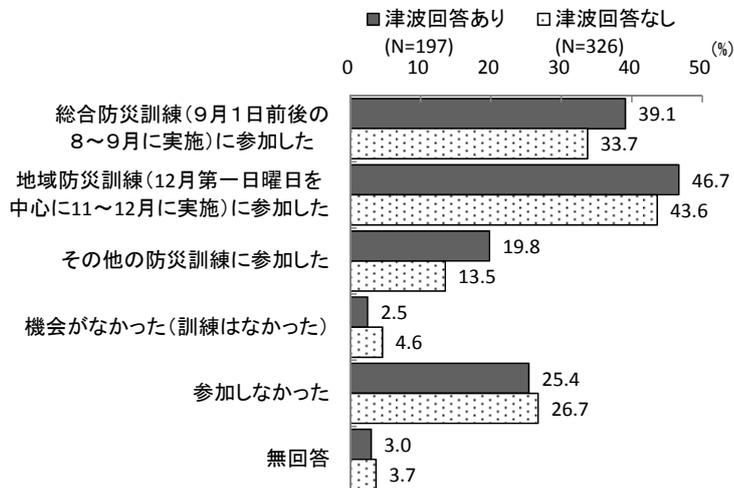
地域別でみると「参加しなかった」は『中部』（31.5%）が最も高く、『賀茂』（12.5%）が最も低くなっている。

【（図表 29-5）地震防災訓練の参加状況 性・年齢別、地域別】

		回答者数	総合防災訓練（9月1日前後の8～9月に実施）に参加した	地域防災訓練（11～12月第一日曜日を中心に実施）に参加した	その他の防災訓練に参加した	機会がなかった（訓練はなかった）	参加しなかった	無回答
全体		1,073	33.6	41.8	13.8	4.8	29.3	3.9
性・年齢別	男性	511	35.2	40.3	16.2	3.9	28.2	3.5
	男性20～29歳	26	7.7	11.5	23.1	7.7	53.8	0.0
	男性30～39歳	54	31.5	29.6	14.8	11.1	29.6	0.0
	男性40～49歳	117	37.6	41.0	20.5	2.6	24.8	4.3
	男性50～59歳	115	41.7	37.4	20.0	5.2	27.8	2.6
	男性60～69歳	141	35.5	53.2	11.3	2.1	23.4	3.5
	男性70歳以上	57	31.6	36.8	10.5	0.0	35.1	8.8
	女性	544	32.4	42.6	11.8	5.3	30.5	4.2
	女性20～29歳	36	16.7	22.2	11.1	2.8	55.6	2.8
	女性30～39歳	60	28.3	28.3	21.7	11.7	30.0	1.7
	女性40～49歳	110	35.5	40.9	17.3	7.3	29.1	0.9
	女性50～59歳	114	28.9	44.7	12.3	5.3	29.8	5.3
	女性60～69歳	136	39.0	52.2	8.1	4.4	24.3	5.1
女性70歳以上	88	31.8	45.5	3.4	1.1	33.0	8.0	
地域別	賀茂	24	41.7	45.8	16.7	4.2	12.5	8.3
	東部	316	37.0	41.5	11.7	5.4	30.1	3.8
	中部	324	32.4	41.4	14.5	1.5	31.5	4.3
	西部	391	31.7	41.4	15.1	6.6	28.1	3.3

予想される被害が「津波」との回答者とそれ以外の回答者別でみると、『津波回答あり』は「地域防災訓練（12月第一日曜日を中心に11～12月に実施）に参加した」（46.7%）が高く、『津波回答なし』（43.6%）と3.1ポイント差がある。

【（図表 29-6）地震防災訓練の参加状況 予想される被害「津波」とそれ以外の回答者別】



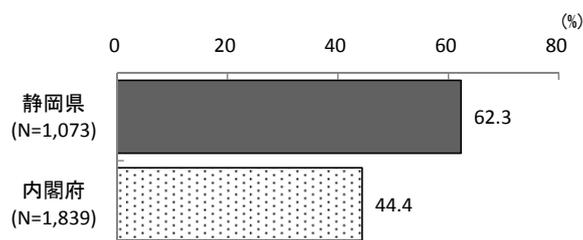
要配慮者との同居別でみると、「地域防災訓練（12月第一日曜日を中心に11～12月に実施）に参加した」は『小学生』のいる世帯（50.3%）で最も高く、次いで『中高生』のいる世帯（43.7%）となっている。一方、「参加しなかった」は要配慮者が『いない』世帯（35.5%）が最も高くなっている。

【（図表 29-7）地震防災訓練の参加状況 要配慮者との同居別】

	回答者数	参加状況 (%)						
		総合防災訓練(9月1日前後の8～9月に実施)に参加した	地域防災訓練(12月第一日曜日を中心に11～12月に実施)に参加した	その他の防災訓練に参加した	機会がなかった(訓練はなかった)	参加しなかった	無回答	
全体	1,073	33.6	41.8	13.8	4.8	29.3	3.9	
要配慮者との同居別	小学校に入学する前の子供	120	35.8	40.0	14.2	4.2	28.3	5.0
	小学生	143	39.9	50.3	14.7	1.4	21.7	4.2
	中高生	174	40.2	43.7	15.5	2.3	22.4	5.7
	日常生活に介護を必要とする方	72	33.3	43.1	8.3	8.3	30.6	2.8
	妊産婦	11	63.6	36.4	27.3	0.0	27.3	0.0
	65歳以上の方	525	31.2	43.6	13.0	5.3	29.1	4.6
いない	282	31.6	35.8	14.5	5.3	35.5	2.1	

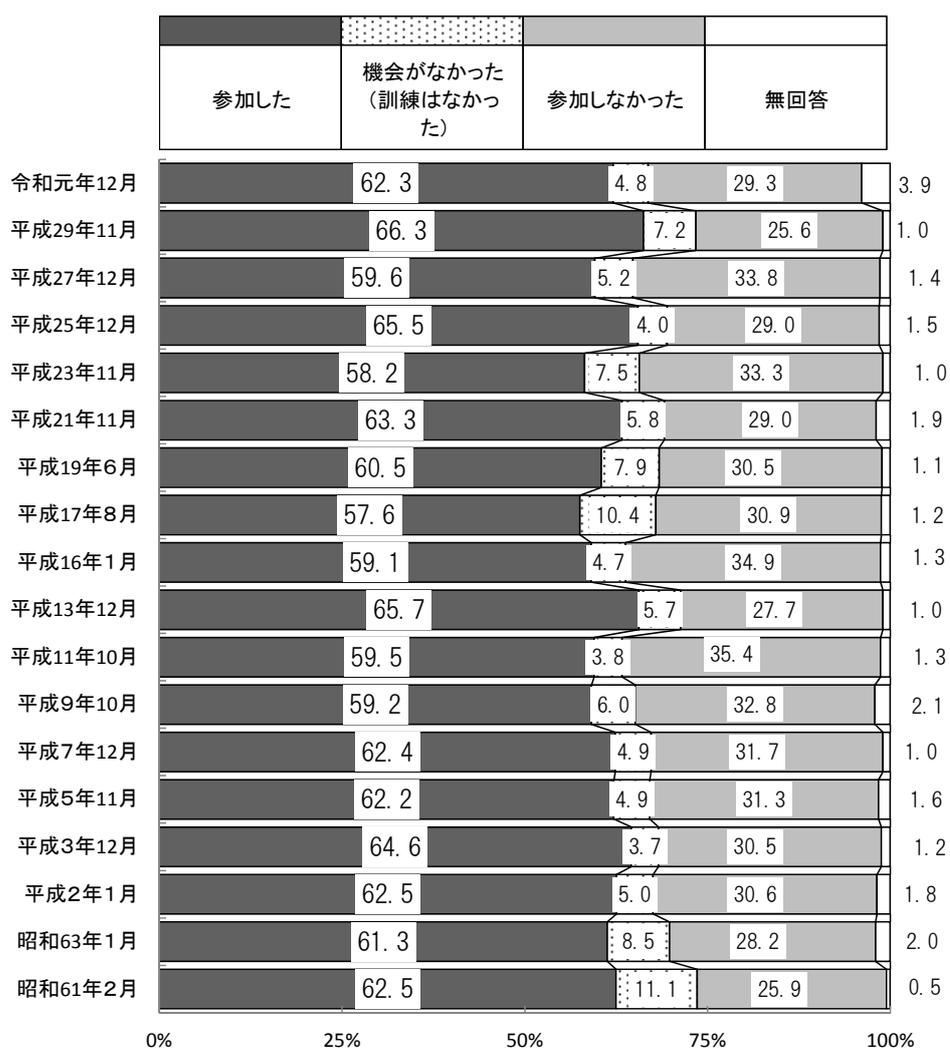
内閣府調査との比較でみると、地震防災訓練の参加率（何らかの訓練に参加）は『静岡県』（62.3%）、『内閣府』（44.4%）と、『静岡県』が17.9ポイント高くなっている。

【（図表 29-8）地震防災訓練の参加率 内閣府調査との比較】



経年比較でみると、「参加した」が今回調査（62.3%）は、平成29年11月の前回調査（66.3%）より4.0ポイント低くなっている。「参加しなかった」（29.3%）は、前回調査（25.6%）より3.7ポイント高くなっている。

【（図表 29-9）地震防災訓練の参加率 経年比較】



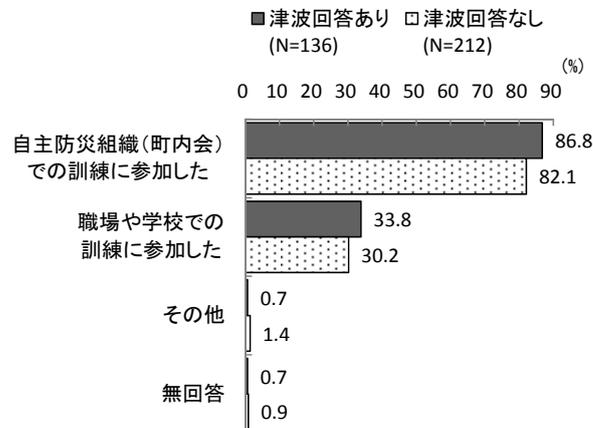
地震防災訓練の参加形態を性・年齢別で見ると、男女ともに年齢が上がるにつれて「自主防災組織（町内会）での訓練に参加した」の割合が高くなり、「職場や学校での訓練に参加した」の割合が低くなっている。

【(図表 29-10) 地震防災訓練の参加形態 性・年齢別】 (%)

	回答者数	自主防災組織（町内会）での訓練に参加した	職場や学校での訓練に参加した	その他	無回答	
全体	668	81.6	33.4	1.0	0.6	
性・年齢別	男性	330	77.6	38.5	1.2	0.3
	男性20～29歳	10	40.0	70.0	0.0	0.0
	男性30～39歳	32	62.5	59.4	3.1	0.0
	男性40～49歳	81	69.1	58.0	0.0	0.0
	男性50～59歳	74	71.6	44.6	1.4	1.4
	男性60～69歳	100	92.0	19.0	1.0	0.0
	男性70歳以上	32	93.8	6.3	3.1	0.0
	女性	327	85.3	28.4	0.9	0.9
	女性20～29歳	14	42.9	71.4	0.0	0.0
	女性30～39歳	34	58.8	61.8	0.0	0.0
	女性40～49歳	69	85.5	31.9	2.9	1.4
	女性50～59歳	68	85.3	27.9	0.0	1.5
	女性60～69歳	91	94.5	19.8	1.1	1.1
	女性70歳以上	51	98.0	5.9	0.0	0.0

予想される被害が「津波」との回答者とそれ以外の回答者別でみると、「自主防災組織（町内会）での訓練に参加した」は『津波回答あり』（86.8%）、『津波回答なし』（82.1%）となっている。

【（図表 29-11）地震防災訓練の参加形態 予想される被害「津波」とそれ以外の回答者別】



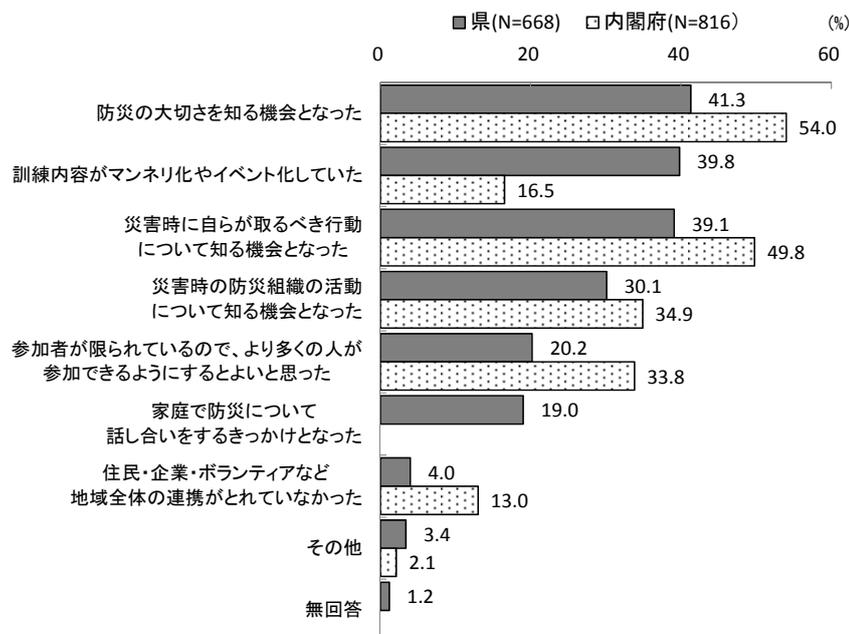
地震防災訓練の参加形態を経年比較でみると、「自主防災組織（町内会）での訓練に参加した」は、今回調査（81.6%）が、平成29年11月の前回調査（76.7%）より4.9ポイント高くなっている。

【（図表 29-12）地震防災訓練の参加形態 経年比較】

		参加形態 (%)			
		自主防災組織(町内会)での訓練に参加した	職場や学校での訓練に参加した	その他	無回答
経年比較	令和元年12月	81.6	33.4	1.0	0.6
	平成29年11月	76.7	32.6	1.3	0.7
	平成27年12月	64.4	25.7	1.9	17.2
	平成25年12月	80.3	28.0	2.2	1.9
	平成23年11月	69.4	36.0	1.0	5.4
	平成21年11月	70.2	37.1	0.7	4.3
	平成19年6月	71.9	35.4	0.1	3.5
	平成17年8月	69.3	39.2	2.6	1.3
	平成16年1月	78.0	32.5	2.9	0.9
	平成13年12月	79.4	27.5	2.3	2.3
	平成12年2月	71.4	25.1	1.6	2.0
	平成10年2月	74.2	27.5	3.5	4.0
	平成8年3月	74.6	28.4	2.2	2.3
	平成6年3月	70.9	31.8	2.0	2.1

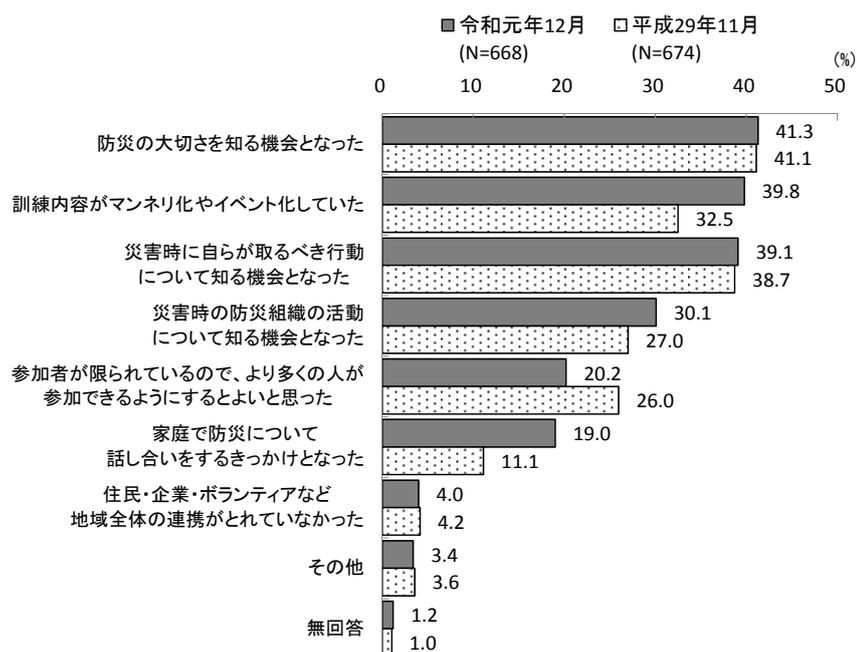
訓練参加感想を内閣府調査との比較でみると、「防災の大切さを知る機会となった」は41.3%と、『内閣府』(54.0%)より12.7ポイント下回っている。また、「災害時に自らが取るべき行動について知る機会となった」は39.1%と、『内閣府』(49.8%)より10.7ポイント下回っている。一方、「訓練内容がマンネリ化やイベント化していた」は39.8%と、『内閣府』(16.5%)より23.3ポイント上回っている。

【(図表 29-13) 参加して感じたこと 内閣府調査との比較】



訓練参加感想を経年比較でみると、「内容が形式的であったりイベント化していた」は今回調査(39.8%)が、前回調査(32.5%)より7.3ポイント高くなっている。

【(図表 29-14) 参加して感じたこと 経年比較】

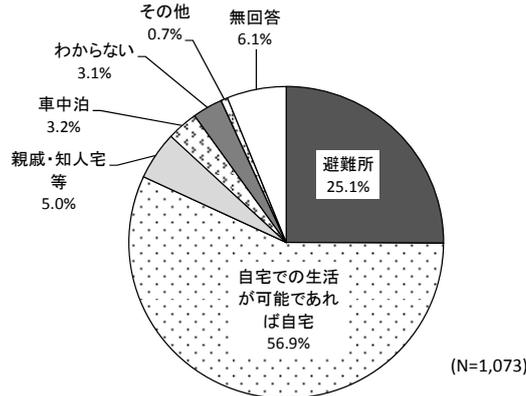


# 第7章 避難所について

## 1 避難生活に関する認識

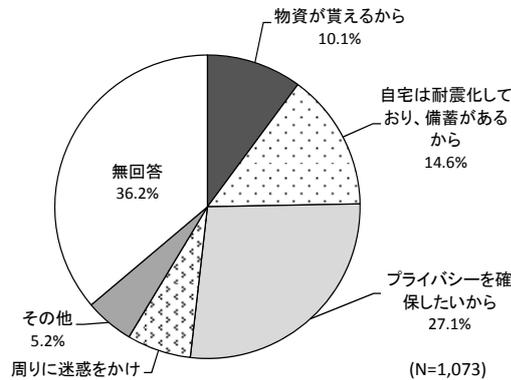
問 30 災害により、自宅が損壊した場合やライフライン（電気・ガス・水道等）が使えない場合、あなたはどこで避難生活をしますか。（〇は1つ）

【（図表 30-1）避難生活をする場所 単純集計】



問 30-1 また、上記避難先を選んだ理由はなぜですか。（〇は1つ）

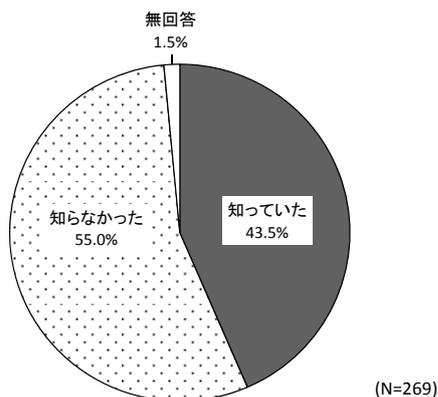
【（図表 30-2）避難生活をする場所の理由 単純集計】



<問 30 で「避難所」を選んだ方にお伺いします。>

問 30-2 避難所の運営は基本的に、そこで生活する避難者が行うということを知っていますか（〇は1つ）

【（図表 30-3）避難所の運営に関する認知 単純集計】



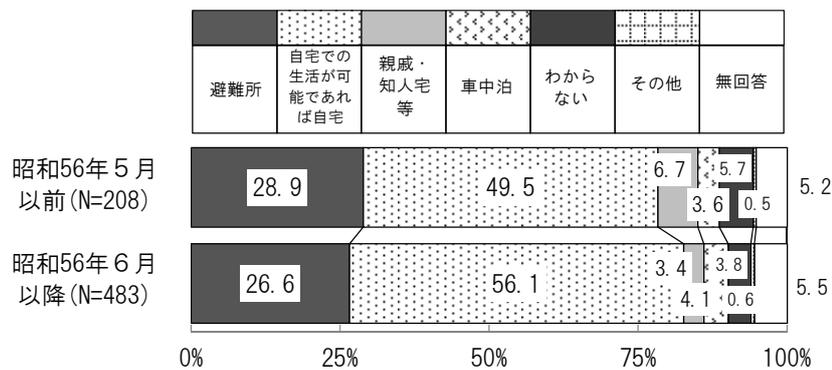
災害が発生した後の避難生活場所についてたずねると、「自宅での生活が可能であれば自宅」(56.9%)が最も高く、次いで「避難所」(25.1%)、「親戚・知人宅等」(5.0%)、「車中泊」(3.2%)、「わからない」(3.1%)の順になっている。

理由については、「プライバシーを確保したいから」(27.1%)が最も高く、次いで「自宅は耐震化しており、備蓄があるから」(14.6%)、「物資が貰えるから」(10.1%)、「周りに迷惑をかけるから」(6.8%)の順になっている。

避難所で避難生活を送ると回答した方に運営を避難者が行うことの認知をたずねると、「知っていた」(43.5%)、「知らなかった」(55.0%)となっている。

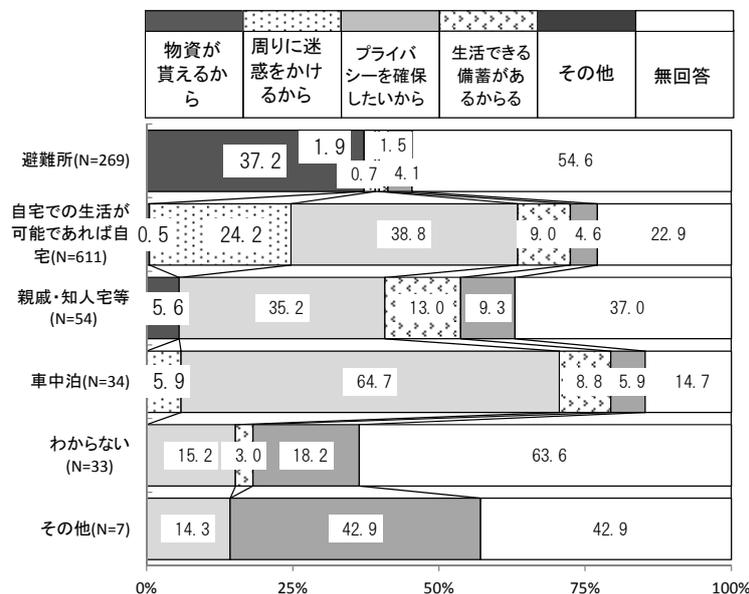
昭和56年5月以前建築と昭和56年6月以降との比較でみると、避難生活をする場所は、「自宅での生活が可能であれば自宅」が『昭和56年5月以前建築』(49.5%)、『昭和56年6月以降』(56.1%)となっている。

【(図表 30-4) 避難生活をする場所 昭和56年5月以前建築と昭和56年6月以降との比較】



避難生活場所別でみると、避難生活をする場所の理由は、「物資が貰えるから」は『避難所』(37.2%)が最も高く、「周りに迷惑をかけるから」は『自宅での生活が可能であれば自宅』(24.2%)が最も高くなっている。

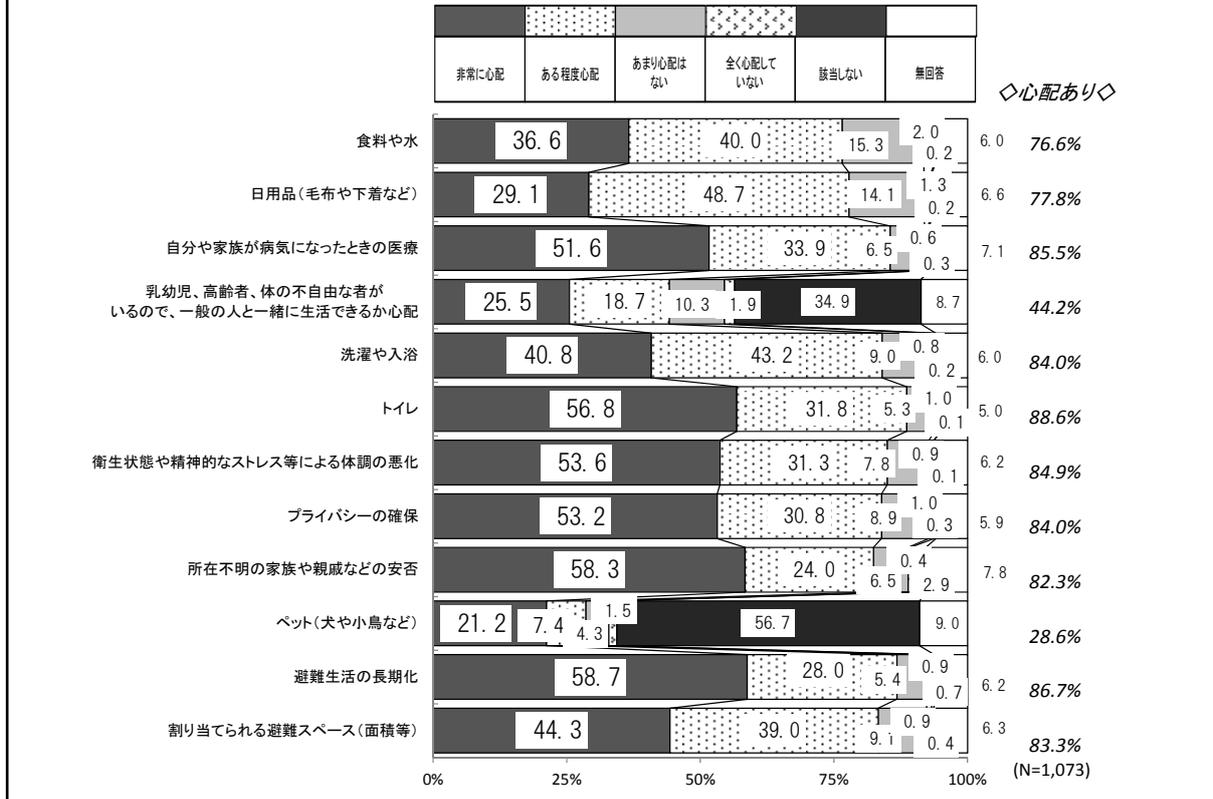
【(図表 30-5) 避難生活をする場所の理由 避難生活場所別】



## 2 避難生活における心配事

問 31 あなたが避難所で避難生活を送るとしたら、どのようなことが心配ですか。次の1～12の質問項目ごとに、該当するものに○をつけてください。

【(図表 31-1) 避難生活での心配事 単純集計】



避難所で避難生活を送る場合の心配ごとについてたずねると、「非常に心配」については、『避難生活の長期化』(58.7%)、『所在不明の家族や親戚などの安否』(58.3%)、『トイレ』(56.8%)の3項目が高くなっている。

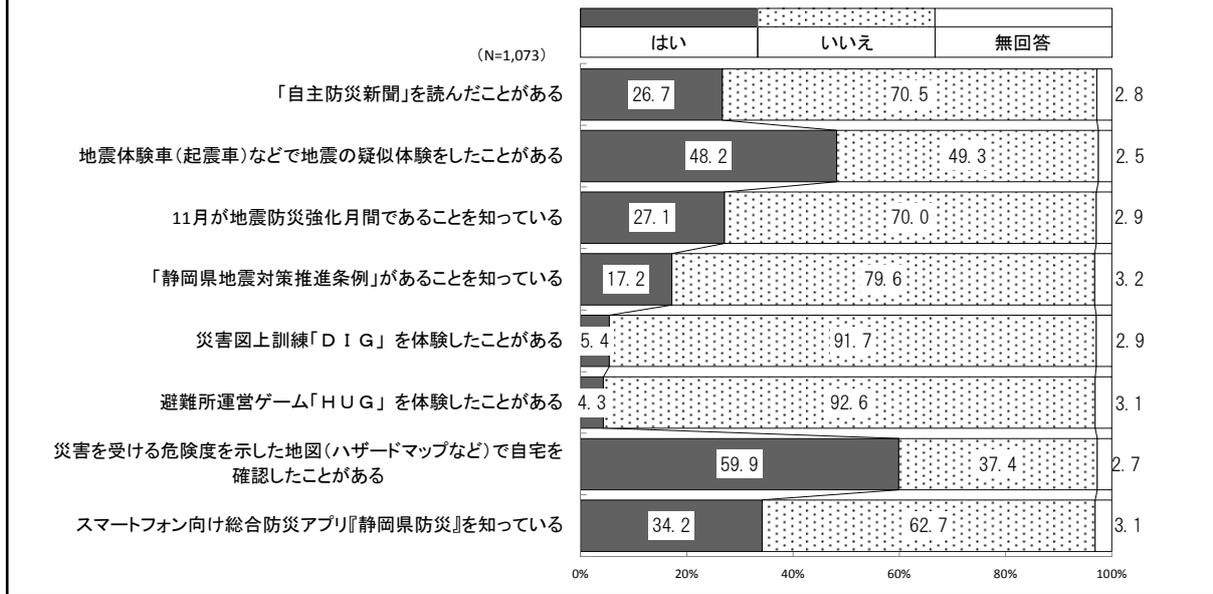
また、心配ありと答えた項目(「非常に心配」+「ある程度心配」)の上位5項目をみると、『トイレ』(88.6%)、『避難生活の長期化』(86.7%)、『自分や家族が病気になったときの医療』(85.5%)、『衛生状態や精神的なストレス等による体調不良』(84.9%)、『洗濯や入浴』、『プライバシーの確保』(ともに84.0%)となっており、いずれも8割を超えている。

# 第8章 その他

## 1 地震防災に必要な情報の入手状況

問 32 次の1～8の質問項目についてそれぞれ該当する欄に○をつけてください。

【(図表 32-1) 地震防災に必要な情報の入手状況 単純集計】



地震防災情報の入手についてたずねたところ、「災害を受ける危険度を示した地図(ハザードマップなど)で自宅を確認したことがある」(59.9%)が最も高く、次いで「地震体験車(起震車)などで地震の疑似体験をしたことがある」(48.2%)、「スマートフォン向け総合防災アプリ『静岡県防災』を知っている」(34.2%)、「11月が地震防災強化月間であることを知っている」(27.1%)、「「自主防災新聞」を読んだことがある」(26.7%)、「「静岡県地震対策推進条例」があることを知っている」(17.2%)の順になっており、これら6項目は1割以上の方が「はい」と答えている。しかしながら、全体的にみると、半数以上が「いいえ」と答えた項目の方が多く、8項目中6項目となっている。

地震防災情報の入手（認知率）を経年比較でみると、「災害を受ける危険度を示した地図（ハザードマップなど）で自宅を確認したことがある」の認知率は、今回調査（59.9%）が平成29年11月の前回調査（49.9%）より10.0ポイント高くなり、「自主防災新聞」を読んだことがあるの認知率は、今回調査（26.7%）が前回調査（29.2%）より2.5ポイント低くなっている。

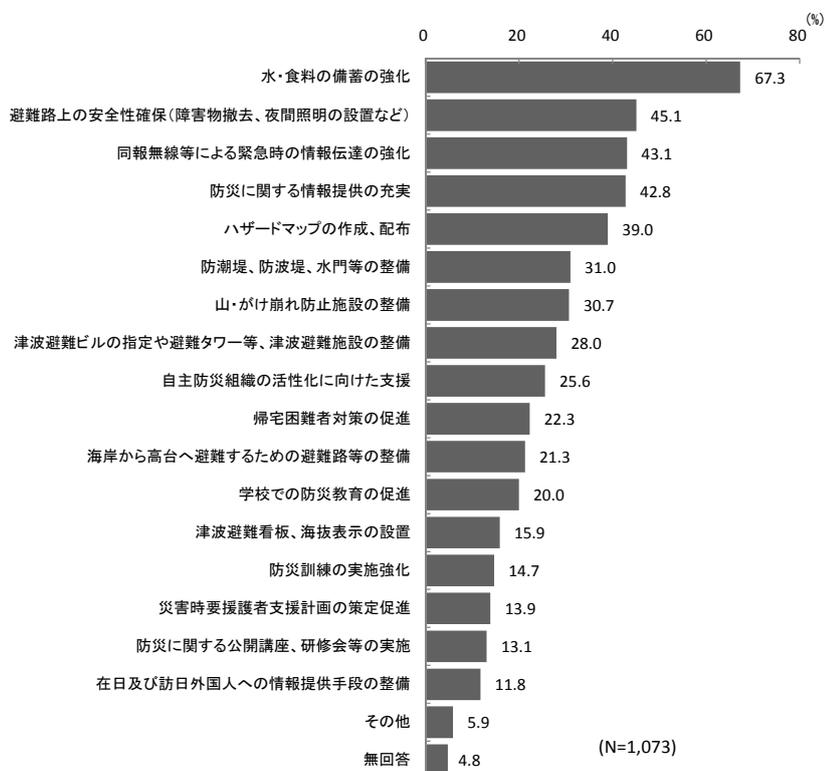
【（図表 32-2）地震防災に必要な情報の入手（認知率） 経年比較】

順位	地震防災情報	認知率(%)										
		令和元年 12月	平成29年 11月	平成27年 12月	平成25年 12月	平成23年 11月	平成21年 11月	平成19年 6月	平成17年 8月	平成16年 1月	平成13年 12月	平成11年 10月
1	災害を受ける危険度を示した地図（ハザードマップなど）で自宅を確認したことがある	59.9	49.9	54.4	-	-	-	-	-	-	-	-
2	地震体験車（起震車）などで地震の疑似体験をしたことがある	48.2	42.7	43.9	42.7	40.4	37.3	32.3	33.4	30.8	29.1	30.6
3	スマートフォン向け総合防災アプリ『静岡県防災』を知っている	34.2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
4	11月が地震防災強化月間であることを知っている	27.1	22.5	23.0	29.1	19.3	22.6	26.7	22.2	29.8	27.7	24.3
5	「自主防災新聞」を読んだことがある	26.7	29.2	37.9	58.5	52.1	63.7	68.5	60.2	61.8	62.8	61.5
6	「静岡県地震対策推進条例」があることを知っている	17.2	15.9	13.9	18.5	13.9	18.5	20.4	20.8	24.5	26.2	27.1
7	災害図上訓練「DIG」を体験したことがある	5.4	3.7	3.7	4.1	-	-	-	-	-	-	-
8	避難所運営ゲーム「HUG」を体験したことがある	4.3	2.5	2.4	1.9	-	-	-	-	-	-	-

## 2 今後の行政への要望

問 33 次あなたは、今後、県や市町が行う防災対策について、要望することがありますか。次の中からあてはまるものをいくつでもお答えください。(〇はいくつでも)

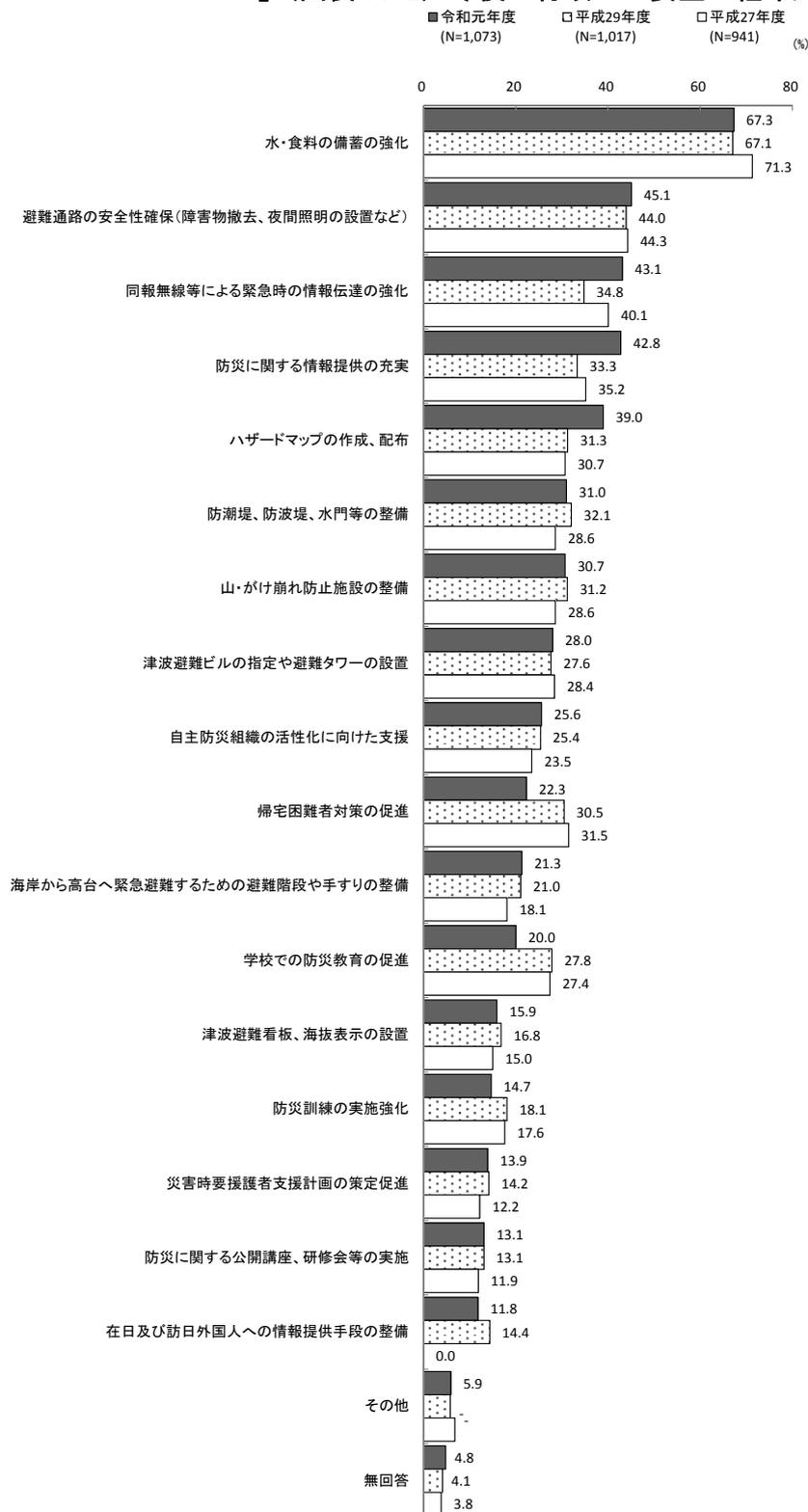
【(図表 33-1) 今後の行政への要望 単純集計】



今後の行政に要望することをたずねたところ、「水・食料の備蓄の強化」(67.3%)が最も高く、次いで「避難路上の安全性確保(障害物撤去、夜間照明の設置など)」(45.1%)、「同報無線等による緊急時の情報伝達の強化」(43.1%)、「防災に関する情報提供の充実」(42.8%)、「ハザードマップの作成、配布」(39.0%)、「防潮堤、防波堤、水門等の整備」(31.0%)、「山・がけ崩れ防止施設の整備」(30.7%)の順になっており、これら7項目が3割を超えている。

経年比較でみると「同報無線等による緊急時の情報伝達の強化」は、今回調査（43.1%）が平成29年度の前回調査（34.8%）より8.3ポイント、「防災に関する情報提供の充実」は、今回調査（42.8%）が前回調査（33.3%）より9.5ポイント、「ハザードマップの作成、配布」は、今回調査（39.0%）が前回調査（31.3%）より7.7ポイント高くなっている。

【（図表 33-2）今後の行政への要望 経年比較】



(付) 調査票 (単純集計結果)



## 南海トラフ地震についての県民意識調査

### ご協力をお願い

爽秋の候、皆様におかれましては、ますます御清祥のこととお慶び申し上げます。  
昭和51年に東海地震説が発表されてから、既に40年が経過しました。現在のところ東海地域の地震活動は静かな状態にあるように見えますが、南海トラフ地震はいつ起きてもおかしくないと言われております。

本県では、県民の皆様の地震に対する日ごろの考え方や対策状況などを伺い、今後の地震対策に役立てるため、2年に1度「南海トラフ地震についての県民意識調査」を実施しております。

調査に当たりまして、県内から20歳以上の2,000人の方を選挙人名簿から無作為に抽出したところ、今回はあなた様が調査対象者のお一人となりました。

お忙しいところ大変恐縮に存じますが、何とぞ本調査の趣旨を御理解賜り、本調査に御協力くださいますようお願い申し上げます。

令和元年11月

静岡県危機管理部長

### ご記入にあたってのお願い

- ◆ご回答は、**封書宛名のご本人**がお答えください。
- ◆全体で30分程度かかります。記入へのご協力をお願いします。
- ◆ご回答は、選択肢の中から当てはまる**番号や記号に○をつけてください。**  
「その他」の番号に○をつけた方は、( )内に具体的な内容をご記入ください。
- ◆回答によっては、一部の方だけにその後の質問にお答えいただくものがあります。  
その場合、「→」などで説明を加えてありますので、説明に従ってお答えください。
- ◆ご記入は、**赤以外**であれば、どのような筆記用具でも構いません。
- ◆ご回答の内容は、統計的に処理を行うこととし、その秘密の保持には十分配慮しますので、ご回答いただいた方に迷惑をかけることは決してありません。
- ◆ご記入が済みましたら、お手数ですが同封の返信用封筒（切手不要）に入れて、**12月13日（金）まで**にご投函をお願いします。
- ◆ご不明な点等がございましたら、恐れ入りますが下記までご連絡ください。

静岡県危機管理部危機情報課（担当：友寄<sup>ともよ</sup>）  
静岡市葵区追手町9番6号  
TEL 054-221-3694  
E-mail bou.jou@pref.shizuoka.lg.jp

まずは、あなた様やお宅のことについてご記入ください。

F 1 性別 (○は1つ)

1 男性	47.6%	2 女性	50.7%	無回答	1.7%
------	-------	------	-------	-----	------

F 2 年齢 (○は1つ)

1 20～29 歳	5.8%	2 30～39 歳	10.6%	3 40～49 歳	21.2%
4 50～59 歳	21.3%	5 60～69 歳	25.8%	6 70 歳以上	13.5%
1.8%					

F 3 職業 (○は1つ)

1 正社員として勤務 (会社員、公務員、医療関係を含む)	37.8%	3 自営業	7.8%		
2 正社員以外として勤務 (パート、フリーターを含む)	22.9%	6 無職	23.1%		
4 農林漁業経営者	1.1%	5 学生	1.2%	7 その他 (具体的に )	3.9%
2.1%					

F 4 あなたは、静岡県にお住みになって何年くらいになりますか。(○は1つ)

1 10 年未満	2.9%	2 10 年以上	95.4%	1.7%
----------	------	----------	-------	------

F 5 あなたのお宅は、次のどれにあたりますか。(○は1つ)

1 持家 (一戸建て)	88.0%	2 持家 (マンション)	2.8%	3 賃貸 (一戸建て)	1.5%
4 賃貸 (マンション・アパート)	4.8%	5 その他 (具体的に )	1.1%	1.8%	

F 6 あなたのお宅には次に該当する方がいますか。(○はいくつでも)

1 小学校に入学する前の子供	11.2%	2 小学生	13.3%	3 中高生	16.2%
4 日常生活に介護を必要とする方	6.7%	5 妊産婦	1.0%	6 65歳以上の方	48.9%
7 上記1～6に該当する方はいない	26.3%	1.9%			

F 7 あなたは、近所づきあいをどの程度していますか。(○は1つ)

1 ほとんどつきあいがいい	5.0%
2 挨拶をする程度	31.4%
3 ときどき立ち話をする程度	47.8%
4 留守を頼んだり、親しく話をする	14.0%
1.8%	

F8 あなたのお住まいの市町はどちらですか。(〇は1つ)

1 下田市	0.6%	2 東伊豆町	0.4%	3 河津町	0.4%		
4 南伊豆町	0.2%	5 松崎町	0.4%	6 西伊豆町	0.4%		
7 沼津市	4.7%	8 熱海市	1.0%	9 三島市	2.9%	10 富士宮市	3.6%
11 伊東市	1.8%	12 富士市	7.0%	13 御殿場市	2.0%	14 裾野市	1.2%
15 伊豆市	0.8%	16 伊豆の国市	1.2%	17 函南町	0.7%	18 清水町	0.8%
19 長泉町	1.3%	20 小山町	0.5%				
21 静岡市葵区	6.1%	22 静岡市駿河区	6.5%	23 静岡市清水区	5.3%		
24 島田市	2.8%	25 焼津市	3.9%	26 藤枝市	3.6%		
27 牧之原市	1.1%	28 吉田町	0.7%	29 川根本町	0.1%		
30 浜松市中区	6.8%	31 浜松市東区	2.8%	32 浜松市西区	3.1%	33 浜松市南区	2.4%
34 浜松市北区	2.7%	35 浜松市浜北区	3.6%	36 浜松市天竜区	0.9%		
37 磐田市	4.9%	38 掛川市	2.8%	39 袋井市	2.4%		
40 湖西市	1.9%	41 御前崎市	0.9%	42 菊川市	0.7%	43 森町	0.5%

1.7%

## 1 南海トラフ地震について

以下の設問にある「南海トラフ地震」については、南海トラフ・駿河トラフ沿いの大地震や相模トラフ沿いの大地震など静岡県で甚大な被害の発生が懸念されている大規模地震をイメージしてお答えください。

問1 あなたは現在、南海トラフ地震にどの程度の関心を持っていますか。(〇は1つ)

1 非常に関心がある	41.6%
2 多少関心がある	49.8%
3 あまり関心はない	7.0%
4 全く関心はない	0.7%

0.9%

問2 あなたは、南海トラフ地震が発生する仕組み(メカニズム)を知っていますか。(〇は1つ)

1 よく知っている	7.5%
2 ある程度知っている	54.6%
3 あまり知らない	33.0%
4 全く知らない	3.9%

0.9%

問3 あなたは、南海トラフ地震が起こった場合、どのようなことが心配ですか。(〇はいくつでも)

1 津波、浸水、堤防の決壊	55.2%	2 土砂崩れ、崖崩れ	27.6%
3 地割れ、陥没	36.3%	4 建物(自宅を含む)の倒壊	79.5%
5 火災の発生	58.6%	6 液状化現象	25.3%
7 タンス・冷蔵庫などの家具類の転倒	45.6%	8 家族の安否の確認ができなくなる	54.8%
9 近くに避難場所がないこと	6.6%	10 避難所での生活	56.8%
11 食料や飲料水の確保が困難になること	65.0%	12 日用品の不足	48.4%
13 ガソリン・灯油などの燃料不足	40.5%	14 電気、水道、ガスの供給停止	75.1%
15 外出先・勤務先から帰宅できなくなる	35.4%	16 外出先での避難方法がわからないこと	18.5%
17 ガスなどの危険物の爆発	21.2%	18 原子力発電所事故	32.6%
19 治安の悪化	22.6%	20 生産活動の停止	16.6%
21 心配なことはない	0.1%		
22 その他(具体的に		)	2.9%

0.7%

問4 あなたが海岸付近にいる際に、突発的に南海トラフ地震があり津波が発生した場合、どのタイミングで避難行動を開始すると思いますか。(〇は1つ)

1 揺れが収まったら	56.3%
2 津波警報を見聞きしたら(同報無線等による自治体からの呼びかけ含む)	24.4%
3 スマートフォンなどで津波の危険性があるか確認し、危険を認知したら	10.3%
4 周りの人が避難している姿を見たら	3.5%
5 海の水が引いているのを見たら	1.4%
6 沖合に高い波が見えたら	0.2%
7 足下に水が来たら	0.1%
8 その他(具体的に )	1.1%

2.6%

問5 南海トラフ地震が発生した場合、津波は、一番はやいところでは地震発生後どのくらいの時間で沿岸に来るか知っていますか。(〇は1つ)

1 知っている	35.9%	2 知らない	62.7%
---------	-------	--------	-------

問6 日頃、県や市町が防災情報を提供する場合、確実に伝わると思う方法は次のどれですか。(〇は3つまで)

1 新聞記事	14.4%
2 パンフレット等の全戸配布	29.8%
3 インターネット	22.8%
4 Eメール	19.5%
5 県や市町の広報誌	15.3%
6 テレビによる報道	60.0%
7 ラジオによる報道	18.5%
8 防災アプリ	24.6%
9 ツイッター、フェイスブック	6.4%
10 市町の同報無線による放送(こちらは広報〇〇です で始まる放送)	47.8%
11 その他(具体的に )	2.5%

2.2%

## 2 南海トラフ地震が発生したときの行動について

以下の質問は、突然、震度6強以上の地震（固定していない家具類はほとんど倒れ、立っていることが困難な揺れ）が起こった場合を想像してお答えください。

<全ての方にお伺いします。>

問7 平日の午前11時頃に突然地震が起こった場合、揺れがおさまったら、あなたがまず最初にすることを下記の項目の中から1つ選び、A欄に○をつけてください。また、その次にすることを3つ選んでB欄に○をつけてください。

選 択 項 目	A欄 まず最初にする こと (○は1つ)	B欄 その次にすること (○は3つ)
1 テレビやラジオで正確な情報を得る	36.3%	32.6%
2 行政からの情報を確認する(同報無線等)	4.1%	19.8%
3 インターネット(PC、スマホなど)で情報を確認する	15.8%	28.4%
4 非常持出品の準備をしたり、身軽な服装に着替えたりする	3.6%	39.0%
5 家の中の整理やガスの元栓などの確認をする	11.8%	33.0%
6 家族の安否を確認する(携帯電話メールなど)	12.4%	55.0%
7 子供を学校や幼稚園へ迎えに行く	0.6%	9.9%
8 買出しに行く	0.0%	2.1%
9 預金を引き出しに行く	0.0%	1.3%
10 外出先から帰宅する	1.0%	14.7%
11 指定された避難先又は安全と思われる場所へ避難する	5.5%	26.7%
12 自主防災組織や職場で決められた防災上の役割をする	3.3%	7.2%
13 何もしない	0.0%	0.0%

5.5%

1.9%

問8 地震が起こった場合、あなた自身の安全についてどう考えていますか。(○は1つ)

1 まず無事だと思う	13.9%	2 軽いけがぐらいはするかもしれない	38.3%
3 大けがをする危険があると思う	13.5%	4 死ぬ恐れもあると思う	31.2%

3.1%

問9 あなたはご自宅にいる時に、地震が起こった場合、一時的に避難をされますか。(○は1つ)

1 避難する	50.5%	2 避難しない	49.2%
--------	-------	---------	-------

⇒「2 避難しない」を回答された方は、問10へ進んでください。 0.3%

<問9で「1 避難する」とお答えした方にお伺いします。>

問9-1 あなたがご自宅にいる時に、地震が起こった場合、あなたやご家族が一時的に避難する場所として、可能性が高いと考える場所の1位、2位について、下記の項目の中から1つ選びそれぞれ○をつけてください。

選 択 項 目	避難する可能性が 高い1位の場所 (○は1つ)	避難する可能性が 高い2位の場所 (○は1つ)
1 市町が指定した避難地	66.2%	26.6%
2 自宅周辺の広場や高台など指定された避難地以外の場所	28.2%	45.6%
3 親戚、知人宅	1.7%	15.3%
4 その他（具体的に	1.8%	2.6%

2.0%

10.0%

問9-2 避難する場合の理由は何ですか。(○はいくつでも)

1 自宅又はその周辺は、津波の危険が予想されるから	36.3%
2 自宅又はその周辺は、山・がけ崩れの危険が予想されるから	14.0%
3 自宅の周辺が住宅密集地で、延焼火災の危険が予想されるから	17.0%
4 自宅の耐震性がないから（自宅が倒壊またはその危険があるから）	29.5%
5 自宅の倒壊の危険はないが、不安だから	34.9%

3.5%

問9-3 避難するときの交通手段は何ですか。(○は1つ)

1 徒歩	74.9%	2 自転車	1.7%	3 原付・バイク	0.2%	4 自家用車	13.5%
5 公共交通機関（電車・バス・タクシー等）	0.4%						

9.4%

<問9-2で「1 自宅又はその周辺は、津波の危険が予想されるから」を選んだ方にお伺いします。>

問9-4 深夜、あなたがご自宅で寝ている時に突然地震が発生した場合、あなたが避難を始めるまでに、揺れを感じてからどれくらいの時間がかかるとお考えですか。(○は1つ)

1 1分以内	0.5%	2 2～3分	7.1%	3 4～5分	22.3%
4 6～10分	24.4%	5 11～15分	20.8%	6 16～20分	3.6%
7 21～30分	8.1%	8 31分以上	4.1%	9 わからない	7.6%

1.5%

問10 地震が起こった際に、家族が離ればなれとなっている場合、家族の安否を確認する手段として何を使うことを考えていますか。(〇はいくつでも)

1 Eメール (携帯電話)	51.3%
2 直接電話	67.0%
3 アプリ (LINE、Messenger、web171、Google パーソンファインダーなど)	48.5%
4 共通の知人へ電話	7.9%
5 災害用伝言ダイヤル「171」	28.0%
6 携帯電話のメールサービス「災害伝言板」	21.1%
7 共通の集合場所などを決めているので連絡を取らない	3.0%
8 特に考えていない	2.0%
9 その他 (具体的に )	0.8%

2.1%

問11 地震が発生した場合、あなたは自主的に地域の防災活動に参加しますか。(〇は1つ)

1 参加する	35.5%	2 参加しない	9.4%	3 わからない	52.8%
--------	-------	---------	------	---------	-------

2.2%

<問11で「1 参加する」を選んだ方にお伺いします。>

問11-1 どのような活動に参加することを考えていますか。(〇はいくつでも)

1 火災発生時の初期消火	49.9%	2 倒壊家屋等からの救出・救助	44.4%
3 負傷者の応急手当・搬送	41.5%	4 避難の呼びかけ、避難の誘導	42.3%
5 避難所の運営	28.1%	6 住民の安否確認	42.5%
7 避難行動要支援者(高齢者等)の避難支援	32.5%	8 被害情報の収集	13.4%
9 その他 ( )			2.9%

0.5%

### 3 南海トラフ地震臨時情報が発せられたときの行動について

まずはこちらをご覧ください。↓↓

南海トラフ地震による被害防止・軽減のため、気象庁より新たな情報が発表されることとなりました。

## 「南海トラフ地震臨時情報」の運用が開始されました

南海トラフ沿いで大規模な地震が発生する可能性が高まった場合に発表される「南海トラフ地震臨時情報」。発表されるタイミングや、それに応じた防災対応を知り、大規模地震の発生に備えましょう。

南海トラフ地震臨時情報が発表されなくても、大規模な地震が発生することがあります。



※地震への備えの例：避難場所や避難経路の確認、家具の固定、水や食料の備蓄など

引用：静岡県広報紙 県民だより8月号より

以下の質問は、南海トラフ地震が発生する可能性が通常と比べて相対的に高まったと評価され、気象庁から「南海トラフ地震臨時情報」が発せられた場合を想定してお伺いします。

問 12 「南海トラフ臨時情報」が発表されることとなったことをご存知ですか。(〇は1つ)

1 知っている	15.6%	2 聞いたことはあるが内容は知らない	33.3%	3 知らない	49.1%
					2.1%

問 13 南海トラフ地震の臨時情報(巨大地震警戒)または臨時情報(巨大地震注意)が国から発せられた場合、地震への備えの再確認として、あなたが実施することを下記の項目の中から選び、〇をつけてください。(〇はいくつでも)

1 避難場所・避難経路の確認	56.5%	
2 家族との安否確認手段の確認	78.1%	
3 家具の固定の確認	31.9%	
4 食料・水・防災用品等の備蓄の確認	80.3%	
5 非常持出品の確認	61.7%	
6 その他(具体的に )	2.2%	
		1.2%

問 14 南海トラフ地震臨時情報(巨大地震警戒)が発せられた場合、国は、地震発生後では緊急避難することが困難と想定される住民に対して1週間の事前避難が呼びかけられます。南海トラフ地震臨時情報(巨大地震警戒)が発せられた場合、あなたは事前避難しますか。(〇は1つ)

1 事前避難する	24.8%	2 事前避難しない	46.6%	3 わからない	26.7%
----------	-------	-----------	-------	---------	-------

<問 14 で「2 事前避難しない」を選んだ方にお伺いします。> 2.0%

問 14-1 事前避難しない理由は何ですか。(〇はいくつでも) ←

1 地震発生後に避難を開始しても、津波等から避難することは可能と思うから	29.0%
2 地元の市や町の事前避難対象地域に指定されていないから	11.0%
3 自宅に十分な耐震性があることが確認済みだから	25.8%
4 事前避難すると、通勤や通学などの日々の生活が困難であるから	33.4%
5 近くに安全な避難場所がないから	11.0%
6 どこに避難したらよいか分からないから	11.8%
7 自分も含め、家族が避難先の環境に耐えられないと思うから	36.8%
8 その他( )	10.4%

1.0%

<問 14 で「1 事前避難する」を選んだ方にお伺いします。>

問 14-2 あなたやご家族は、どこへ避難しますか (〇は1つ)

1 市や町が指定した避難所	77.4%
2 上記以外の公的な施設	3.4%
3 親戚、知人宅	12.4%
4 ホテル・旅館等宿泊施設	3.0%
5 その他(具体的に )	1.9%

1.9%

#### 4 日ごろの防災対策について

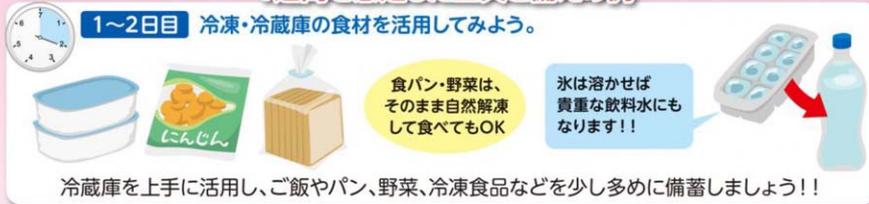
南海トラフ巨大地震のような大規模災害時、公的な支援物資はすぐに届かないかも知れません。また、スーパー・コンビニなどのお店にも人が殺到し、すぐ品切れになることも予想されます。家庭で自活するためにも、家庭において水・食料とも、1週間分以上の備蓄をお願いします。

まずはこちらをご覧ください。↓↓

### 水・食料は1週間以上!! 無理せず備蓄する「ローリングストック」を進めましょう!

#### 1週間を想定した工夫と備えの例

**1～2日目** 冷凍・冷蔵庫の食材を活用してみよう。



食パン・野菜は、そのまま自然解凍して食べてもOK

氷は溶かせば貴重な飲料水にもなります!!

冷蔵庫を上手に活用し、ご飯やパン、野菜、冷凍食品などを少し多めに備蓄しましょう!!

**3～7日目** ローリングストック法(回転備蓄)を使って非常食などを活用!!

**ローリングストック法とは?**

日常使う食材や非常用食料を、定期的に食べて、食べた分を買い直し備蓄していく方法。インスタントラーメンやレトルト食品も非常食として扱えます。



**備蓄しておくよいもの**

**缶詰**  
野菜や果物の缶詰で栄養補給ができます。

**フリーズドライ食品**  
スープ類は食欲がないときでも摂りやすい食品です。

※乾物や漬物、チョコレートなどのお菓子も災害時には貴重な食料となり得ます。

**!** 災害時は停電などのため、調理にはカセットコンロとガスボンベが欠かせません。

お気に入りのレトルト食品を災害時でもおいしくいただくために、カセットボンベの買い置きを少し多めに(15～20本程度)用意して、災害時に備えましょう!

非常時の買い占めよりも、普段の生活で食べるものを中心に、ローリングストックで、少しの努力で無理なく、おいしく、備えましょう!!



問 15 前ページで解説したローリングストックという備蓄方法を知っていましたか。

1 知っていた	55.9%	2 知らなかった	40.4%
		3.6%	

問 16 今、災害が発生したと仮定して、あなたのお宅では、利用できる食料は家族の何日分ありますか。

(該当箇所には○を1つ)

なし	1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日	8日	9日	10日	11日	12日	13日	14日	それ以上	2.2
3.0	4.5	14.5	34.8	7.2	9.7	4.8	11.5	0.5	0.7	3.5	0.2	0.0	0.2	0.9	2.0	

<問 16 で 7日未満(1~7を選択)を選んだ方にお伺いします。>

問 16-1 県では現在、各家庭で災害時に利用できる食料について、ローリングストック法も活用して、家族の7日分以上の用意を推奨しています。

あなたのお宅で現在のところ7日分以上の食料を用意してしないのはどのような理由からですか。(○は1つ)

1 手間がかかるから	8.6%
2 費用がかかるから	10.0%
3 何を準備するとよいかわからないから	12.0%
4 保管する場所がないから	17.5%
5 行政や自主防災組織が用意してくれると思うから	2.5%
6 南海トラフ地震が起こるとは思わないから	1.9%
7 7日分以上が必要とは思わないから	11.2%
8 避難する時に運べないから	11.2%
9 その他(具体的に )	6.9%

18.3%

問 16-2 地震が発生した場合、必要な食料をどのようにして確保しますか。(○はいくつでも)

1 地震が起きてから準備する	10.9%	2 南海トラフ地震臨時情報が発せられた後に準備する	39.2%
3 自主防災組織からもらう	18.8%	4 避難所でもらう	42.3%
5 考えていない	16.4%	6 その他(具体的に )	6.3%

5.6%

<問 16 で「1 なし」以外を選んだ方にお伺いします。>

問 16-3 災害時に利用できる食料として、何を用意していますか。(○はいくつでも)

1 非常食(アルファ化米、乾パン・缶詰等)を備蓄している	40.4%
2 日常的に利用する保存・調理が容易な食品(レトルト食品・インスタントラーメン・果物等)を備蓄している	62.7%
3 普段から多めに食料等を買うようにしている	20.8%
4 その他(具体的に )	3.4%

28.6%

<全ての方にお伺いします。>

問17 改めてお伺いします。あなたのお宅にある食料を全て利用すれば（家庭菜園等の収穫物も含む）  
家族1週間分の食料を確保できますか（〇は1つ）

1 できる	44.7%	2 できない	47.1%
-------	-------	--------	-------

問18 今、災害が発生したと仮定して、あなたのお宅では、利用できる飲料水は家族の何日分ありますか。 8.2%  
ご家族ひとり1日あたり3リットルで計算してください。（〇は1つ）

なし	1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日	8日	9日	10日	11日	12日	13日	14日	それ以上	3.9
6.8	11.6	17.5	20.2	7.9	6.3	5.0	10.5	1.3	1.9	3.4	0.2	0.4	0.1	0.7	2.3	3.9

<問18で7日未満(1~7を選択)を選んだ方にお伺いします。>

問18-1 県では現在、災害時に備えて、各家庭で家族の7日分以上の飲料水の用意を推奨しています。  
あなたのお宅で現在のところ7日分以上の飲料水を用意していないのはどのような理由からですか。  
（〇は1つ）

1 手間がかかるから	10.0%
2 費用がかかるから	7.2%
3 何を準備するとよいかわからないから	3.3%
4 保管する場所がないから	29.4%
5 行政や自主防災組織が用意してくれるから	2.6%
6 南海トラフ地震が起こると思わないから	2.0%
7 7日分以上が必要とは思わないから	10.4%
8 避難する時に運べないから	11.1%
9 その他（具体的に )	6.9%

17.1%

問18-2 地震が発生した場合、必要な飲料水を、どのようにして確保しますか。（〇はいくつでも）

1 地震が起きてから準備する	11.4%	2 南海トラフ地震臨時情報が発せられた後に準備する	36.7%
3 自主防災組織からもらう	20.5%	4 避難所でもらう	45.5%
5 考えていない	13.3%	6 その他（具体的に )	8.3%

<全ての方にお伺いします。>

5.4%

地震が発生すると、下水道施設等の被災により、自宅等のトイレが使用できなくなる恐れがあります。

問19 あなたのお宅では、何日分の携帯トイレ・簡易トイレを備蓄していますか。ご家族ひとり1日あたり5回分  
使用すると計算してください。（〇は1つ）

1 備蓄していない	65.5%	2 1~3日分	22.8%	3 4~6日分	5.6%	4 7日分以上	4.1%
-----------	-------	---------	-------	---------	------	---------	------

<問19で「1 備蓄していない」を選んだ方にお伺いします>

2.0%

問19-1 被災時にはどのような対応を想定していますか。（〇は1つ）

1 自宅のトイレが使えると思うから	17.8%
2 考えていない	61.7%
3 その他（具体的に )	18.6%

1.8%

<全ての方にお伺いします。>

問20 あなたのお宅では、地震に備えて家具類の固定をしていますか。(〇は1つ)

1 大部分固定している	23.4%
2 一部固定している	44.8%
3 固定していない	28.8%

<問20で「2 一部固定している」または「3 固定していない」を選んだ方にお伺いします。> 3.0%

問20-1 固定していない家具があるのはどのような理由からですか。(〇はいくつでも)

1 建物や家具を傷めるから	11.9%
2 手間がかかるから	32.4%
3 費用がかかるから	17.1%
4 家具類を置いていない安全な部屋があるから	22.7%
5 固定をしても被害は出ると思うから	15.9%
6 転倒・落下・移動しても危険ではないと思うから	8.4%
7 借家だから	4.6%
8 固定方法がわからないから	8.9%
9 部屋の見た目が悪くなるから	4.3%
10 タンスなどには下に重い物を、上に軽い物を収納しているから	4.2%
11 固定方法がわかっても自分で固定できないと思うから	6.7%
12 やろうと思っているが先延ばしにしているから	41.6%
13 地震が起きても転倒・落下・移動しないと思うから	3.8%
14 南海トラフ地震が起こると思わないから	1.1%
15 その他(具体的に )	6.7%

<全ての方にお伺いします。>

1.6%

問21 あなたのお宅では、ブロック塀や門柱などの安全性について点検していますか。(〇は1つ)

1 点検している	13.9%	2 点検していない	29.3%
3 ブロック塀や門柱などはない	53.9%		

<問21で「1 点検している」を選んだ方にお伺いします。>

3.0%

問21-1 点検結果はいかがでしたか。(〇は1つ)

1 安全であった	82.6%	2 安全ではない	9.4%
----------	-------	----------	------

<問21で「2 点検していない」を選んだ方にお伺いします。>

8.1%

問21-2 どのような理由からですか。(〇はいくつでも)

1 点検するまでもなく危険だから	4.5%	2 点検方法が分からないから	22.6%
3 費用がかかるから	12.4%	4 借家だから	2.9%
5 手間がかかるから	9.6%	6 点検しなくても大丈夫だと思うから	16.2%
7 防災対策をしても被害が出ると思うから	3.5%	8 南海トラフ地震が起こると思わないから	0.3%
9 その他(具体的に )			8.0%

<問21で「1 点検している」または「2 点検していない」を選んだ方にお伺いします。>

43.6%

問21-3 現在、静岡県では危険なブロック塀の撤去、改善に対して補助する制度がありますが、このことをご存じですか。(〇は1つ)

1 知っている	39.5%	2 知らなかった	56.4%
---------	-------	----------	-------

4.1%

<全ての方にお伺いします。>

問22 次にあげるものの中で、南海トラフ地震に備えて自宅や日常生活で実施している防災対策がありますか。

質問項目ごとに、A欄～D欄のどれか一つに○をお付けください。

(※D欄 質問項目は該当しないとは、例 家具を固定済、ガスを使っていない、石油ストーブなしなど)

質問項目	A欄 実施 している	B欄 1年以内に 実施する予定	C欄 実施して いない	D欄 質問項目は 該当しない	無回答
1 家具を何も置いていない部屋を寝室にしている	37.0%	2.1%	47.7%	5.4%	7.8%
2 ガスを使わないときには元栓を締めるようにしている	23.2%	1.5%	39.2%	28.9%	7.2%
3 火気器具のまわりに燃えやすいものを置かない	69.2%	1.8%	10.4%	10.4%	8.2%
4 石油ストーブは、耐震自動消火装置付きのものにしている	47.9%	0.2%	3.4%	41.5%	7.1%
5 風呂に水をためるようにしている（残り湯の活用を含む）	42.0%	1.8%	47.6%	2.0%	6.6%
6 消火器や水を入れたバケツなどを用意するようにしている	37.7%	2.6%	50.1%	1.6%	7.9%
7 ガラス飛散防止対策をしている	17.5%	3.1%	69.6%	1.8%	8.0%
8 防災用品（非常持出品を含む）を準備している	54.6%	12.1%	25.8%	0.7%	6.7%
9 棚の上に重いものを置かないようにしている	56.6%	3.4%	28.1%	2.1%	10.0%
10 割れたガラスから足を保護するためにスリッパ、靴などを用意している	56.7%	3.4%	30.6%	1.0%	8.3%
11 防災について家族内で話しあっている	38.6%	9.9%	40.3%	2.6%	8.7%
12 家の中で「とっさ」に逃げる場所を決めている	33.8%	7.5%	48.9%	1.3%	8.4%
13 家族と非常時の連絡方法を決めている	32.0%	13.3%	44.4%	1.9%	8.5%
14 地震の時に避難する場所を決めている	50.0%	6.5%	33.2%	0.9%	9.3%
15 家族が離ればなれになったとき落ち合う場所を決めている	28.8%	10.4%	49.1%	2.6%	9.0%
16 自宅や勤め先付近の安全な避難路を確認している	39.0%	8.5%	39.7%	2.9%	9.9%
17 幼稚園、小学校の児童の引き取り方法を決めている	14.9%	1.4%	9.8%	61.8%	12.1%
18 感震ブレーカー（揺れを感知して電気を止める器具）を設置している	21.8%	2.6%	62.3%	3.8%	9.4%
19 外出時には、携帯電話等の予備電池を携帯している	20.2%	5.5%	62.4%	3.4%	8.5%
20 防災アプリをダウンロードしている	33.4%	4.8%	48.6%	4.2%	9.0%

<問22で「8 防災用品（非常持出品を含む）を準備している」のA欄、B欄で○が付いた方にお伺いします。>

問22-1 非常持出品として何を用意している、もしくは用意する予定ですか。（○はいくつでも）

1 携帯ラジオ	68.2%	2 懐中電灯	93.3%	3 予備の乾電池	63.1%
4 ヘルメット・防災頭巾	41.3%	5 非常食	78.2%	6 飲料水	80.0%
7 ティッシュペーパー・トイレトペーパー	66.3%	8 スプーン・はし・カップ	39.2%		
9 下着・くつ下・着替え	45.0%	10 救急薬品・常備薬	50.1%	11 お薬手帳	25.0%
12 タオル	60.6%	13 軍手・手ぶくろ	66.3%	14 現金	38.5%
15 雨具	36.0%	16 毛布又は寝袋	30.7%	17 ビニール袋	49.2%
18 筆記用具・ノート	27.1%	19 ライター・マッチ	35.6%	20 ナイフ・缶切り	27.5%
21 生理用品・おむつ	24.4%	22 くつ・スリッパ	39.4%	23 携帯電話のバッテリー充電器	41.5%
24 カセットコンロ	43.6%				

1.1%

<全ての方にお伺いします。>

問23 あなたのお宅は建物や家財に関わる、どのような保険に加入していますか。(〇はいくつでも)

1 地震保険	54.7%
2 火災保険	65.8%
3 家財等の保険	31.6%
4 加入していない	6.8%
5 わからない	9.8%

<問23で「1 地震保険」を選ばなかった方にお伺いします。>

2.4%

問23-1 地震保険に加入していない理由は何ですか。(〇はいくつでも)

1 保険料が高いから	40.9%	2 地震が起きても建物被害を受けないと思うから	5.6%
3 地震保険だけでは、家を再建できないと思うから	22.2%	4 借家だから	11.3%
5 地震は起こらないと思うから	0.6%	6 地震保険の内容がよくわからないから	14.8%
7 地震保険の加入を勧められなかったから	7.0%	8 どこに相談したらよいかわからなかったから	4.3%
9 その他(具体的に		)	11.1%

13.6%

<全ての方にお伺いします。>

問24 あなたは、防災対策を検討する際に具体的に相談したいのはどこですか(〇はいくつでも)

1 地元の消防団	8.2%	2 地元の自主防災組織(町内会)	28.5%
3 国	5.5%	4 県	8.9%
5 市町	41.3%	6 勤務先	6.4%
7 防災ボランティア	6.2%	8 防災士	8.1%
9 学校	1.8%	10 近所の人	12.8%
11 地元の警察署	2.7%	12 家族や知人	28.5%
13 その他(具体的に)	1.8%	14 特になし	17.5%

4.1%

問25 地震が発生したときの避難のため、市町はあらかじめ避難地や避難所を指定していますが、あなたの住む地域の避難地をご存知ですか。(〇は1つ)

1 どこが避難地や避難所であるか知っている	88.7%
2 避難地や避難所があることは知っているが場所は知らない	7.0%
3 全く知らない	2.5%

1.8%

5 住宅の耐震補強について

昭和56年以前の耐震基準で建築された木造住宅は、南海トラフ地震等が発生した場合には、立地する地盤等にもよりますが、大きな被害を受ける可能性が指摘されています。このことを踏まえた上でお答えください。

問26 あなたのお住まいの家は、次のどれにあたりますか。(〇は1つ)

1 木造住宅	71.1%
2 鉄骨造住宅	17.9%
3 鉄筋コンクリート造住宅	8.3%

⇒木造住宅以外の方は、問27へ進んでください。 2.7%

<問26で「1 木造住宅」を選んだ方にお伺いします。>

問26-1 あなたのお住まいの「木造住宅」は、いつ建てられた住宅ですか。(〇は1つ)

1 昭和56年5月以前	25.4%	2 わからない	3.7%	3 昭和56年6月以降	69.6%
-------------	-------	---------	------	-------------	-------

⇒「2」わからない、「3 昭和56年6月以降」の方は、問27へ進んでください。 1.3%

<問26-1で「1 昭和56年5月以前」を選んだ方にお伺いします。>

問26-2 昭和56年5月以前に建てられた木造住宅の耐震診断を、地元市町が無料で実施していることを知っていますか。(〇は1つ)

1 知っている	63.9%	2 知らない	35.6%
---------	-------	--------	-------

0.5%

問26-3 今後、あなたのお住まいの住家を耐震化をする場合、県や市町に対して要望することがあります。次の中からあてはまるものをお選びください。(〇はいくつでも)

1 相談窓口の設置	27.3%	2 地区ごとの説明会の実施	16.5%
3 専門家の派遣	20.6%	4 耐震補強工事に対する助成制度の拡充	53.1%
5 低金利資金による貸付	16.5%	6 アパート等のオーナーに対する指導	1.5%
7 なぜ危険なのかを示した詳細な説明パンフレット	16.5%		

14.9%

問26-4 耐震診断をしたことがありますか。(〇は1つ)

1 ある	29.9%	2 検討中	7.7%	3 ない	61.9%
------	-------	-------	------	------	-------

0.5%

<問26-4で「3 ない」を選んだ方にお伺いします。>

問26-5 耐震診断をしないのはなぜですか。(〇はいくつでも)

1 診断方法がわからないから	22.5%	2 手間がかかるから	25.0%
3 費用がかかるから	38.3%	4 診断しても大地震の被害は避けられないと思うから	48.3%
5 南海トラフ地震等が起こると思わないから	2.5%	6 借家だから	6.7%
7 住んでいる家は安全につくってあり、診断は必要と思わないから	5.0%		
8 その他(具体的に )	13.3%		

0.8%

現在、静岡県では木造住宅の耐震化促進事業『プロジェクト「TOUKAI（倒壊）-0（ゼロ）』を推進しています。これは地震による被害を減らすため、昭和56年5月以前に建設された旧建築基準の木造住宅（約38万戸）の耐震化を促進し、安全性を確保するため進めている事業です。この事業内容は①専門家による無料耐震診断 ②耐震補強計画策定への補助 ③耐震補強工事への補助の3つの項目からなっています。

<全ての方にお伺いします。>

問27 あなたは『プロジェクト「<sup>トウカイ</sup>TOUKAI（倒壊）-0（ゼロ）」』をご存知ですか。（〇は1つ）

1 知っている	16.2%	2 名前だけしか知らない	14.5%	3 知らなかった	66.8%
2.4%					

<問27で「1 知っている」を選んだ方にお伺いします。>

問27-1 あなたは『プロジェクト「<sup>トウカイ</sup>TOUKAI（倒壊）-0（ゼロ）」』をどのようにして知りましたか。（〇はいくつでも）

1 新聞記事	33.3%	2 県や市町の広報誌	63.2%	3 県や市町のパンフレット	26.4%
4 県や市町に直接聞いた	8.6%	5 自主防災新聞	1.7%	6 テレビ・ラジオ	26.4%
7 回覧板	14.9%	8 県のホームページ	5.7%	9 市町のホームページ	4.0%
10 市町からのアンケート調査	5.2%				

0.6%

問27-2 あなたは『プロジェクト「<sup>トウカイ</sup>TOUKAI（倒壊）-0（ゼロ）」』を活用して取り組んだ行動はありますか。（現在行っている場合を含む）次の中からあてはまるものをお選びください。（〇はいくつでも）

1 簡易耐震診断を自分で行った	3.4%
2 専門家による耐震診断を実施した	9.8%
3 自宅の耐震補強計画を作成した	1.7%
4 自宅の耐震補強工事を実施した	7.5%
5 今後、自宅の耐震補強をしたいと考えている	10.3%
6 今の自宅を建て替えることにした	2.9%
7 新しい建築基準で建築したので、特に何もしていない	44.3%
8 昭和56年5月以前に建築された住宅だが、特に何もしていない	6.9%
9 自宅は木造住宅ではないので、特に何もしていない	11.5%
10 借家なので、何もしていない	1.7%
11 その他（ ）	4.0%

6.9%

## 6 自主防災組織・防災訓練について

<全ての方にお伺いします。>

問28 あなたは、地域の自主防災組織に入っていますか。(〇は1つ)

1 入っている	44.4%	2 入っていない	36.5%
3 自主防災組織はない	0.5%	4 わからない	14.4%

4.2%

<問28で「1 入っている」を選んだ方にお伺いします。>

問28-1 あなたは、どのような自主防災組織の活動に参加していますか。(〇は1つ)

1 自主防災組織の会長や副会長、防災委員など、自主防災組織の役員として参加している	11.8%
2 役員以外の自主防災組織内で定まった役割(消火班、避難誘導班など)で参加している	16.8%
3 自主防災組織内で定まった役割はないが、防災訓練など何らかの活動に参加している	65.1%
4 参加していない	5.3%

1.1%

問28-2 あなたの地区の自主防災組織の活動は活発と思いますか。(〇は1つ)

1 活発である	14.3%
2 まあまあ活発である	51.5%
3 あまり活発ではない	23.9%
4 活発ではない	5.3%
5 わからない	4.6%

0.4%

<全ての方にお伺いします。>

問29 あなたは、過去1年間に、地域や職場の地震防災訓練に参加したことがありますか。(〇はいくつでも)

1 総合防災訓練(9月1日前後の8~9月に実施)に参加した	33.6%
2 地域防災訓練(12月第一日曜日を中心に11~12月に実施)に参加した	41.8%
3 その他の防災訓練に参加した	13.8%
4 参加の機会がなかった(訓練はなかった)	4.8%
5 参加しなかった	29.3%

3.9%

<問29で「1 総合防災訓練(9月1日前後の8~9月に実施)に参加した」「2 地域防災訓練(12月第一日曜日を中心に11~12月に実施)に参加した」「3 その他の防災訓練に参加した」のいずれかを選んだ方にお伺いします。>

問29-1 防災訓練はどちらで参加しましたか。(〇はいくつでも)

1 自主防災組織(町内会)での訓練に参加した	81.6%
2 職場や学校での訓練に参加した	33.4%
3 その他(訓練の実施主体を具体的に )	1.0%

0.6%

問29-2 参加して、どのようなことを感じましたか。(〇はいくつでも)

1 防災の大切さを知る機会となった	41.3%
2 災害時に自らが取るべき行動について知る機会となった	39.1%
3 災害時の防災組織の活動について知る機会となった	30.1%
4 家庭で防災について話し合いをするきっかけとなった	19.0%
5 参加者が限られているので、より多くの人が参加できるようにするよと思った	20.2%
6 訓練内容がマンネリ化やイベント化していた	39.8%
7 住民・企業・ボランティアなど地域全体の連携がとれていなかった	4.0%
8 その他(具体的に )	3.4%

1.2%

<問29で「5 参加しなかった」を選んだ方にお伺いします。>

問29-3 参加しなかった理由は何ですか。(〇はいくつでも)

1 仕事や用事があったから	65.6%	2 訓練実施を知らなかったから	10.2%
3 面倒だったから	13.1%	4 参加の必要性を感じないから	5.7%
5 毎回同じ訓練内容だから	13.4%	6 具体的な日時・場所・参加方法がわからなかったから	7.6%
7 関心・興味がなかったから	3.8%	8 時間的に拘束されると思ったから	7.0%
9 自分は災害に遭わないと思ったから	0.3%		
10 その他(具体的に )	12.1%		

1.9%

7 避難所について

<全ての方にお伺いします。>

問30 災害により、自宅が損壊した場合やライフライン（電気・ガス・水道等）が使えない場合、あなたはどこで避難生活をしますか。（○は1つ）

1 避難所	25.1%	2 自宅での生活が可能であれば自宅	56.9%
3 親戚・知人宅等	5.0%	4 車中泊（自家用車等）	3.2%
5 わからない	3.1%	6 その他（具体的には	0.7%

6.1%

問30-1 また、上記避難先を選んだ理由はなぜですか。（○は1つ）

1 物資が貰えるから	10.1%	2 自宅は耐震化しており、備蓄があるから	14.6%
3 プライバシーを確保したいから	27.1%	4 周りに迷惑をかけるから	6.8%
5 その他（具体的には	5.2%		

<問30で「1 避難所」を選んだ方にお伺いします。>

36.2%

→問30-2 避難所の運営は基本的に、そこで生活する避難者が行うということを知っていますか（○は1つ）

1 知っていた	43.5%	2 知らなかった	55.0%
---------	-------	----------	-------

1.5%

問31 あなたが避難所で避難生活を送るとしたら、どのようなことが心配ですか。  
次の1～12の質問項目ごとに、該当するものに○をつけてください。

質問項目	非常に心配	ある程度心配	あまり心配はない	全く心配していない	該当しない	無回答
1 食料や水	36.6	40.0	15.3	2.0	0.2	6.0
2 日用品（毛布や下着など）	29.1	48.7	14.1	1.3	0.2	6.6
3 自分や家族が病気になったときの医療	51.6	33.9	6.5	0.6	0.3	7.1
4 乳幼児、高齢者、体の不自由な家族がいるので、他の人と共同生活できるか心配	25.5	18.7	10.3	1.9	34.9	8.7
5 洗濯や入浴	40.8	43.2	9.0	0.8	0.2	6.0
6 トイレ	56.8	31.8	5.3	1.0	0.1	5.0
7 衛生状態や精神的なストレス等による体調の悪化	53.6	31.3	7.8	0.9	0.1	6.2
8 プライバシーの確保	53.2	30.8	8.9	1.0	0.3	5.9
9 所在不明の家族や親戚などの安否	58.3	24.0	6.5	0.4	2.9	7.8
10 ペット（犬や小鳥など）の同伴	21.2	7.4	4.3	1.5	56.7	9.0
11 避難生活の長期化	58.7	28.0	5.4	0.9	0.7	6.2
12 割り当てられる避難スペース（面積等）	44.3	39.0	9.1	0.9	0.4	6.3

## 8 その他

問32 次の1～8の質問項目についてそれぞれ該当する欄に○をつけてください。

質問項目	はい	いいえ	無回答
1 「自主防災新聞」を読んだことがある	26.7%	70.5%	2.8%
2 地震体験車（起震車）などで地震の疑似体験をしたことがある	48.2%	49.3%	2.5%
3 11月が地震防災強化月間であることを知っている	27.1%	70.0%	2.9%
4 「静岡県地震対策推進条例」があることを知っている	17.2%	79.6%	3.2%
5 災害図上訓練「DIG」を体験したことがある	5.4%	91.7%	2.9%
6 避難所運営ゲーム「HUG」を体験したことがある	4.3%	92.6%	3.1%
7 災害を受ける危険度を示した地図（ハザードマップなど）で自宅を確認したことがある	59.9%	37.4%	2.7%
8 スマートフォン向け総合防災アプリ『静岡県防災』を知っている	34.2%	62.7%	3.1%

### 自主防災新聞



### 家庭内DIG リーフレット



### 静岡県総合防災アプリ『静岡県防災』リーフレット



問33 あなたは、今後、県や市町が行う防災対策について、要望することがありますか。次の中からあてはまるものをいくつかもお答えください。(〇はいくつでも)

1	防潮堤、防波堤、水門等の整備	31.0%
2	津波避難ビルの指定や避難タワー等、津波避難施設の整備	28.0%
3	海岸から高台へ避難するための避難路等の整備	21.3%
4	避難路上の安全性確保(障害物撤去、夜間照明の設置など)	45.1%
5	津波避難看板、海拔表示の設置	15.9%
6	山・がけ崩れ防止施設の整備	30.7%
7	自主防災組織の活性化に向けた支援	25.6%
8	防災に関する公開講座、研修会等の実施	13.1%
9	学校での防災教育の促進	20.0%
10	防災訓練の実施強化	14.7%
11	災害時要援護者支援計画の策定促進	13.9%
12	帰宅困難者対策の促進	22.3%
13	ハザードマップの作成、配布	39.0%
14	水・食料の備蓄の強化	67.3%
15	同報無線等による緊急時の情報伝達の強化	43.1%
16	防災に関する情報提供の充実	42.8%
17	在日及び訪日外国人への情報提供手段の整備	11.8%
18	その他(具体的に )	5.9%

4.8%

お疲れ様でした。  
質問は以上で終了です。ご協力ありがとうございました。